

# FUJITSU

## SIMPLIA/TF-LINDA

### オンラインマニュアル

(テストデータ作成・更新・検証ツール)

SIMPLIA/TF-LINDA  
SUPPORT PROGRAM LIBRARIES FOR APPLICATION SYSTEM



FUJITSU



Windows版  
SIMPLIA/TF-LINDA V60L10  
オンラインマニュアル

第 1.0 版  
平成14年06月

## はじめに

SIMPLIA/TF-LINDA(SIMple development and maintenance support Program Libraries for Application system/Testing Facility of Logical INformation support tool of DATaset 以降、TF-LINDAと略します)は、開発支援システムの1つであり、Windows(R)/Windows NT(R)のGUIを用いた簡単な会話形式により、一般ファイルのデータ作成・更新・検証を支援します。

## ヘルプを読むために

- HTML3.2をサポートするWWWブラウザ（インターネットエクスプローラ V3.02以降、Netscape NavigatorV4.03以降）をお使いください。
- 本オンラインマニュアルでは「COBOL85」、「COBOL97」、「NetCOBOL」を総称して、「COBOL」と表記しています。「COBOL85」、「COBOL97」、または「NetCOBOL」とLINDAの関係については「ソフトウェア説明書」を参照してください。

## 登録商標について

本オンラインマニュアルで使われている登録商標及び商標は、以下のとおりです。

- Microsoft、Windows、WindowsNTは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

## 略記について

本オンラインマニュアルでは、各製品を次のように略記しています。

「Microsoft(R) Windows(R) 95 operating system」	「Windows(R)」または「Windows(R) 95」
「Microsoft(R) Windows(R) 98 operating system」	「Windows(R)」または「Windows(R) 98」
「Microsoft(R) Windows(R) Millennium Edition」	「Windows(R)」または「Windows(R) Me」
「Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation operating system Version 4.0」	「Windows NT(R)」または、「Windows NT(R) 4.0」

「Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network operating system Version 4.0」		「Windows NT(R)」または、「Windows NT(R) 4.0」
「Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network operating system Version 4.0, Terminal Server Edition」		「Windows NT(R)」、「Windows NT(R) 4.0」または、「Windows NT(R) 4.0 T.S.E.」
「Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network operating system, Enterprise Edition Version 4.0」		「Windows NT(R)」、「Windows NT(R) 4.0」または、「Windows NT(R) 4.0 E.E.」
「Microsoft(R) Windows 2000 Professional operating system」		「Windows(R) 2000」または、「Windows(R) 2000 Professional」
「Microsoft(R) Windows 2000 Server operating system」		「Windows(R) 2000」または、「Windows(R) 2000 Server」
「Microsoft(R) Windows 2000 Advanced Server operating system」		「Windows(R) 2000」または、「Windows(R) 2000 Advanced Server」
「Microsoft(R) Windows(R) XP Professional operating system」		「Windows(R) XP」または、「Windows(R) XP Professional」
「Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition operating system」		「Windows(R) XP」または、「Windows(R) XP Home Edition」
「Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network operating system Version 4.0」		「Windows NT(R) Server」
「Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network operating system Version 4.0, Terminal Server Edition」		「Windows NT(R) Server」
「Microsoft(R) Windows NT(R) Server Network operating system, Enterprise Edition Version 4.0」		「Windows NT(R) Server」
「Microsoft(R) Windows NT(R) Workstation operating system Version 4.0」		「Windows NT(R) Workstation」
「Windows(R) 95」、「Windows(R) 98」、「Windows(R) Me」、「Windows NT(R)」、「Windows(R) 2000」または「Windows(R) XP」		「Windows(R)」

システム開発におけるテスト工程は、その品質と信頼性を左右する重要な要素の一つです。

テスト工程では、個々のプログラムあるいはシステム全体の稼働確認を行います。このテスト工程はさらに、テスト環境の作成からテスト結果の検証までいくつかの作業に分類することができます。これらの作業の中で特に時間と費用が必要となる作業がテストデータの作成作業とテスト結果の検証作業です。TF-LINDAは、この2つの作業を正確かつ迅速に行えるよう支援します。

TF-LINDAの使用による効果

- テスト作業で使用するテストデータ作成の効率化
- テスト結果の検証作業の効率化

## 特徴

TF-LINDAには以下の特徴があります。

### データ項目単位に表示する見やすい画面

画面上に、COBOL登録集（または、YPSインクルード仕様書・ファイル定義体・レイアウト定義ファイル）のデータ項目名/項目属性に応じた形式で、データを表示するため、データ内容を容易に確認、また作成ができます。

### 使いやすいユーザインタフェース

データを複数の形式(一覧形式画面/レコード形式画面)で表示します。これにより、テストデータの作成、更新が容易に行えます。

### COBOL Workbenchとの連携

Windows (R) /Windows NT (R) 上のCOBOL統合開発環境であるCOBOL Workbenchと連携することにより、開発作業の標準化、また開発効率・保守性が向上します。

## 操作可能ファイル

TF-LINDAで扱えるファイル編成や操作を以下に示します。

ファイル種類	利用可能な操作
COBOLに準拠した順ファイル	新規作成、追加、更新、表示
COBOLに準拠した行順ファイル	新規作成、追加、更新、表示
COBOLに準拠した索引ファイル	新規作成、追加、更新、表示
COBOLに準拠した相対ファイル	新規作成、追加、更新、表示
一般ファイル(順ファイルかつ固定長)	新規作成、追加、更新、表示

## 主な機能

ここでは、Windows ( R ) /Windows NT ( R ) 上のデータファイルを扱う場合の機能について説明します。  
以下に主な機能を示します。

COBOL登録集、YPSインクルード仕様書、ファイル定義体、レイアウト定義ファイルからのフォーマット解析

COBOL登録集（または、YPSインクルード仕様書・ファイル定義体・レイアウト定義ファイル）から、レコードフォーマットを解析します。制御文やレコード定義体等によるわずらわしい定義は不要です。

### ファイル操作環境の自動保存

ファイル情報、使用したCOBOL登録集（または、YPSインクルード仕様書・ファイル定義体・レイアウト定義ファイル）情報および、アイテムセレクト情報をファイル単位で自動保存しています。そのため、一度操作したファイルについては、上記情報を再度設定しなおす必要はありません。

### 抽出条件によるデータの絞り込み

既存のデータファイル进行操作する場合、編集対象データをレコード単位で絞り込むことができます。その方法は、以下に示す3通りです。

#### 全件抽出

既存データ全てを編集対象とします。

#### 格納順範囲抽出

レコードの物理的並び順での範囲設定で編集対象レコードを絞り込みます。

#### データ条件

データ項目に対するデータ条件で編集対象レコードを絞り込みます。

### 各種コード対応

TF-LINDAでは各種コード体系のデータに対応しており、それぞれのコードで表示/編集/印刷することができます。また、ADJUSTがインストールされている場合、コード変換処理にADJUSTを使用することも可能です。

対応しているコード体系	ASCIIコードおよびシフトJISコードで作成されたデータ
	EBCDIC(カナ)コードおよびJEF日本語コードで作成されたデータ
	EUCコードで作成されたデータ
	Unicodeで作成されたデータ

### データ編集時の画面形式

編集する画面形式には以下に示す2種類があり、双方への画面切り替えが可能です。

#### レコード形式画面

1レコード単位での表示/編集であり、任意のデータ項目を選択して更新することができます。また、レコードの挿入/追加/複写/削除処理もこの画面にて行うことができます。

#### 一覧形式画面

複数レコードを表形式の一覧形式画面に表示することができ、任意のデータ項目を選択して更新することができます。

#### アイテムセレクト機能

表示または、編集したいデータ項目の選択やレコード情報を切り替えることができます。実際に設定できる機能は以下に示す4つになります。

#### レコードフォーマット切り替え

COBOL登録集ファイル内に01レベルのデータ項目が複数存在する場合、各フォーマットに切り替えることができます。

#### OCCURS句展開

レコードフォーマット切り替えにより選択したレコード内にOCCURS句が存在する場合、そのデータ項目に対し、配列分展開して表示/更新することができます。

#### 項目選択

レコードフォーマット切り替えにより選択したレコードのデータ項目一覧から、操作（検証）したい項目だけを、選択することが可能です。集団項目を指定することも可能です。

#### 再定義属性の切り替え

REDEFINES指定の項目に対し、再定義のデータ属性に切り替えることができます。

#### 16進編集

各データ属性にそった表示/編集だけでなく、16進数による表示/編集も可能です。

#### 別データファイルへ保存

編集（抽出）中のデータ内容を別のデータファイルへ保存できます。  
この際、新たに作成されるデータファイルは、ファイル編成・レコード形式ともに編集中のものと同じ形式となります。

#### MDPORT連携機能

SIMPLIA/TF-MDPORT(以降、MDPORTと略します)をインストールしている場合、編集中のデータ内容を、異なるコード/ファイル編成のデータファイル、CSV形式、またはXML形式に変換して出力することができます。

また、CSV形式ファイル、XML形式ファイルを編集画面に取り込むことができます。

#### データソート機能

PowerSORTをインストールしている場合、編集（抽出）中のデータ内で、指定したデータ項目をキーとしてソートすることができます。

#### データ生成機能

データ項目単位にデータ生成条件を指定することにより、テストデータを自動生成することができます。データ生成は、以下の機能で指定可能です。

#### レコード挿入/最後に追加

自動生成したデータが埋め込まれたレコードを挿入/追加します。

#### レコード複写

既存レコードの一部を自動生成したデータに置き換えたレコードを複写します。

#### データ一括更新

既存レコードの1データ項目を自動生成したデータに置換します。

#### 印刷機能

編集集中のデータ内容を一覧形式イメージで印刷することができます。ヘッダ/フッタやデータの16進数値等を付加して印刷することも可能です。  
また、印刷イメージをプレビュー画面で確認することもできます。

#### 検索機能

検索機能には大きく別けて以下の2つの機能があります。

#### データの検索

1項目内で特定の文字列/数値データを探し出す検索と、16進数による検索が可能です。

#### 項目の検索

項目名を指定することにより、その項目を編集画面の先頭に位置づけて表示します。項目数が多い場合に便利です。

#### 置換機能

1項目内で特定の文字列データを検索して置き換える置換と、16進数による置換が可能です。

#### ドラッグ&ドロップ機能のサポート

TF-LINDA初期画面にデータファイルをドラッグ&ドロップすることで、操作したいデータファイルを指定することができます。

#### ファイル名を指定して実行

コマンドラインから、データファイル名を指定してTF-LINDAを起動することができます。

#### 例) DOSプロンプトからの起動

```
C:\SIMPLIA\TF-LINDA> TFLIN32.EXE sample\copyt1.dat
```

#### 例) ファイル名を指定して実行による起動

```
C:\SIMPLIA\TF-LINDA\TFLIN32.EXE sample\copyt1.dat
```

#### バックアップ機能

データファイル更新処理の際、更新前のデータファイルを別フォルダに退避することができます。

#### COBOL Workbench連携機能

COBOL Workbench上の開発手順フローからの起動ができ、作業の効率化が図れます。

#### バイナリアクセス

COBOLファイル以外のファイル（順編成で固定長）に対してアクセスする機能です。（COBOLがインストールされていない環境で利用できます）



## ファイル（F）メニューコマンド

ファイル（F）メニューコマンドについて説明します。

### データファイルの新規作成（N）

データファイルを新規作成したい場合に、このコマンドを実行します。

[実行可能条件]：初期画面

### データファイルを開く（O）

既存のデータファイルを操作したい場合に、このコマンドを実行します。また、ここでは新規のデータファイルを指定することもできます。

[実行可能条件]：初期画面

### 別データファイルへ保存（A）

編集中のデータ内容を別のファイルへ同一のファイル属性で保存します。

[実行可能条件]：レコード形式画面、一覧形式画面

### 保存して閉じる（S）

データファイルの更新を行い、初期画面に戻ります。その際、更新件数確認のメッセージが表示されます。変更データが存在しない場合は、なにもせずに初期画面に戻ります。

[実行可能条件]：レコード形式画面、一覧形式画面

### 保存しないで閉じる（C）

初期画面に戻ります。変更データが存在する場合は、保存するかどうかのメッセージボックスが表示されます。

[実行可能条件]：レコード形式画面、一覧形式画面

### 印刷ページ設定（U）

印刷に関する各種設定を行います。

[実行可能条件]：レコード形式画面、一覧形式画面

### 印刷プレビュー（V）

印刷イメージを画面上で確認することができます。

[実行可能条件]：レコード形式画面、一覧形式画面

### 印刷（P）

編集中のデータを一覧形式イメージで印刷することができます。

[実行可能条件]：レコード形式画面、一覧形式画面

## ファイル一覧

過去に操作したデータファイル名が最新のものから最大5件表示されます。  
このコマンドを実行することにより、「ファイルを開く」ダイアログボックスを迂回することができます。

[実行可能条件]：初期画面

## SIMPLIA/TF-LINDAの終了（X）

ツールを終了します。変更データが存在する場合は、保存するかどうかのメッセージボックスが表示されます。

[実行可能条件]：初期画面、レコード形式画面、一覧形式画面

## データ操作 (D) メニューコマンド

データ操作 (D) メニューコマンドについて説明します。

### やり直し (U)

1レコード単位で変更データを元の値に戻します。ただし、データ変更後、他のレコードへ移動すると、その時点で「やり直し(U)」ができなくなります。

[実行可能条件] : レコード形式画面

### レコード挿入 (I)

現在、表示しているレコードの前にレコードを挿入します。一度に複数件の挿入が可能です。また、自動生成機能を利用することにより、あらかじめ値が設定されたレコードを挿入することができます。

[実行可能条件] : 順/行順編成ファイル操作時のレコード形式画面

### 最後に追加 (A)

存在するレコードの一番後ろにレコードを追加します。一度に複数件の追加が可能です。また、自動生成機能を利用することにより、あらかじめ値が設定されたレコードを追加することができます。

[実行可能条件] : 順/行順編成ファイル操作時のレコード形式画面

### レコード追加 (A)

レコードを1件追加します。追加処理後のレコードの並びは、索引ファイルの場合は主キーの昇順、相対ファイルの場合は相対レコード番号の昇順となります。

[実行可能条件] : 索引/相対編成ファイル操作時のレコード形式画面

### レコード複写 (C)

・順 / 行順編成ファイル操作時は、現在表示中のレコードを複写位置で指定された位置に挿入複写します。複写位置に“ゼロ”を指定すれば最後尾に追加複写します。また、一度に複数件の複写が可能です。また、自動生成機能を利用することにより、指定した項目値を自動生成値に置きかえたレコードを複写することができます。

・索引 / 相対編成ファイル操作時は、現在表示中のレコードを1件複写します。追加処理後のレコードの並びは、索引ファイルの場合は主キーの昇順、相対ファイルの場合は相対レコード番号の昇順となります。

[実行可能条件] : レコード形式画面

### レコード削除 (D)

現在、表示中のレコードを削除します。この処理によって削除されたレコードは、「レコード復元(R)」コマンドによって復元することができます。順 / 行順編成ファイル操作時は、一度に複数件の削除が可能です。

[実行可能条件] : レコード形式画面

### レコード復元 (R)

「レコード削除(D)」コマンドによって削除したレコードを表示した状態でこのコマンドを実行するとレコード削除する前の状態に戻すことができます。一度に1件しか復元できません。

[実行可能条件] : レコード形式画面

## 編集（E）メニューコマンド

編集（E）メニューコマンドについて説明します。

### 16進編集（H）

16進数によるデータの表示/編集を行います。現在、カーソルの存在するデータ項目が処理対象となります。

[実行可能条件]：レコード形式画面、一覧形式画面

### Unicode編集（U）

指定の列をUnicodeで編集します。Unicodeフォントを指定することで、Unicode文字を表示/入力することができます。

[実行可能条件]：データファイルのコード情報がUnicode時のレコード形式画面、一覧形式画面

### データ一括更新（P）

自動生成機能を利用し、指定したデータ項目のデータを自動生成値に置き換えます。

[実行可能条件]：レコード形式画面、一覧形式画面

## 検索 (S) メニューコマンド

検索 (S) メニューコマンドについて説明します。

## 前レコード (P)

現在表示しているレコードの1つ前のレコードを表示します。

[実行可能条件] : [レコード形式画面](#)

## 次レコード (N)

現在表示しているレコードの1つ次のレコードを表示します。

[実行可能条件] : [レコード形式画面](#)

## レコード番号による指定 (J)

指定されたレコード番号のレコードを表示します。

[実行可能条件] : [レコード形式画面](#)

## 先頭レコード (T)

先頭レコードを表示します。

[実行可能条件] : [レコード形式画面](#)

## 最終レコード (B)

最終レコードを表示します。

[実行可能条件] : [レコード形式画面](#)

## 検索 (F)

指定した文字列/数値により、特定項目内から合致するデータを検索します。

[実行可能条件] : [一覧形式画面](#)

## 16進データの検索 (H)

指定した16進数と合致するデータを検索します。

[実行可能条件] : [一覧形式画面](#)

## 前候補 (U)

カーソル位置より前に向かって検索を行います。検索対象となるデータは、検索または、16進データの検索で指定した値です。また、現在カーソルが位置づけられているデータは、検索対象外です。

[実行可能条件] : [一覧形式画面](#)

## 次候補 (D)

カーソル位置より後ろに向かって検索を行います。検索対象となるデータは、検索または、16進データの検索で指定した値です。また、現在カーソルが位置づけられているデータは、検索対象外です。

[実行可能条件] : [一覧形式画面](#)

## 項目名の検索 (I)

指定した項目名を画面の先頭に表示します。

[実行可能条件] : [一覧形式画面](#)

## 置換 (R)

指定した文字列/数値により、特定項目内から合致するデータを検索し、置換後の文字列に指定した文字列/数値に置換します。

[実行可能条件]：[一覧形式画面](#)

16進データの置換（E）

指定した16進数と合致するデータを検索し、置換後の16進数データに指定した16進数に置換します。

[実行可能条件]：[一覧形式画面](#)

## 表示 (V) メニューコマンド

表示 (V) メニューコマンドについて説明します。

### 一覧形式画面 (T)

データ編集画面をレコード形式画面から一覧形式画面に切り替えます。その際、レコード形式画面で表示していたレコードを先頭にして一覧表示します。

[実行可能条件] : レコード形式画面

### レコード形式画面 (R)

データ編集画面を一覧形式画面からレコード形式画面に切り替えます。その際、一覧形式画面でフォーカスが設定されているレコードを表示します。

[実行可能条件] : 一覧形式画面

### フォントの指定 (F)

ビュー上の文字フォントを指定することができます。初期状態では、「MS ゴシックの9ポ」に設定されています。

[実行可能条件] : 初期画面、レコード形式画面、一覧形式画面

### 表示形式の変更 (A)

以下に示す領域の表示/非表示を設定します。

- ・レベル番号(L)
- ・属性(A)
- ・相対番号(N)
- ・ツールバー(T)
- ・ステータスバー(S)

[実行可能条件] : 初期画面 (ツールバー、ステータスバーのみ)、レコード形式画面、一覧形式画面 (レベル番号除く)

### アイテムセレクト (I)

表示/編集したいデータ項目を選択します。詳しくは以下のような処理が可能です。

- ・レコードフォーマットの指定
- ・OCCURS句展開表示/非展開表示
- ・表示項目の選択
- ・被再定義項目/再定義項目の切り替え

[実行可能条件] : レコード形式画面

### キー情報表示 (K)

レコードキー情報を表示します。索引編成ファイルの時のみ選択可能です。

[実行可能条件] : レコード形式画面、一覧形式画面



## オプション（O）メニューコマンド

オプション（O）メニューコマンドについて説明します。

## 環境設定（P）

TF-LINDAが動作する上での各種設定を行います。設定可能な項目群は、以下のものです。

- ・フォルダ設定
- ・作業環境
- ・バックアップ
- ・フォーマット解析方法
- ・コード変換情報
- ・表示形式

[実行可能条件]：初期画面

## MDPORT連携（M）

- ・インポート  
SIMPLIA/TF-MDPORTの機能を利用し、CSV形式、XML形式のファイルを取り込むことができます。
- ・エクスポート  
編集中のデータ内容を、SIMPLIA/TF-MDPORTの機能を利用し、異なるコード/ファイル編成または、データファイル形式、CSV形式、XML形式に変換して出力します。

[実行可能条件]：レコード形式画面、一覧形式画面

## データソート（S）

PowerSORTの機能を利用し、指定したデータ項目をキーとしてソートします。

[実行可能条件]：レコード形式画面、一覧形式画面

## ヘルプ（H）メニューコマンド

ヘルプ（H）メニューコマンドについて説明します。

## トピックの検索（H）

オンラインヘルプのコンテンツを表示します。

[実行可能条件]：初期画面、レコード形式画面、一覧形式画面

## バージョン情報（A）

TF-LINDAの製品情報を表示します。

[実行可能条件]：初期画面、レコード形式画面、一覧形式画面

## 基本フロー

TF-LINDAの基本的な操作の流れについて説明します。

### 1. TF-LINDAの起動

#### [\[起動方法\]](#)

「SIMPLIA/TF-LINDA」アイコンをダブルクリックします。

### 2. 環境設定

#### [\[設定方法\]](#)

必要に応じてTF-LINDAでの動作環境の設定を行います。

- [フォルダ設定（環境設定）](#)
- [作業環境（環境設定）](#)
- [バックアップ（環境設定）](#)
- [フォーマット解析方法（環境設定）](#)
- [コード変換情報（環境設定）](#)
- [表示形式（環境設定）](#)

### 3. データファイルの指定

新規データファイル名/既存データファイル名の入力を行います。また、ファイルメニュー内のファイル名履歴から選択することも可能です。

### 4. データファイルの指定

#### [\[設定方法\]](#)

項目3. で指定されたデータファイルに対する編集モード、フォーマット情報、データファイル情報、抽出条件等の設定/変更を行います。

### 5. データの表示/編集

[レコード形式画面](#)または、[一覧形式画面](#)にてデータの表示/編集を行います。また、この画面で、次の機能が操作可能です。

- 別データファイルへ保存
- データ印刷
- レコード挿入/追加/複写/削除（[レコード形式画面でのみ操作可能](#)）
- 16進編集
- データー括更新
- 検索/16進数による検索/項目名の検索（[一覧形式画面でのみ操作可能](#)）
- 置換/16進数による置換（[一覧形式画面でのみ操作可能](#)）
- 画面形式切り替え
- アイテムセレクトによる表示/編集データ項目の選択（[レコード形式画面でのみ操作可能](#)）
- MDPORT連携によるデータのインポート/エクスポート
- データソート

### 6. データの保存/破棄

[レコード形式画面](#)または、[一覧形式画面](#)より、データを保存して閉じるか、データを保存しないで閉じるかを選択できます。

### 7. TF-LINDAの終了

TF-LINDAを終了します。[レコード形式画面](#)または、[一覧形式画面](#)より、終了することも可能です。

## TF-LINDAの起動/終了方法

TF-LINDAの起動/終了方法について説明します。

### アイコンによる起動

通常のWindows (R) /Windows NT (R) アプリケーションと同様に、TF-LINDAに対応したデスクトップアイコンをダブルクリックすることにより起動されます。

### 拡張子の関連付けによる起動

あらかじめ、データファイルの拡張子にTF-LINDAを関連付けておくことにより、エクスプローラからデータファイルをダブルクリックして起動することができます。

### COBOL Workbenchからの起動

COBOL Workbenchを起動させ、TF-LINDAを登録している環境ファイルを選択し、ツールバーまたは作業バーより起動することができます。

### 終了

TF-LINDAを終了するときは、メニューバーから「ファイル(F)」を選択し、プルダウンメニュー内の「SIMPLIA/TF-LINDAの終了(X)」を選択します。その際、変更データが存在する場合は、保存するかどうかのメッセージボックスが表示されます。

また、TF-LINDAは以下のような方法で終了することができます。

マウス	アプリケーション ウィンドウのコントロール メニュー ボックスをダブルクリックします。
キーボード	ALT+F4

## 環境設定の操作方法

TF-LINDAの環境設定の操作方法について、以下の順に説明します。

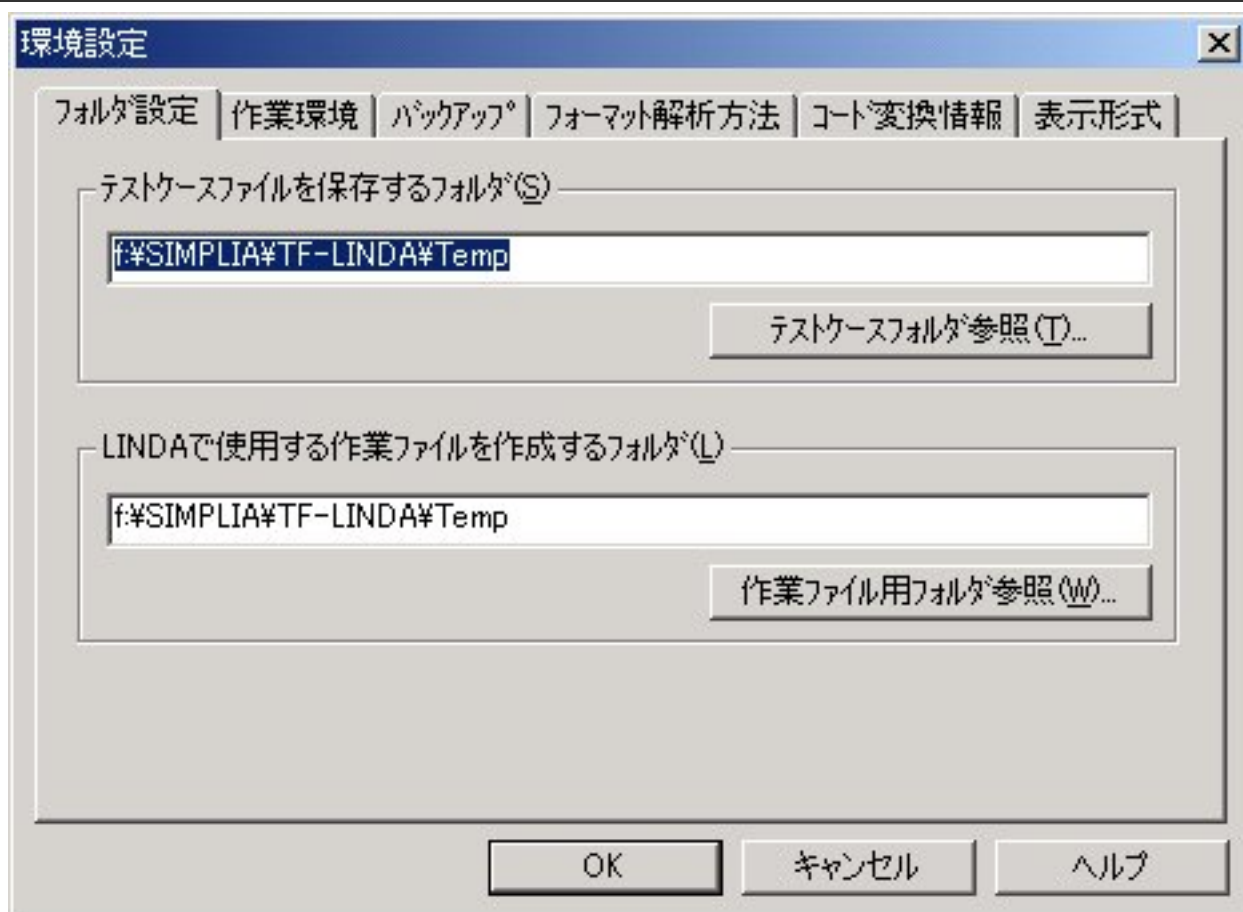
### 設定手順

1. メニューバーから「オプション(O)」を選択し、プルダウンメニュー内の「環境設定(P)」を選択します。
2. 環境設定プロパティシートが表示されます。
3. 環境設定プロパティシートで各項目の設定を行います。
4. 設定が終了したら、「OK」ボタンを押してください。

### 環境設定プロパティシート説明

環境設定で設定できる項目を以下に説明します。

- [フォルダ設定（環境設定）](#)
- [作業環境（環境設定）](#)
- [バックアップ（環境設定）](#)
- [フォーマット解析方法（環境設定）](#)
- [コード変換情報（環境設定）](#)
- [表示形式（環境設定）](#)



## コントロールの説明

### テストケースファイルを保存するフォルダ

TF-LINDAで作成したテストケースファイルを保存するためのフォルダ名を設定します。デフォルトでは、「TF-LINDAのインストール先フォルダ¥TEMP」が設定されています。

< 注意 >

[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

### テストケースフォルダ参照

「[フォルダの選択](#)」ダイアログボックスにより、フォルダを簡単に設定することができます。

### LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ

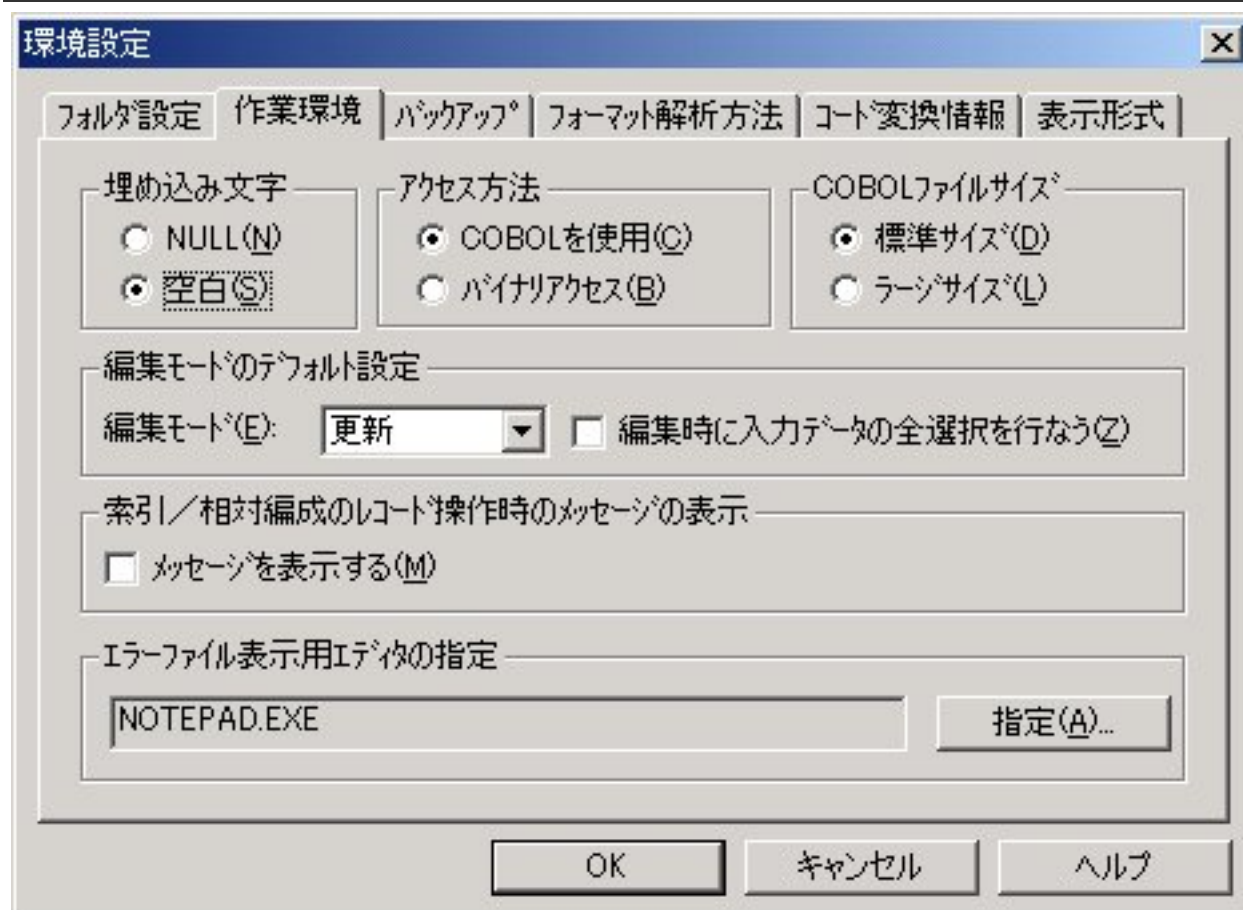
TF-LINDAが使用する作業ファイルを作成するための、作業用フォルダ名を設定します。デフォルトでは、「TF-LINDAのインストール先フォルダ¥TEMP」が設定されています。

< 注意 >

[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

### 作業ファイル用フォルダ参照

「[フォルダの選択](#)」ダイアログボックスにより、フォルダを簡単に設定することができます。



## コントロールの説明

### COBOL埋め込み文字

文字型データ項目に対して、空き領域がある場合、「空白」か「NULL」のどちらで値を埋め込むかを設定します。「空白」を設定した場合は、Xタイプ項目のときは半角の空白、Nタイプ項目のときは全角の空白が埋め込まれます。デフォルトでは、「空白」が設定されています。

### アクセス方法

データファイルにアクセスするための方法を設定します。

COBOLを使用	COBOLファイルへアクセスする場合に指定します（COBOLがインストールされている必要があります）。
バイナリアクセス	COBOLファイル以外のファイル（順編成で固定長）へアクセスする場合に指定します（COBOLを必要としません）。

### COBOLファイルサイズ

扱うデータファイルのサイズを指定します。「標準サイズ」か「ラージサイズ」のどちらかを指定します。この設定は、順編成・行順編成のファイルに対してのみ有効です。

標準サイズ	1GB（ギガバイト）までのデータファイルを扱えます。
ラージサイズ	1GB（ギガバイト）を越えるデータファイルも扱えます。

### 編集モードのデフォルト設定

既存データファイル进行操作する際、「[テストケース選択](#)」ダイアログボックス内の「データファイルの編集モード」のデフォルトを「[更新](#)」、「[表示](#)」、「[追加](#)」の中から選択します。デフォルトでは、「更新」が設定されています。

またデータ編集時にデータ内容の値をデフォルトで全選択にするかどうかの選択を行います。

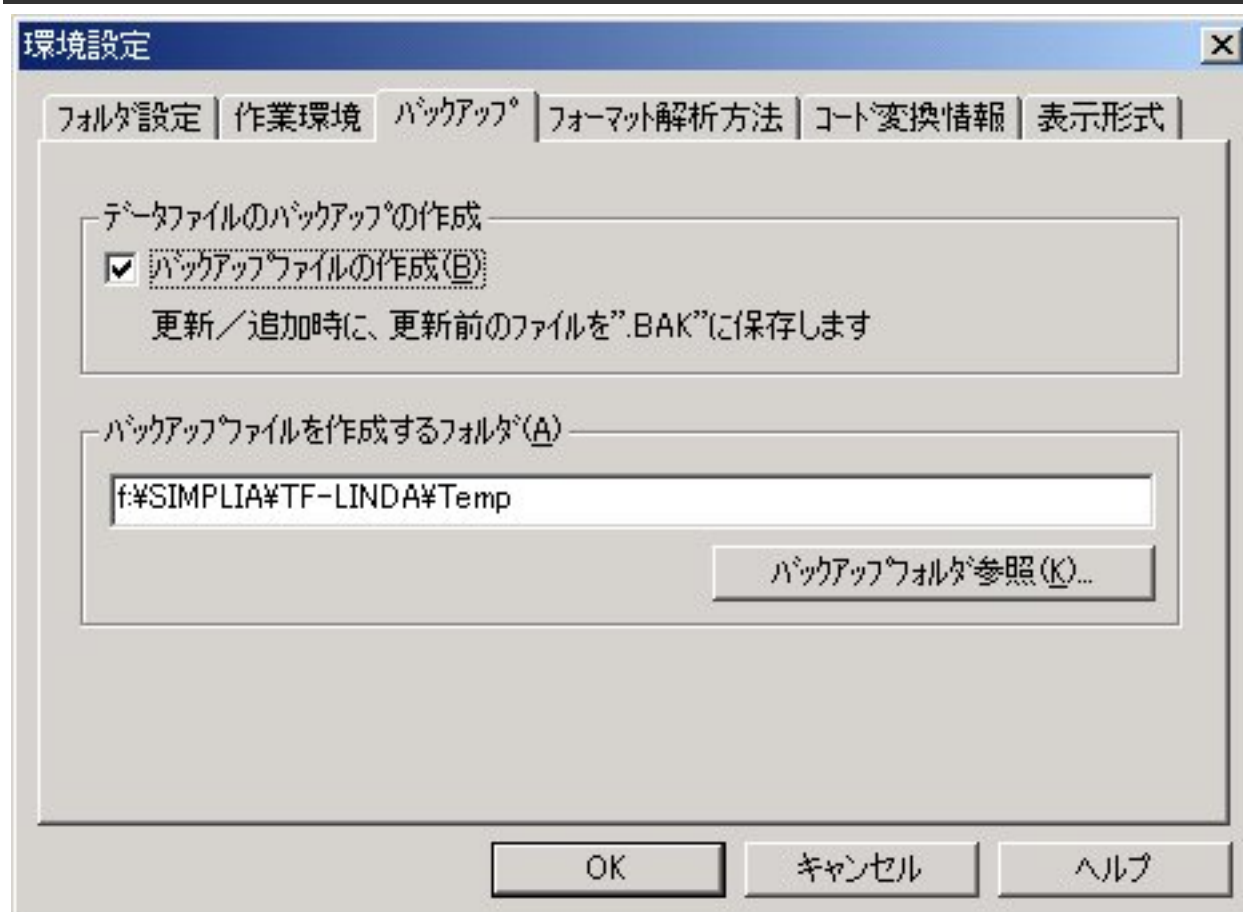
#### 索引/相対編成のレコード操作時のメッセージの表示

[レコード形式画面](#)のレコード追加 / 複写処理時に、メッセージボックスを表示するかどうかを設定します。これは、誤ってレコード追加 / 複写処理を行った場合、その操作に対しての取り消しができないため、設けてあります。デフォルトでは、「表示しない」が設定されています。

#### エラーファイル表示用エディタの指定

フォーマット解析によりエラーが発生した場合、エラー内容を参照することができます。その際、エラー表示に使用するエディタを指定することができます。デフォルトでは、「Notepad.exe」が指定されています。





## コントロールの説明

### バックアップファイルの作成

データファイルのバックアップが必要である場合に、チェックボックスをチェックします。バックアップファイルは、下の「バックアップファイルを作成するフォルダ」で設定したフォルダ内に作成されます。バックアップファイル名は「ファイル名」+「.BAK」という名前で作成されます。なお同名のファイルが既に存在する場合は、強制的に上書き保存します。デフォルトでは、「作成する」が設定されています。

例)	データファイル名	バックアップファイル名
	LINDA01.DAT	LINDA.DAT.BAK

### バックアップファイルを作成するフォルダ

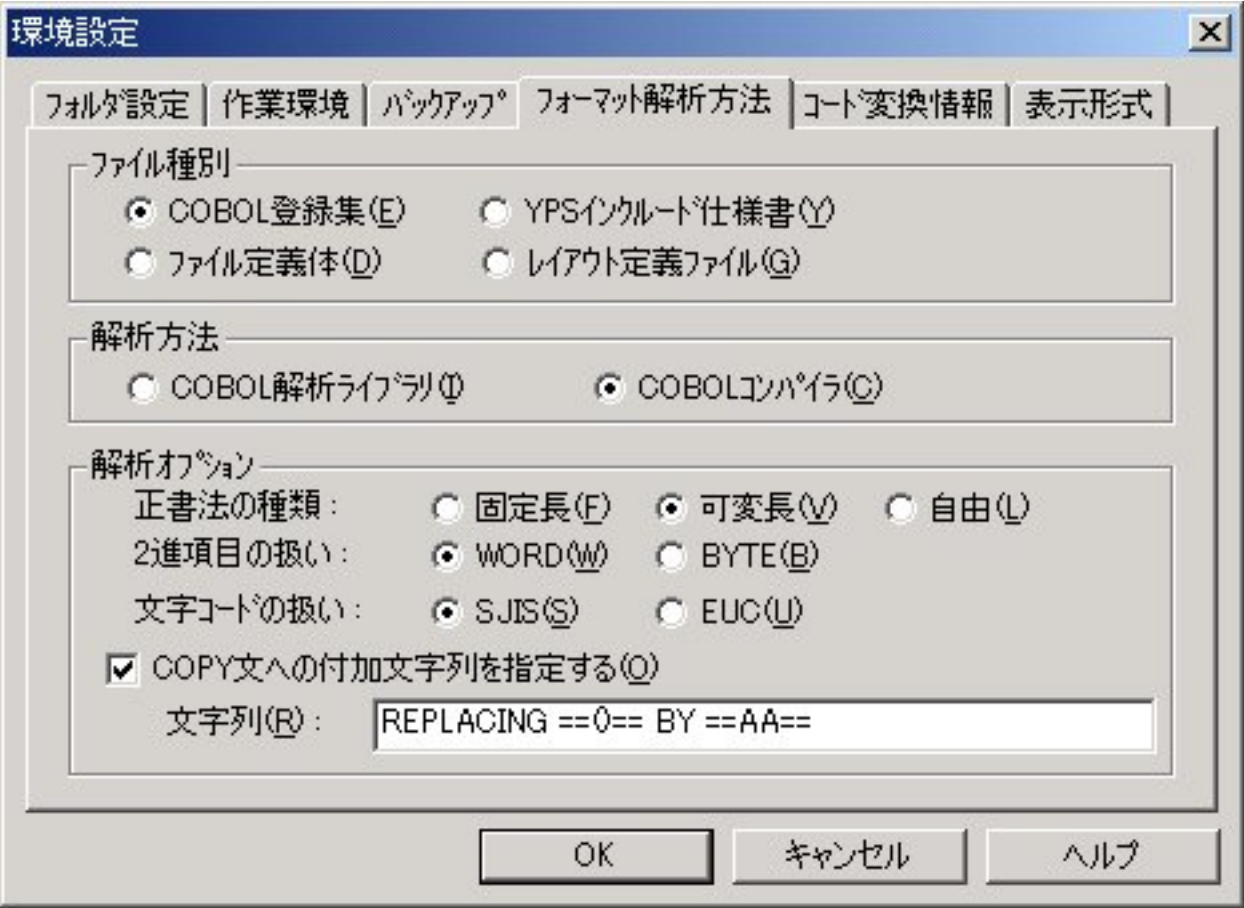
データファイルのバックアップファイルを保存するためのフォルダ名を設定します。デフォルトでは、「TF-LINDAのインストール先フォルダ¥TEMP」が設定されています。

#### < 注意 >

[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

### バックアップフォルダ参照

「[フォルダの選択](#)」ダイアログボックスにより、フォルダを簡単に設定することができます。



コントロールの説明

ファイル種別

フォーマットのファイル種別を指定します。次の4種類が指定可能でデフォルトでは、「COBOL登録集」が設定されています。

COBOL登録集	COBOLによるレコード記述のファイル
YPSインクルード仕様書	YPS/COBOLによるレコード記述のファイル
ファイル定義体	FILEによるレコード記述のファイル
レイアウト定義ファイル	MDPORTのレイアウト定義で作成したレイアウト定義ファイル

「YPSインクルード仕様書」を使用可能にするには、YPS/COBOLがインストールされている必要があります。

解析方法

フォーマット解析する際、「COBOL解析ライブラリ」、「COBOLコンパイラ」のどちらを使用するかを指定します。デフォルトでは、「COBOL解析ライブラリ」が設定されています。

「COBOLコンパイラ」を使用可能にするには、COBOLがインストールされている必要があります。

<注意>  
[レコード定義に関する制限事項/注意事項参照](#)

解析オプション

正書法の種類

COBOL登録集の正書法の形式を、「固定長」、「可変長」、「自由」から選択します。デフォルトでは、「可変長」が設定されています。

YPSインクルード仕様書の場合、YPSインクルード仕様書からCOBOL登録集を生成し、COBOL登録集として解析します。その際、正書法は「可変長」として扱います。よってYPS/COBOLコンパイラの「環境設定（COBOL仕様）」の「レコード長」では、251を設定する必要があります。  
ファイル定義体、およびレイアウト定義ファイルの場合、この設定は関係ありません。

## 2進項目の扱い

COBOL翻訳オプションである「BINARY」に関する設定で2進項目の扱いを「WORD」、「BYTE」から選択します。デフォルトでは、「WORD」が設定されています。  
レイアウト定義ファイルの場合、この設定は関係ありません。

< 注意 >

[レコード定義に関する制限事項/注意事項](#)参照

## 文字コードの扱い

COBOL登録集の文字コードが、「シフトJIS」、「EUC」のどちらかを指定します。デフォルトでは、「シフトJIS」が設定されています。

YPSインクルード仕様書、ファイル定義体、およびレイアウト定義ファイルの場合、この設定は関係ありません。

## COPY文への付加文字列

COBOL登録集が仮原文（括弧など）を含む場合、REPLACING句の指定を行わないと正しく解析することができません。正しく解析するために、ここでCOPY文への付加文字列を指定します。指定する文字列は、COBOL文法に従って記述する必要があります。なおJOINING/DISJOINING句の指定も可能です。  
YPSインクルード仕様書、ファイル定義体、およびレイアウト定義ファイルの場合、この設定は関係ありません。

指定例）

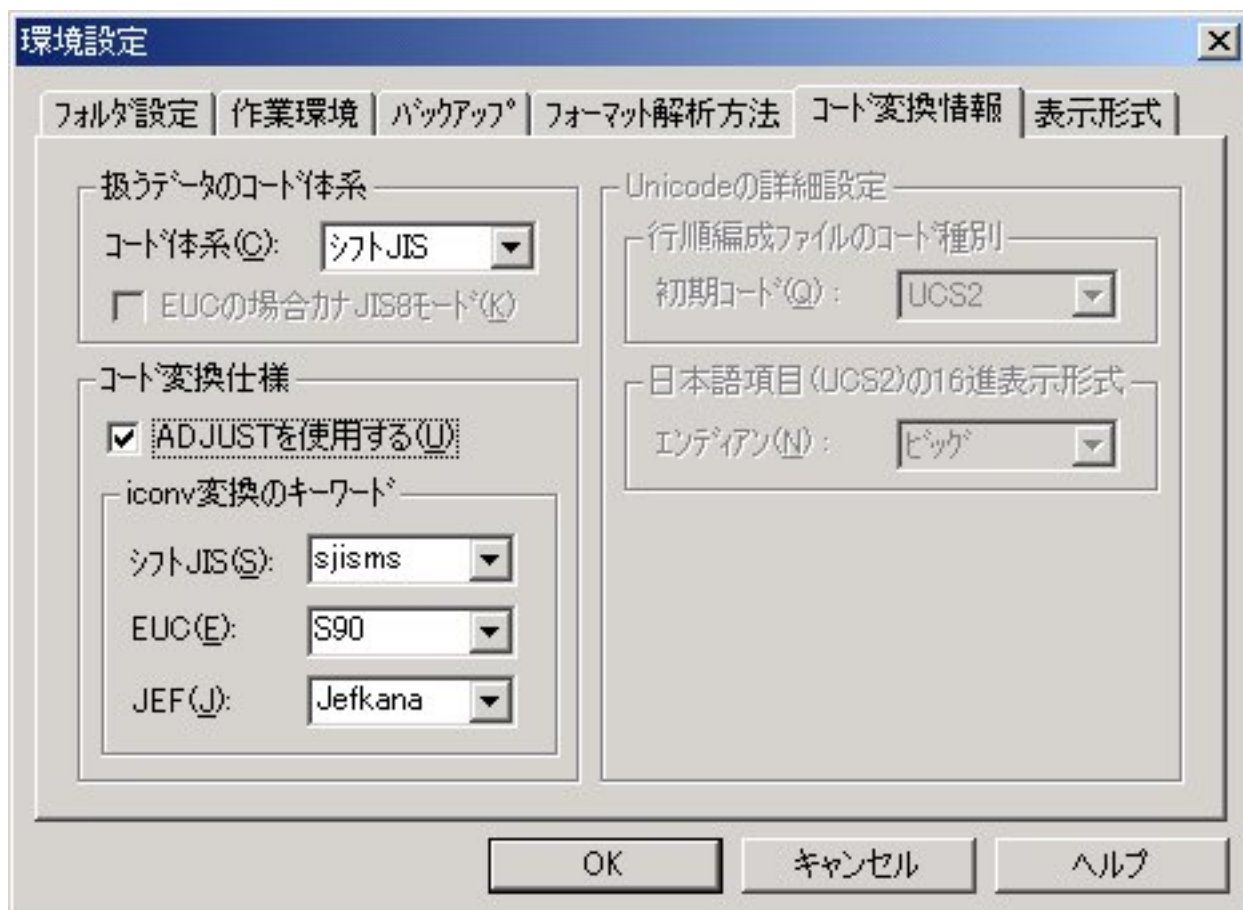
REPLACING == ( ) == BY ==AA==

< 注意 >

[レコード定義に関する制限事項/注意事項](#)参照

## コード変換情報（環境設定）

### 画面イメージ



### コントロールの説明

#### 扱うデータのコード体系

##### コード体系

「[テストケース設定](#)」ダイアログボックスの「コード情報」のデフォルトを「シフトJIS」、「EUC」、「JEF」、「Unicode」から選択します。デフォルトでは、「シフトJIS」が設定されています。

##### EUCの場合カナJIS8モード

「コード体系」で選択された値が「EUC」の場合、カナコードが「JIS8」かどうかを指定します。デフォルトでは、「JIS8ではない」が設定されています。

#### < 注意 >

[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

#### コード変換仕様

##### ADJUSTを使用する

コード変換をTF-LINDA内部処理で行うか、ADJUSTで行うかを指定します。デフォルトでは、「TF-LINDAで行う」が設定されています。

「ADJUSTを使用する」を指定可能にするには、ADJUSTがインストールされている必要があります。

##### iconv変換のキーワード

「シフトJIS」、「EUC」、「JEF」コードに関するキーワード（ADJUSTに準拠）を設定します。「ADJUSTを使用する」が指定された場合のみ設定可能です。なお設定できるキーワードは、以下の通りです。

コード体系	キーワード
シフトJIS	sjis / sjisdos/sjisms ( デフォルト )
EUC	S90 ( デフォルト ) / U90
JEF	jefkana ( デフォルト ) / jefaugkana / jefcorekana

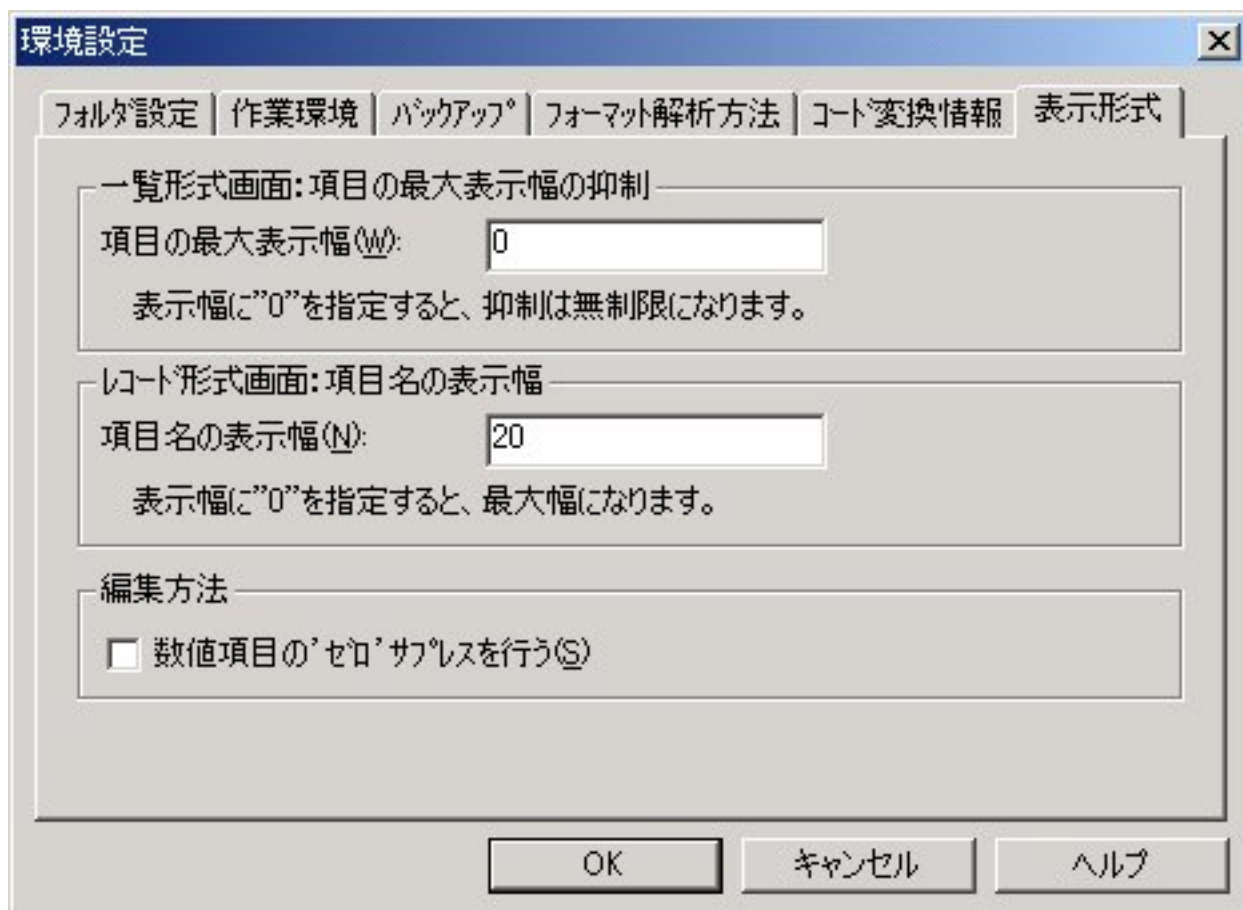
Unicodeの詳細設定

行順編成ファイルのコード種別

「[テストケース設定](#)」ダイアログボックス内「行順編成ファイルのコード種別」のデフォルトを「UCS2」、「UTF8」から選択します。デフォルトでは、「UCS2」が設定されています。

日本語項目（UCS2）の16進表示形式

UnicodeのCOBOLデータファイルは、日本語項目に相当する部分がUCS2（リトルエンディアン）形式で作成されています。ここでは、16進数を扱う処理のユーザインタフェースとして「ビッグエンディアン」、「リトルエンディアン」のどちらで表現するかを選択します。デフォルトでは、「ビッグエンディアン」が設定されています。



## コントロールの説明

一覧形式画面：項目の最大表示幅の抑制

項目の最大表示幅

[一覧形式画面](#)での最大項目表示幅の設定を行います。「0」を指定した場合は、各項目属性にあわせた表示幅となります。デフォルトでは、「0」が設定されています。

レコード形式画面：項目名の表示幅

項目名の表示幅

[レコード形式画面](#)におけるデータ項目名の表示幅の設定を行います。「0」を指定した場合は、「60」バイトとなります。デフォルトでは、「20」バイトが設定されています。また設定可能な最小値は「14」です。

編集方法

数値項目のゼロサプレスを行う

[レコード/一覧形式画面](#)での数値項目表示の際、ゼロサプレスを行うかどうかを設定します。デフォルトでは、「ゼロサプレスしない」が設定されています。

## テストケース選択/設定の操作方法

データファイルに対する編集モード、フォーマット情報、ファイル情報、抽出条件等の設定/変更を行います。テストケース選択/設定ダイアログボックスの設定手順は以下の通りです。

- [TF-LINDAで初めて扱うデータファイルの場合](#)
- [TF-LINDAで扱ったことのあるデータファイルの場合](#)



## TF-LINDAで初めて扱うデータファイルの場合

1. 「新規作成」ダイアログボックスで指定した新規ファイル名が、TF-LINDAで初めて扱うものだった場合、「[テストケース設定](#)」ダイアログボックスが表示されます。
2. ダイアログボックスにて各項目に設定を行います。
  - 2-1 「[フォーマットファイルを指定する](#)」ダイアログボックスにより、ファイルフォーマットに使用するCOBOL登録集（または、YPSインクルード仕様書・ファイル定義体・レイアウト定義ファイル）ファイルを設定する。

<注意>  
「[フォーマットファイルに関する制限事項/注意事項](#)」参照
  - 2-2 データファイルのファイル編成を選択する。（データファイルが既に存在する状態で索引編成を選択した場合、2-3～2-6は、設定する必要がありません。）
  - 2-3 データファイルのレコード形式を選択する。
  - 2-4 データファイルのレコード長(最大レコード長)を確認 / 設定する。
  - 2-5 データファイルの最小レコード長を設定する。（索引編成ファイル・可変長レコードの新規作成時）

ここで直接設定しなくても、次のキー情報を設定することにより、自動的に設定されます。
  - 2-6 データファイルのレコードキー情報を設定する。（索引編成ファイルの新規作成時）
  - 2-7 データファイルのコード体系を選択する。
  - 2-8 必要であればコメントを入力する。
3. 設定がすべて完了したら、「OK」ボタンを押下します。すると「[テストケース選択](#)」ダイアログボックスが表示されます。
4. ダイアログボックスにて以下の各項目を設定します。
  - 4-1 データファイルの編集モードを選択する。（既存データ操作時）
  - 4-2 データファイルの抽出条件を選択/設定する。（既存データ操作時）
  - 4-3 必要であればレコードキー情報を参照できます。（索引編成時）
5. 設定がすべて完了したら、「OK」ボタンを押下します。その後、「[レコード形式画面](#)（更新/追加モードの場合）」または、「[一覧形式画面](#)（表示モードの場合）」が表示されます。



## TF-LINDAで扱ったことのあるデータファイルの場合

1. 「ファイルを開く」ダイアログボックスで指定した既存データファイル名が、TF-LINDAで扱ったことのあるものだった場合、「[テストケース選択](#)」ダイアログボックスが表示されます。
2. ダイアログボックスには、前回の設定内容が表示されています。設定内容を変更したい場合のみ、「テストケースの設定(T)」ボタンを押下することにより、「[テストケース設定](#)」ダイアログボックスが表示されるので、そちらで行います。このダイアログボックスでは、次の設定を行います。
  - 2-1データファイルの編集モードを選択する。(既存データ操作時)
  - 2-2データファイルの抽出条件を選択 / 設定する。(既存データ操作時)
  - 2-3必要であればレコードキー情報を参照できます。(索引編成時)
3. 設定がすべて完了したら、「OK」ボタンを押下します。その後、「[レコード形式画面](#)(更新/追加モードの場合)」または、「[一覧形式画面](#) (表示モードの場合)」が表示されます。

## データファイルの新規作成手順

データファイルの新規作成手順について説明します。

1. 初期画面で、「ファイル(F)」メニューの「データファイルの新規作成(N)」を選択すると、「新規作成」ダイアログボックスが表示されます。

2. 新規作成したいデータファイル名を入力し、「OK」ボタンを押下すると、「[テストケース設定](#)」ダイアログボックスが表示されます。

過去、同じデータファイル名を扱った事があれば、その時の設定が有効となり、「テストケース選択」ダイアログボックスが先に表示されます。設定内容を変更したい場合のみ「テストケース設定」ボタンを押下してください。変更の必要が無い場合は、項番4.へ進んでください。

3. ダイアログボックスで、まずCOBOL登録集（または、YPSインクルード仕様書・ファイル定義体・レイアウト定義ファイル）を指定して解析します。次に、データファイル情報を設定し、「OK」ボタンを押下します。すると「[テストケース選択](#)」ダイアログボックスが表示されます。

4. ダイアログボックスの「データファイルの編集モード」では、自動的に「[追加](#)」が選択されていますので、「OK」ボタンを押下します。

5. 「[レコード形式画面](#)」が表示されますので、データを編集してください。

最初は、自動的に1レコード用意されていますが、その後レコードを追加したい場合は、「データ操作(D)」メニューにより行ってください。

6. データの編集がすべて完了したら、「ファイル(F)」メニューの「保存して閉じる(S)」を選択して、編集したデータを保存します。

## 更新

既存のデータファイルに対して、データの編集やレコードの追加・更新・削除処理を行います。

## 表示

既存データファイルのデータ内容の参照が可能です。

## 追加

既存データファイルに対しての、レコードの追加処理を行います。データファイルが新規の場合は自動的に「追加」となります。追加を選択した場合は、抽出条件は選択できません。

## 既存データファイルのレコード更新/追加/削除手順

既存データファイルのレコード更新 / 追加 / 削除手順について説明します。

1. 初期画面で、「ファイル(F)」メニューの「データファイルを開く(O)」を選択すると、「ファイルを開く」ダイアログボックスが表示されます。

2. 操作したいデータファイル名を入力し、「OK」ボタンを押下すると、「[テストケース選択](#)」ダイアログボックスが表示されます。

初めてTF-LINDAで扱うデータファイルであった場合、「テストケース設定」ダイアログボックスが先に表示されます。各情報を設定した後、「OK」ボタン押下により、「テストケース選択」ダイアログボックスが表示されます。

3. ダイアログボックスの「データファイルの編集モード」では、「[更新](#)」を選択し、「OK」ボタンを押下します。

書き込み権限のないデータファイルを操作時は、自動的に「表示」が選択されていて、「更新」「追加」を選択することはできません。

4. 「[レコード形式画面](#)」が表示されますので、データの編集を行ってください。

5. データの編集がすべて完了したら、「ファイル(F)」メニューの「保存して閉じる(S)」を選択して、編集したデータを保存します。

## 既存データファイルに対してのレコード追加

既存データファイルに対してのレコード追加手順について説明します。

1. 初期画面で、「ファイル(F)」メニューの「データファイルを開く(O)」を選択すると、「ファイルを開く」ダイアログボックスが表示されます。

2. 操作したいデータファイル名を入力し、「OK」ボタンを押下すると、「[テストケース選択](#)」ダイアログボックスが表示されます。

初めてTF-LINDAで扱うデータファイルであった場合、「テストケース設定」ダイアログボックスが先に表示されます。各情報を設定した後、「OK」ボタン押下により、「テストケース選択」ダイアログボックスが表示されます。

3. ダイアログボックスの「データファイルの編集モード」では、「[追加](#)」を選択し、「OK」ボタンを押下します。

書き込み権限のないデータファイルを操作時は、自動的に「表示」が選択されていて、「更新」「追加」を選択することはできません。

4. 「[レコード形式画面](#)」が表示されますので、データの編集を行ってください。

最初は、自動的に1レコード用意されていますが、その後レコードを追加したい場合は、「データ操作(D)」メニューにより行ってください。

5. データの編集がすべて完了したら、「ファイル(F)」メニューの「保存して閉じる(S)」を選択して、編集したデータを保存します。

## 既存データファイルの表示手順

既存データファイルの表示手順について説明します。

1. 初期画面で、「ファイル(F)」メニューの「データファイルを開く(O)」を選択すると、「ファイルを開く」ダイアログボックスが表示されます。

2. 操作したいデータファイル名を入力し、「OK」ボタンを押下すると、「[テストケース選択](#)」ダイアログボックスが表示されます。

初めてTF-LINDAで扱うデータファイルであった場合、「テストケース設定」ダイアログボックスが先に表示されます。各情報を設定した後、「OK」ボタン押下により、「テストケース選択」ダイアログボックスが表示されます。

3. ダイアログボックスの「データファイルの編集モード」では、「[表示](#)」を選択し、「OK」ボタンを押下します。

書き込み権限のないデータファイルを操作時は、自動的に「表示」が選択されていて、「更新」「追加」を選択することはできません。

4. 「[一覧形式画面](#)」が表示されますので、データの参照を行ってください。

5. データの参照が終了したら、「ファイル(F)」メニューの「保存しないで閉じる(C)」を選択して、初期画面に戻ります。

## データファイルの印刷手順

データファイルの印刷手順について説明します。

1. 初期画面で、「ファイル(F)」メニューの「データファイルを開く(O)」を選択すると、「ファイルを開く」ダイアログボックスが表示されます。

2. 操作したいデータファイル名を入力し、「OK」ボタンを押下すると、「[テストケース選択](#)」ダイアログボックスが表示されます。

初めてTF-LINDAで扱うデータファイルであった場合、「テストケース設定」ダイアログボックスが先に表示されます。各情報を設定した後、「OK」ボタン押下により、「テストケース選択」ダイアログボックスが表示されます。

3. ダイアログボックスの「データファイルの編集モード」では、「[更新](#)」または、「[表示](#)」を選択し、「OK」ボタンを押下します。

書き込み権限のないデータファイルを操作時は、自動的に「表示」が選択されていて、「更新」「追加」を選択することはできません。

4. 「データファイルの編集モード」で「更新」を選択した場合、「[レコード形式画面](#)」が表示されます。「データファイルの編集モード」で「表示」を選択した場合、「[一覧形式画面](#)」が表示されます。

5. 「ファイル(F)」メニューの「印刷ページ設定(U)」を選択すると、「[印刷ページ設定](#)」プロパティシートが表示されますので必要な設定を行った後、「OK」ボタンを押下します。

6. 印刷イメージを画面上で確認したい場合、「ファイル(F)」メニューの「印刷プレビュー(V)」を選択すると、「[印刷プレビュー](#)」画面が表示されます。終了する場合は、ツールバーの「閉じる」ボタンを押下してください。

7. 「ファイル(F)」メニューの「印刷(P)」を選択すると、「[印刷](#)」ダイアログボックスが表示されますのでプリンタ・印刷範囲・印刷部数を設定した後、「OK」ボタンを押下します。

8. プリンタへの印刷を開始します。

## バイナリアクセスとは

COBOLファイル以外のファイル（順編成で固定長）に対してアクセスする機能です。  
この機能はCOBOLがインストールされていない環境で使用できます。

## 設定手順

設定手順は以下の通りです。

1. メニューバーから「オプション(O)」を選択し、プルダウンメニュー内の「環境設定(P)」を選択します。
2. 環境設定プロパティシートが表示されます。
3. 環境設定プロパティシートの「[作業環境](#)」シートの「アクセス方法」を「バイナリアクセス」に設定します。
4. 設定が終了したら、「OK」ボタンを押してください。

## 操作手順

操作手順はアクセス方法がCOBOLファイルの場合と同様です。

操作を行いたい各機能の操作方法をオンラインマニュアルで参照してください。



レコード形式画面の操作方法

レコード形式画面では、レコード単位に項目の内容が表示され、データの編集、レコードの追加、更新、削除を行うことができます。追加、更新モードの場合は、レコード形式画面が最初に表示されます。

レコード形式画面で可能な操作

- 編集モード毎の機能
- キー操作説明

画面説明

画面イメージ



ステータス（ツールバー下）

表示中のレコードの更新状況について表示します。表示内容と説明は以下の通りです。

表示内容	説明
「    」	既存レコードで修正が行われていない場合は何も表示されません。
「更新」	既存レコードに対して修正を行うと表示されます。
「挿入」	新たに挿入したレコードに表示されます。
「追加」	新たに追加したレコードに表示されます。
「削除」	削除したレコードに表示されます。

レコード長（ツールバー下）

表示中のレコードの長さを表示します。可変長形式のデータファイル操作時、追加レコードに対して変更可能です。

## レコード番号（ツールバー下）

編集データ内での「現在表示中のレコード番号」と「全件数」を表示します。

## レベル番号

COBOL登録集（または、YPSインクルード仕様書・ファイル定義体、レイアウト定義ファイル）ファイル内で定義されているデータ項目毎のレベル番号を階層化して表示します。

アイテムセレクト機能によるデータ項目選択後も、階層化した形式で表示されていますが、主従関係は正しくありません。

## アイテム名

COBOL登録集（または、YPSインクルード仕様書・ファイル定義体・レイアウト定義ファイル）内で定義されているデータ項目名を表示します。

## 属性

COBOL登録集（または、YPSインクルード仕様書・ファイル定義体・レイアウト定義ファイル）内で定義されているデータ項目毎の属性を簡略化して表示します。

### [- データ項目属性の表記について](#)

## 相番

COBOL登録集（または、YPSインクルード仕様書・ファイル定義体・レイアウト定義ファイル）の項目毎の先頭からの相対位置を表示します。

## データ内容

項目ごとにデータ内容を表示します。また、データの編集もここで行います。各データ項目の入力/表示仕様に関しては以下の通りです。

- [数字項目の入力/表示仕様](#)
- [英数字項目の入力/表示仕様](#)
- [日本語項目の入力/表示仕様](#)
- [浮動小数点項目の入力/表示仕様](#)
- [ブール項目の入力/表示仕様](#)
- [文字コードの変換仕様](#)

## 編集モード毎の機能（レコード形式画面）

### 更新/追加モード

「[テストケース選択](#)」ダイアログボックス内、「データファイルの編集モード」で「[更新](#)」/「[追加](#)」を選択した場合の「[レコード形式画面](#)」での機能について説明します。また、追加モード時の初期状態は、新規のレコードが1件だけ存在します。

- [データ内容を変更する（通常編集）](#)
- [データ内容を編集する（16進編集）](#)
- [データ内容を編集する（Unicode編集）](#)
- [1レコード内の変更データを変更前に戻す](#)
- [レコード（初期値）を挿入/追加する](#)
- [レコード（自動生成データ）を挿入/追加する（順/行順編成）](#)
- [レコードを複写する（通常）](#)
- [レコードを複写する（一部自動生成データに置換）（順/行順編成）](#)
- [レコードを削除する](#)
- [削除レコードを復元する](#)
- [1項目のデータを自動生成データに置換する](#)
- [レコード長を変更する（可変長形式）](#)
- [データファイルに対する実際の更新を行う](#)
- [編集データを破棄する](#)
- [MDPORT連携（インポート）](#)

### 表示モード

「[テストケース選択](#)」ダイアログボックス内、「データファイルの編集モード」で「[表示](#)」を選択した場合の「[レコード形式画面](#)」での機能について説明します。

- [データ内容を16進数で表示する](#)
- [終了する](#)

### 編集モード共通

「[テストケース選択](#)」ダイアログボックス内、「データファイルの編集モード」の設定に関わらず使用できる機能について説明します。

- [目的のレコードを表示する](#)
- [アイテムセレクト](#)
- [MDPORT連携（エクスポート）](#)
- [データソート](#)
- [印刷ページ設定](#)
- [印刷プレビュー](#)
- [印刷](#)

- [その他の機能](#)

キー操作説明（レコード形式画面）

[レコード形式画面](#)での基本的なキー操作について説明します。

キーボード操作

キー名称	説明
[Enter]	次項目データへの移動、データの入力確定
[Esc]	入力データのキャンセル
[Tab]	次項目データへの移動
[Shift]+[Tab]	前項目データへの移動
[カーソルキー  ]	前項目データへの移動
[カーソルキー  ]	次項目データへの移動
[カーソルキー  ]	1文字左へのカーソル移動
[カーソルキー  ]	1文字右へのカーソル移動
[Insert]	上書き/挿入の切り替え
[Delete]	1文字削除
[Home]	データ先頭へのカーソル移動
[End]	データ最後尾へのカーソル移動
[Shift]+[Home]	先頭からカーソル位置までのデータ選択
[Shift]+[End]	カーソル位置から最後まででのデータ選択

マウス操作

マウス操作	説明
項目データをクリック	クリックした項目データへの移動、移動前項目データの入力確定
レコード長をクリック	レコード長への移動（可変長形式時の追加レコード）
右ボタン	ポップアップメニューの表示

## データ内容を変更する（通常編集）（レコード形式画面）

操作手順は以下の通りです。

1. 「検索(S)」メニューまたは、ツールボタンの「レコード番号による指定」、「先頭レコード」、「前レコード」、「次レコード」、「最終レコード」を使用して変更したいレコードを表示します。
2. マウスで変更したいデータ項目のデータ内容をクリックします。キーボードでの操作は、[ *Tab* ] キー、[ *Shift* ] + [ *Tab* ] キー、[ *Enter* ] キーにより、変更したいデータ項目のデータ内容にフォーカスを移動します。
3. データ内容を変更し、マウスで別のデータ内容をクリックすれば、変更確定です。キーボードでの操作は、[ *Tab* ] キー、[ *Shift* ] + [ *Tab* ] キー、[ *Enter* ] キーにより、別のデータ内容に移動した時点で変更確定となります。

その他、メニュー上のコマンドを実行しても入力確定となります。  
また、確定する前に [ *Esc* ] キーで変更前のデータ内容に戻すことが可能です。

## データ内容を変更する（16進編集）（レコード形式画面）

操作手順は以下の通りです。

1. 「検索(S)」メニューまたは、ツールボタンの「レコード番号による指定」、「先頭レコード」、「前レコード」、「次レコード」、「最終レコード」を使用して変更したいレコードを表示します。
2. マウスで変更したいデータ項目のデータ内容をクリックします。キーボードでの操作は、[ *Tab* ] キー、[ *Shift* ] + [ *Tab* ] キー、[ *Enter* ] キーにより、変更したいデータ項目のデータ内容にフォーカスを移動します。
3. 「編集(E)」メニューまたは、ツールボタンの「16進編集」を実行すると「[16進編集](#)」ダイアログボックスが表示されます。マウスの右ボタンによるポップアップメニューから実行することも可能です。
4. データ内容が16進数で表示されていますので、変更を行った後、[ *Enter* ] キーで変更確定となり、ダイアログボックスが閉じます。[レコード形式画面](#)上のデータ内容は、シフトJISコードに変換した形式で表示されます。  
また、[ *Esc* ] キーで変更せずにダイアログボックスを閉じることができます。

ここでの入力は、各種コード体系に合わせたコードで行ってください。

< 注意 >

[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

## データ内容を変更する（Unicode編集）（レコード形式画面）

操作手順は以下の通りです。

1. 「検索(S)」メニューまたは、ツールボタンの「レコード番号による指定」、「先頭レコード」、「前レコード」、「次レコード」、「最終レコード」を使用して変更したいレコードを表示します。
2. マウスで変更したいデータ項目のデータ内容をクリックします。キーボードでの操作は、[ *Tab* ] キー、[ *Shift* ] + [ *Tab* ] キー、[ *Enter* ] キーにより、変更したいデータ項目のデータ内容にフォーカスを移動します。
3. 「編集(E)」メニューの「Unicode編集」を実行すると「[Unicode編集](#)」ダイアログボックスが表示されます。マウスの右ボタンによるポップアップメニューから実行することも可能です。
4. データ内容がUnicodeで表示されていますので、変更を行った後、[ *Enter* ] キーで変更確定となり、ダイアログボックスが閉じます。必要により「フォント選択」ボタンを押下し、「[フォント選択](#)」ダイアログボックスで表示フォントを変更してください。[レコード形式画面](#)上のデータ内容は、シフトJISコードに変換した形式で表示されます。  
また、[ *Esc* ] キーで変更せずにダイアログボックスを閉じることができます。

ここでの入力、各種コード体系に合わせたコードで行ってください。

< 注意 >

[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照



## 1レコード内の変更データを変更前に戻す

操作手順は以下の通りです。

1. 「データ操作(D)」メニューまたは、ツールボタンの「やり直し」を実行します。
2. 変更前のデータ内容が表示されます。

< 注意 >

[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

## レコード（初期値）を挿入/追加する

操作手順は以下の通りです。

1. 「検索(S)」メニューまたは、ツールボタンの「レコード番号による指定」、「先頭レコード」、「前レコード」、「次レコード」、「最終レコード」を使用して処理対象のレコードを表示します。
2. 「データ操作(D)」メニューまたは、ツールボタンの「レコード挿入」（順／行順編成）、「最後に追加」（順／行順編成）、「レコード追加」（索引／相対編成）を実行します。

順／行順編成の場合、「[件数設定](#)」ダイアログボックスが表示されます。

- 2-1. 挿入／追加レコード件数を指定する。
- 2-2. 「項目の値を自動生成する」は、チェックしない。
- 2-3. 「OK」ボタンを押下する。

3. 追加されたレコード（複数件の場合、その中の先頭レコード）の内容が表示されますので、この後、データ変更などの操作が可能です。

更新モードの場合、データファイルに対する実際の更新が行われた後のレコード格納位置に関して以下の注意点があります。

「最後に追加」（順／行順編成）により追加したレコードは、常に既存レコードの最後に追加されます。

例）既存レコードが10件のファイルから先頭5件を抽出し、「最後に追加」により1件追加した場合、追加したレコードは11件目に保存されています。

## レコード（自動生成データ）を挿入/追加する（順/行順編成）

操作手順は以下の通りです。

1. 「検索(S)」メニューまたは、ツールボタンの「レコード番号による指定」、「先頭レコード」、「前レコード」、「次レコード」、「最終レコード」を使用して処理対象のレコードを表示します。

2. 「データ操作(D)」メニューまたは、ツールボタンの「レコード挿入」、「最後に追加」を実行します。

「[件数設定](#)」ダイアログボックスが表示されます。

2-1. 挿入 / 追加レコード件数を指定する。

2-2. 「項目の値を自動生成する」をチェックし、「詳細」ボタンを押下する。

2-3. 「[データ生成](#)」ダイアログボックスが表示されるので、項目毎に生成方法を設定し、「OK」ボタンを押下する。

2-4. 「件数設定」ダイアログボックスに戻り、「OK」ボタンを押下する。

3. 追加されたレコード（複数件の場合、その中の先頭レコード）の内容が表示されますので、この後、データ変更などの操作が可能です。

更新モードの場合、データファイルに対する実際の更新が行われた後のレコード格納位置に関して以下の注意点があります。

「最後に追加」（順 / 行順編成）により追加したレコードは、常に既存レコードの最後に追加されます。

例）既存レコードが10件のファイルから先頭5件を抽出し、「最後に追加」により1件追加した場合、追加したレコードは11件目に保存されています。

## レコードを複写する（通常）

操作手順は以下の通りです。

1. 「検索(S)」メニューまたは、ツールボタンの「レコード番号による指定」、「先頭レコード」、「前レコード」、「次レコード」、「最終レコード」を使用して処理対象のレコードを表示します。

2. 「データ操作(D)」メニューまたは、ツールボタンの「レコード複写」を実行します。

順/行順編成の場合、「[レコード複写](#)」ダイアログボックスが表示されます。

2-1. 複写レコードの挿入位置を指定する。

2-2. 複写レコード件数を指定する。

2-3. 「項目の値を自動生成する」は、チェックしない。

2-4. 「OK」ボタンを押下する。

3. 追加されたレコード（複数件の場合、その中の先頭レコード）の内容が表示されますので、この後、データ変更などの操作が可能です。

更新モードの場合、データファイルに対する実際の更新が行われた後のレコード格納位置に関して以下の注意点があります。

「レコード複写」（順/行順編成）により複写位置に「0」を指定して追加したレコードの格納位置は、複写対象レコードの1件前のレコードのステータスにより次のようになります。

- 前レコードのステータスが追加の場合（「最後に追加」により追加したレコード）  
「最後に追加」により追加したレコードと同じ扱いになります。

例）既存レコードが10件のファイルから先頭5件を抽出し、「最後に追加」により1件追加後、「レコード複写」により複写位置に「0」指定で1件追加した場合、複写したレコードは12件目に保存されています。

- 前レコードのステータスが追加以外の場合  
画面上の並びと同じ位置に挿入されます。

例1）既存レコードが10件のファイルから先頭5件を抽出し、「レコード複写」により複写位置に「0」指定で1件追加した場合、複写したレコードは6件目に保存されています。

例2）既存レコードが10件のファイルから後ろ5件を抽出し、「レコード複写」により複写位置に「0」指定で1件追加した場合、複写したレコードは11件目に保存されています。

## レコードを複写する（一部自動生成データに置換）（順/行順編成）

操作手順は以下の通りです。

1. 「検索(S)」メニューまたは、ツールボタンの「レコード番号による指定」、「先頭レコード」、「前レコード」、「次レコード」、「最終レコード」を使用して処理対象のレコードを表示します。

2. 「データ操作(D)」メニューまたは、ツールボタンの「レコード複写」を実行します。

「[レコード複写](#)」ダイアログボックスが表示されます。

2-1. 複写レコードの挿入位置を指定する。

2-2. 複写レコード件数を指定する。

2-3. 「項目の値を自動生成する」をチェックし、「詳細」ボタンを押下する。

2-4. 「[データ生成](#)」ダイアログボックスが表示されるので、項目毎に生成方法を設定し、「OK」ボタンを押下する。

2-5. 「レコード複写」ダイアログボックスに戻り、「OK」ボタンを押下する。

3. 追加されたレコード（複数件の場合、その中の先頭レコード）の内容が表示されますので、この後、データ変更などの操作が可能です。

更新モードの場合、データファイルに対する実際の更新が行われた後のレコード格納位置に関して以下の注意点があります。

「レコード複写」（順/行順編成）により複写位置に「0」を指定して追加したレコードの格納位置は、複写対象レコードの1件前のレコードのステータスにより次のようになります。

- 前レコードのステータスが追加の場合（「最後に追加」により追加したレコード）  
「最後に追加」により追加したレコードと同じ扱いになります。

例）既存レコードが10件のファイルから先頭5件を抽出し、「最後に追加」により1件追加後、「レコード複写」により複写位置に「0」指定で1件追加した場合、複写したレコードは12件目に保存されています。

- 前レコードのステータスが追加以外の場合  
画面上の並びと同じ位置に挿入されます。

例1）既存レコードが10件のファイルから先頭5件を抽出し、「レコード複写」により複写位置に「0」指定で1件追加した場合、複写したレコードは6件目に保存されています。

例2）既存レコードが10件のファイルから後ろ5件を抽出し、「レコード複写」により複写位置に「0」指定で1件追加した場合、複写したレコードは11件目に保存されています。

## レコードを削除する

操作手順は以下の通りです。

1. 「検索(S)」メニューまたは、ツールボタンの「レコード番号による指定」、「先頭レコード」、「前レコード」、「次レコード」、「最終レコード」を使用して削除したいレコード（複数の場合、削除したいレコードの先頭）を表示します。

2. 「データ操作(D)」メニューまたは、ツールボタンの「レコード削除」を実行します。

順/行順編成の場合、「[件数設定](#)」ダイアログボックスが表示されます。

2-1. 削除レコード件数を指定する。

2-2. 「OK」ボタンを押下する。

3. 削除されたレコードは、淡色表示となり、データ変換が不可能になります。ただし、データファイルに対する実際の更新が行われるまで削除レコードを参照することは可能です。

## 削除レコードを復元する

操作手順は以下の通りです。

1. 「検索(S)」メニューまたは、ツールボタンの「レコード番号による指定」、「先頭レコード」、「前レコード」、「次レコード」、「最終レコード」を使用して削除レコードを表示します。
2. 「データ操作(D)」メニューの「レコード復元(R)」を実行します。削除したレコードを1レコードずつ復元します。

## 1項目のデータを自動生成データに置換する

操作手順は以下の通りです。

1. 「編集(E)」メニューの「データー括更新(P)」を表示します。
2. 「[データー括更新](#)」ダイアログボックスが表示されます。
  - 2-1. 「項目の生成書式」に、置換したいデータ項目名を指定します。
  - 2-2. 「書式情報」の「種別」を選択します。
  - 2-3. 必要に応じて「書式情報」のその他の情報を設定します。
3. すべての設定が完了したら、「OK」ボタンを押下します。
4. 「[レコード形式画面](#)」に戻り、置換されたデータで表示されます。



## レコード長を変更する（可変長形式）

「レコード挿入」、「最後に追加」、「レコード追加」、「レコード複写」処理によって追加したレコードに対して、レコード長を変更することができます。その手順は以下の通りです。

1. ツールバー下のレコード長エディットコントロールが入力可能になっているのを確認し、そこをマウスでクリックします。

2. 値を変更後、「*Enter*」キーにて確定します。

指定できる値は、1～最大レコード長（「テストケース設定」ダイアログボックスの「データファイル情報」の「レコード長」で設定した値）です。

## MDPORT連携（インポート）機能

CSV形式ファイル、またはXML形式ファイルを編集集中のファイルに取り込むことができます。

インポート可能なCSV形式ファイルは、以下の項目を満たすものです。それ以外の形式で記述されたものはインポート時にエラーとなります。

項目	形式
区切り文字（デリミタ） 引用符	半角カンマ「,」により区切られたもの。 数値、文字項目ともに引用符で括られていないもの。

インポート可能なXML形式ファイルは、MDPORTがサポートしている形式のものです。それ以外の形式で記述されたものはインポート時にエラーとなります。

< 注意 >

[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

## 操作手順

1. [レコード/一覧形式画面](#)の「オプション（O）」メニューまたは、ツールボタンから、「MDPORT連携（M）」を実行します。
2. 「[MDPORT連携](#)」ダイアログボックスが表示されます。
  - 2-1 「インポート」を選択します。
  - 2-2 「データ形式」で「CSV形式」か「XML形式」を選択します。
  - 2-3 「インポートするデータ位置」を指定します。
  - 2-4 「対象ファイル指定」で取り込むファイルを指定します。
  - 2-5 「データ形式」が「CSV形式」の場合、「インポートするCSVファイルの引用符」を指定します。
  - 2-6 「データ形式」が「XML形式」の場合、
    - ・MDPORTのレイアウト定義で作成したレイアウト定義ファイルがある場合は、「XML形式のレイアウト定義ファイル指定」で「既存のファイルを指定」を選択し、MDPORTで作成したレイアウト定義ファイルを指定します。
    - ・上記ファイルがない場合は、「新規作成」を選択し、作成するレイアウト定義ファイルを指定します。
3. すべての設定が完了したら、「MDPORT起動」ボタンを押下します。

## データソート機能

データ項目をソートキーとして指定することにより、編集集中のデータをソートします。

< 注意 >

[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

## 操作手順

1. [レコード/一覧形式画面](#)の「オプション（O）」メニューまたは、ツールボタンから、「データソート（S）」を実行します。マウスの右ボタンによるポップアップメニューから実行することも可能です。
2. 「[ソート条件](#)」ダイアログボックスが表示されます。
  - 2-1 ソートキーとする項目名を指定します。
  - 2-2 「ソート種別」を選択します。
3. すべての設定が完了したら、「OK」ボタンを押下します。
4. データソート処理後、[レコード/一覧形式画面](#)に戻ります。

## データファイルに対する実際の更新を行う（レコード形式画面）

[レコード形式画面](#)が表示されている時点では、データファイルに対する実際の更新は、一切行われていません。（作業ファイル上での編集です。）よって、データファイルに対する実際の更新を行うには、次の処理を行う必要があります。

1. 「ファイル（F）」メニューまたは、ツールボタンの「保存して閉じる(S)」を実行します。
2. 「[更新確認](#)」ダイアログボックスが表示され、更新/追加/削除件数が確認できます。
3. 「OK」ボタンを押下するとデータファイルに対する実際の更新を行い、初期画面が表示されます。

## 編集データを破棄する（レコード形式画面）

[レコード形式画面](#)が表示されている時点では、データファイルに対する実際の更新は、一切行われていません。（作業ファイル上での編集です。）よって、データファイルに対する実際の更新を行うには、次の処理を行う必要があります。

1. 「ファイル（F）」メニューまたは、ツールボタンの「保存しないで閉じる(C)」を実行します。
2. 「データが変更されています。保存しますか」メッセージボックスが表示されます。
3. 「いいえ」ボタンを押下すると編集データを破棄して、初期画面に戻ります。

## データ内容を16進数で表示する（レコード形式画面）

操作手順は以下の通りです。

1. 「検索(S)」メニューまたは、ツールボタンの「レコード番号による指定」、「先頭レコード」、「前レコード」、「次レコード」、「最終レコード」を使用して処理対象のレコードを表示します。
2. マウスで表示したいデータ項目のデータ内容をクリックします。キーボードでの操作は、[ *Tab* ] キー、[ *Shift* ] + [ *Tab* ] キー、[ *Enter* ] キーにより、表示したいデータ項目のデータ内容にフォーカスを移動します。
3. 「編集(E)」メニューまたは、ツールボタンの「16進編集」を実行すると「[16進編集](#)」ダイアログボックスが表示されます。マウスの右ボタンによるポップアップメニューから実行することも可能です。
4. データ内容が16進数で表示されます。終了したい場合は、[ *Enter* ] キーまたは [ *Esc* ] キーによりダイアログボックスを閉じます。

ここでの表示内容は、各種コード体系に従っており、データファイルの内容がそのまま表示されています。

< 注意 >

[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

## 終了する（レコード形式画面）

操作手順は以下の通りです。

1. 「ファイル(F)」メニューまたは、ツールボタンの「保存しないで閉じる(C)」を実行します。
2. 初期画面に戻ります。

## 目的のレコードを表示する

操作手順は以下の通りです。

1. 「検索(S)」メニューまたは、ツールボタンの「レコード番号による指定」、「先頭レコード」、「前レコード」、「次レコード」、「最終レコード」を使用して参照したいレコードを表示します。

レコード番号による指定の場合、「[レコード番号による指定](#)」ダイアログボックスが表示されます。

1-1. 表示したいレコード番号を指定する。

1-2. 「OK」ボタンを押下する。



## アイテムセレクトの設定方法

アイテムセレクトを設定することにより、表示/編集したいデータ項目の選択、OCCURS句を展開して表示等の設定ができます。

## アイテムセレクト設定後の表示について

[レコード形式画面](#)および、[一覧形式画面](#) どちらでも、アイテムセレクトでの設定に従って表示されます。  
また、アイテムセレクトの設定情報は、[レコード形式画面](#)と[一覧形式画面](#)で共通です。  
([レコード形式画面](#)でのみ「アイテムセレクト」の設定変更が可能)

アイテムセレクトを設定しない場合（通常）

画面形式の種類	表示されている項目	編集できる項目
レコード形式画面 一覧形式画面	レコード/集団項目/基本項目 基本項目	基本項目のみ 基本項目のみ

- ・OCCURS句項目は、配列(1)～配列（最大値）の項目全てが選択されています。
- ・再定義項目は、選択されていません。

## アイテムセレクトの設定手順

1. [レコード形式画面](#)の「表示（V）」メニューまたは、ツールボタンから、「アイテムセレクト（I）」を実行します。
2. 「[アイテムセレクト](#)」ダイアログボックスが表示されます。
  - 2-1 「レコードフォーマットの指定」より、使用するレコードを選択します。（複数定義されている場合）
  - 2-2 「OCCURS句を展開する」を選択します。（OCCURS句が含まれている場合）
  - 2-3 「表示項目の選択」より、表示 / 編集したいデータ項目だけを選択します。
3. すべての設定が完了したら、「OK」ボタンを押下します。
4. [レコード/一覧形式画面](#)では、アイテムセレクトで設定した形式に従って表示されます。

## MDPORT連携（エクスポート）機能

編集中のデータ内容を、異なるコード／ファイル編成のデータファイル、CSV形式、またはXML形式に変換して出力することができます。なお、出力対象となるデータ項目はアイテムセレクトで選択されているもののみです。アイテムセレクトしていない場合は、全ての基本項目が対象となります。

< 注意 >

[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

## 操作手順

1. [レコード/一覧形式画面](#)の「オプション（O）」メニューまたは、ツールボタンから、「MDPORT連携（M）」を実行します。
2. 「[MDPORT連携](#)」ダイアログボックスが表示されます。
  - 2-1 「エクスポート」を選択します。
  - 2-2 「データ形式」を選択します。
  - 2-3 [アイテムセレクト](#)機能で項目を選択している場合かつ、「データ形式」が「データファイル形式」の場合、「アイテムセレクトで選択されていない項目の扱い」を選択します。
  - 2-4 「データ形式」が「XML形式」の場合、
    - ・ MDPORTのレイアウト定義で作成したレイアウト定義ファイルがある場合は、「XML形式のレイアウト定義ファイル指定」で「既存のファイルを指定」を選択し、MDPORTで作成したレイアウト定義ファイルを指定します。
    - ・ 上記ファイルがない場合は、「新規作成」を選択し、作成するレイアウト定義ファイルを指定します。

入力がデータ形式、出力がXML形式のレイアウト定義ファイルが必要です。
3. すべての設定が完了したら、「MDPORT起動」ボタンを押下します。
4. 「[MDPORT連携](#)」ダイアログボックスが閉じて、MDPORTが起動されます。

MDPORTの操作方法に関しては、[SIMPLIA/TF-MDPORTオンラインマニュアル](#)を参照して下さい。

## 印刷ページ設定の設定方法

TF-LINDAの環境設定の操作方法について、以下の順に説明します。

### 設定手順

1. メニューバーから「ファイル(F)」を選択し、プルダウンメニュー内の「印刷ページ設定(U)」を選択します。
2. 「印刷ページ設定」プロパティシートが表示されます。
3. プロパティシートで各項目の設定を行います。
4. 設定が終了したら、「OK」ボタンを押してください。

### 環境設定プロパティシート説明

印刷ページ設定で設定できる項目を以下に説明します。

- [TF-LINDAの設定（印刷ページ設定）](#)
- [ページ（印刷ページ設定）](#)
- [余白（印刷ページ設定）](#)
- [ヘッダ/フッタ（印刷ページ設定）](#)

## 印刷プレビューの参照方法

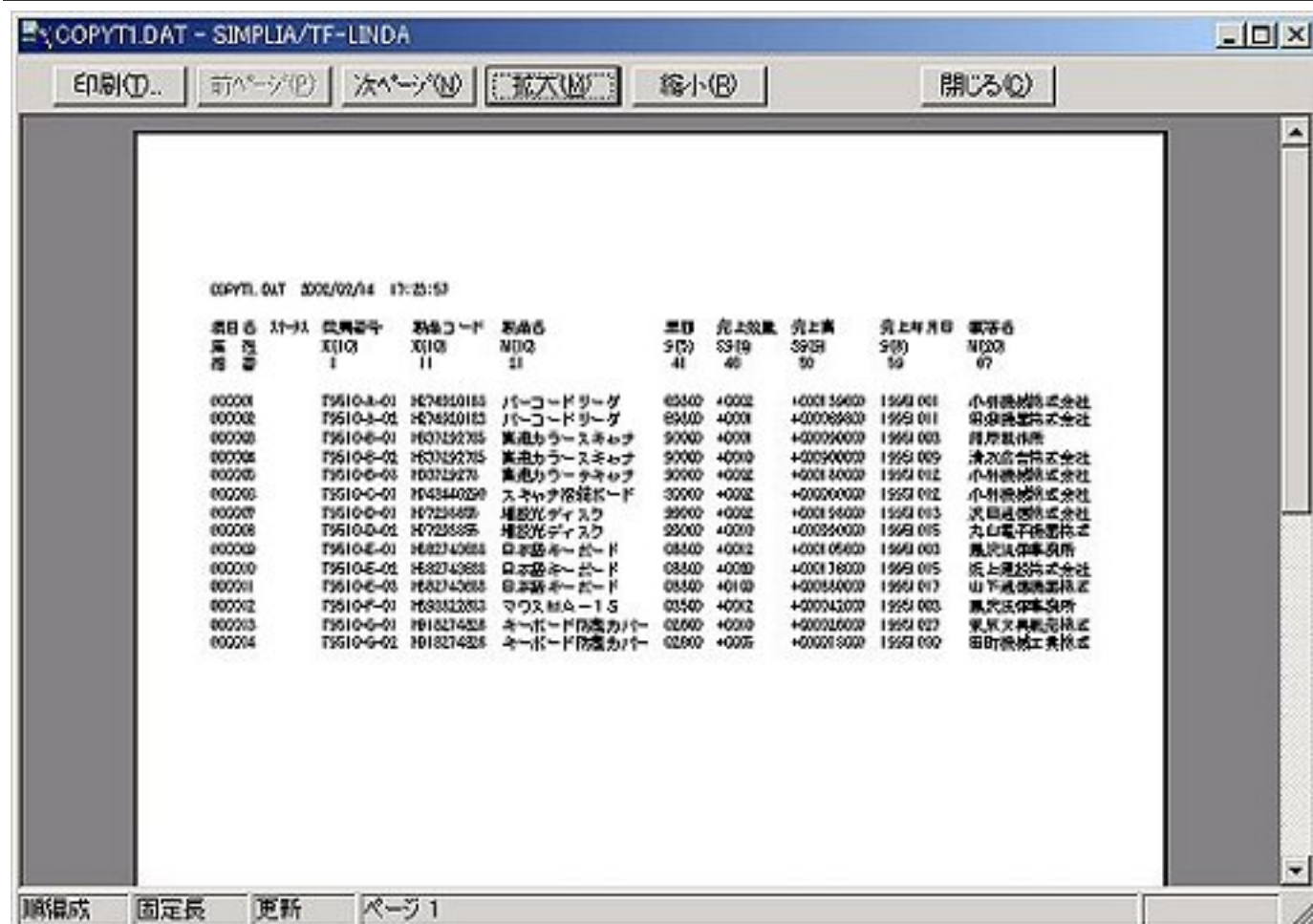
### 印刷プレビュー機能

印刷イメージを画面上でページ単位に確認することができます。  
プレビューで表示される印刷イメージは、「[印刷ページ設定](#)」での設定にもとづいています。

< 注意 >

[印刷に関する制限事項/注意事項](#)参照

### 画面イメージ



### 印刷プレビューの操作手順

1. 「ファイル(F)」メニューまたは、ツールボタンから「印刷プレビュー(V)」を実行します。
2. 「印刷プレビュー」画面が表示されます。各ツールボタンの機能については、次の通りです。

印刷	プレビューのイメージで印刷を行います。
前ページ	前ページを表示します。
次ページ	次ページを表示します。
拡大表示	印刷イメージを現状のサイズより1段階拡大して表示します。
縮小表示	印刷イメージを現状のサイズより1段階縮小して表示します。
閉じる	プレビュー画面を終了し、一覧形式画面に戻ります。

3. 編集画面に戻りたい場合、「閉じる」ボタンを押下します。

## 印刷の操作方法

### 印刷機能

一覧形式イメージでのデータの印刷を行います。  
印刷に関する設定については、「[印刷ページ設定](#)」プロパティで行います。  
実際に印刷する前に印刷イメージを確認したい場合は、「[印刷プレビュー](#)」画面にて行ってください。

< 注意 >

[印刷に関する制限事項/注意事項](#)参照

### 帳票説明

### 印刷プレビューの操作手順

[ファイルダンプリスト（項目区切りあり）](#)

[ファイルダンプリスト（項目区切りあり）（16進付加）](#)

[ファイルダンプリスト（項目区切りなし）](#)

[ファイルダンプリスト（項目区切りなし）（16進付加）](#)

### 印刷の操作手順

1. 「ファイル（F）」メニューまたは、ツールボタンから「印刷(P)」を実行します。
2. 「[印刷](#)」ダイアログボックスが表示されます。
3. すべての設定が完了したら、「OK」ボタンを押下します。
4. 印刷を開始します。

## その他の機能（レコード形式画面）

### 別データファイルへ保存

編集中のデータ内容を別のファイルへ保存します。

1. 「ファイル（F）」メニューまたは、ツールボタンの「別データファイルへ保存（A）」を実行します。
2. 「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されるのでファイル名を指定して「OK」ボタンを押下します。

### 一覧形式画面

データ編集画面を[レコード形式画面](#)から[一覧形式画面](#)に切り替えます。その際、[レコード形式画面](#)で表示していたレコードを先頭にして一覧表示されます。

1. 「表示(V)」メニューまたは、ツールボタンの「[一覧形式画面](#)」を実行します。
2. 「[一覧形式画面](#)」に切り替わります。

### フォントの指定

ビュー上の文字フォントを指定することができます。初期状態では、「MS ゴシックの9ポ」に設定されています。

1. 「表示（V）」メニューの「フォントの指定（F）」を実行します。
2. 「フォントの指定」ダイアログボックスが表示されるので各項目を設定後、「OK」ボタンを押下します。

< 注意 >

[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

### 表示形式の変更

画面の表示形式をメニューのチェック形式で選択します。

1. 「表示（V）」メニューの「表示形式の変更（A）」内の各メニューを実行します。
2. 各項目ごとに表示/非表示が切り替わります。

### キー情報表示

編集中のファイルが索引編成の場合、レコードキー情報を参照することができます。

1. 「表示（V）」メニューの「キー情報表示（K）」を実行します。
2. 「[キー情報参照](#)」ダイアログボックスが表示されます。

### バージョン情報

現在、動作しているTF-LINDAおよび、COBOL登録集解析に使用しているCOBOL解析ライブラリのバージョン情報を確認することができます。

1. 「ヘルプ（H）」メニューの「バージョン情報（A）」を実行します。
2. 「[バージョン情報](#)」ダイアログボックスが表示されます。



## 一覧形式画面の操作方法

それぞれのレコードは基本項目単位に表形式で表示されます。また、既存のレコードに対してのみ更新できます。レコード追加、レコード削除等はできません。表示モードの場合は、一覧形式画面が最初に表示されます。

## 一覧形式画面で可能な操作

[編集モード毎の機能](#)

[キー操作説明](#)

## 画面説明

### 画面イメージ

The screenshot shows a software window titled "COPYTI.DAT - SIMPLIA/TF-LINDA". The menu bar includes: ファイル(F), データ操作(D), 編集(E), 検索(S), 表示(V), オプション(O), ヘルプ(H). The toolbar contains various icons for file operations, editing, and viewing. Below the toolbar, there is a text field for "伝票番号" (Invoice Number) with the value "T9510-A-01". The main area is a table with the following columns: 項目名 (Item Name), 属性 (Attribute), 伝票番号 (Invoice Number), 製品コード (Product Code), 製品名 (Product Name), 単価 (Unit Price), 売上数量 (Sales Quantity), 売上高 (Sales Amount), 売上年月日 (Sales Date), and 顧客名 (Customer Name). The table contains 13 rows of data. At the bottom, there are buttons for "印刷" (Print), "固定長" (Fixed Length), "更新" (Update), and "レディ" (Ready).

項目名	属性	伝票番号	製品コード	製品名	単価	売上数量	売上高	売上年月日	顧客名
1		T9510-A-01	H274920183	バーコードリーダー	69800	+0002	+000139600	19951001	小林様
2		T9510-A-02	H274920183	バーコードリーダー	69800	+0001	+000069800	19951011	田畑様
3		T9510-B-01	H637292735	高速カラスキャナ	90000	+0001	+000090000	19951003	相原様
4		T9510-B-02	H637292735	高速カラスキャナ	90000	+0010	+000900000	19951009	清水様
5		T9510-B-03	H63729273	高速カラーデキャナ	90000	+0002	+000180000	19951012	小林様
6		T9510-C-01	H748446290	スキャナ接続ボード	30000	+0002	+000060000	19951012	小林様
7		T9510-D-01	H77293855	増設光ディスク	99000	+0002	+000198000	19951013	沢田様
8		T9510-D-02	H77293855	増設光ディスク	99000	+0010	+000990000	19951015	丸山様
9		T9510-E-01	H882743638	日本語キーボード	08800	+0012	+000105600	19951003	黒沢様
10		T9510-E-02	H882743638	日本語キーボード	08800	+0020	+000176000	19951015	坂上様
11		T9510-E-03	H882743638	日本語キーボード	08800	+0100	+000880000	19951017	山下様
12		T9510-F-01	H893822833	マウスMA-1S	03500	+0012	+000042000	19951003	黒沢様
13		T9510-G-01	H918274828	キーボード防塵カバー	02600	+0010	+000026000	19951027	東京様

### 項目名 (ツールバー下)

現在、選択されている (フォーカスが位置づけられている) データ内容の項目名を表示します。

### データ編集域 (ツールバー下)

現在、選択されている (フォーカスが位置づけられている) データ内容の表示をします。また、ここでデータ編集を行うことができます。

< 注意 >

[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項参照](#)

### 項目名

COBOL登録集 (または、YPSインクルード仕様書・ファイル定義体・レイアウト定義ファイル) ファイル内で定義されているデータ項目名を表示します。

### 属性

COBOL登録集（または、YPSインクルード仕様書・ファイル定義体・レイアウト定義ファイル）ファイル内で定義されているデータ項目毎の属性を簡略化して表示します。

[- データ項目属性の表記について](#)

相番

COBOL登録集（または、YPSインクルード仕様書・ファイル定義体・レイアウト定義ファイル）の項目毎の先頭からの相対位置を表示します。

ステータス

レコード毎の更新状況について表示します。表示内容と説明は以下の通りです。

表示内容	説明
「       」	既存レコードで修正が行われていない場合は何も表示されません。
「更新」	既存レコードに対して修正を行うと表示されます。
「挿入」	新たに挿入したレコードに表示されます。
「追加」	新たに追加したレコードに表示されます。
「削除」	削除したレコードに表示されます。

データ内容

レコード/項目ごとにデータ内容を表示します。また、データ入力したいセルの選択を行います。各データ項目の入力／表示仕様に関しては以下の通りです。

- [- 数字項目の入力／表示仕様](#)
- [- 英数字項目の入力／表示仕様](#)
- [- 日本語項目の入力／表示仕様](#)
- [- 浮動小数点項目の入力／表示仕様](#)
- [- ブール項目の入力／表示仕様](#)
- [- 文字コードの変換仕様](#)



## 編集モード毎の機能（一覧形式画面）

### 更新/追加モード

「[テストケース選択](#)」ダイアログボックス内、「データファイルの編集モード」で「[更新](#)」/「[追加](#)」を選択した場合の「[一覧形式画面](#)」での機能について説明します。また、追加モード時の初期状態は、新規のレコードが1件だけ存在します。

- [データ内容を変更する（通常編集）](#)
- [データ内容を編集する（16進編集）](#)
- [データ内容を編集する（Unicode編集）](#)
- [16進データの置換の操作方法](#)
- [データファイルに対する実際の更新を行う](#)
- [編集データを破棄する](#)
- [MDPORT連携（インポート）](#)

### 表示モード

「[テストケース選択](#)」ダイアログボックス内、「データファイルの編集モード」で「[表示](#)」を選択した場合の「[一覧形式画面](#)」での機能について説明します。

- [データ内容を16進数で表示する](#)
- [終了する](#)

### 編集モード共通

「[テストケース選択](#)」ダイアログボックス内、「データファイルの編集モード」の設定に関わらず使用できる機能について説明します。

- [MDPORT連携（エクスポート）](#)
- [データソート](#)
- [印刷ページ設定](#)
- [印刷プレビュー](#)
- [印刷](#)
- [検索](#)
- [16進データの検索](#)
- [項目名の検索](#)
- [その他の機能](#)

キー操作説明（一覧形式画面）

一覧形式画面での基本的なキー操作について説明します。

キーボード操作

一覧内項目間操作

項目が選択されている状態

キー名称	説明
[Enter]	データ編集状態へ移行（エディットコントロール）
[カーソルキー 上]	前レコードへの移動
[カーソルキー 下]	次レコードへの移動
[カーソルキー 左]	前項目データへの移動
[カーソルキー 右]	次項目データへの移動

項目が編集できる状態

キー名称	説明
[Enter]	一覧内で編集中のデータの入力確定、次レコードへの移動
[Shift]+[Enter]	一覧内で編集中のデータの入力確定、前レコードへの移動
[Tab]	一覧内で編集中のデータの入力確定、次項目データへの移動
[Shift]+[Tab]	一覧内で編集中のデータの入力確定、前項目データへの移動

エディットコントロール内操作（データ編集域、一覧内編集域共通）

キー名称	説明
[Enter]	データの入力確定
[Esc]	入力データのキャンセル
[カーソルキー 上]	1文字左へのカーソル移動
[カーソルキー 下]	1文字右へのカーソル移動
[Insert]	上書き/挿入の切り替え
[Delete]	1文字削除
[Home]	データ先頭へのカーソル移動
[End]	データ最後尾へのカーソル移動
[Shift]+[Home]	先頭からカーソル位置までのデータ選択
[Shift]+[End]	カーソル位置から最後までのデータ選択

マウス操作

マウス操作	説明
項目データをクリック	クリックした項目データへの移動、移動前項目データの入力確定
右ボタン	ポップアップメニューの表示

## データ内容を変更する（通常編集）（一覧形式画面）

操作手順は以下の通りです。

1. マウスで変更したいデータ項目のデータ内容をクリックします。キーボードでの操作は、カーソルキーで移動後、[ *Enter* ] キーを 1 度押下します。そうすると、一覧表内にて項目内容を直接変更可能になります。

（一覧表内にフォーカスが無い場合は、上部のエディットコントロールにて編集可能です）

2. データ内容を変更し、マウスで別のデータ内容をクリックすれば、変更確定です。キーボードでの操作は、[ *Tab* ] キー、[ *Shift* ] + [ *Tab* ] キー、[ *Enter* ] キーにより別のデータ内容に移動した時点で変更確定となります。

その他、メニュー上のコマンドを実行しても入力確定となります。

また、確定する前に [ *Esc* ] キーで変更前のデータ内容に戻すことが可能です。

一覧表内での編集時、[ *Ctrl* ] + カーソルキーにて編集状態のまま項目の移動が可能です。

< 注意 >

[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

## データ内容を変更する（16進編集）（一覧形式画面）

操作手順は以下の通りです。

1. マウスで変更したいデータ内容をクリックします。キーボードでの操作は、カーソルキーで変更したいデータ内容にフォーカスを移動します。
2. 「編集(E)」メニューまたは、ツールボタンの「16進編集」を実行すると「[16進編集](#)」ダイアログボックスが表示されます。マウスの右ボタンによるポップアップメニューから実行することも可能です。また、上部のエディットコントロールにカーソルが現れている状態でも実行可能です。
3. データ内容が16進数で表示されていますので、変更を行った後、[ *Enter* ] キーで変更確定となり、ダイアログボックスが閉じます。[一覧形式画面](#)上のデータ内容は、シフトJISコードに変換した形式で表示されます。  
また、[ *Esc* ] キーで変更せずにダイアログボックスを閉じることができます。

ここでの入力、各種コード体系に合わせたコードで行ってください。

< 注意 >

[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

## データ内容を変更する（Unicode編集）（一覧形式画面）

操作手順は以下の通りです。

1. マウスで変更したいデータ内容をクリックします。キーボードでの操作は、カーソルキーで変更したいデータ内容にフォーカスを移動します。
2. 「編集(E)」メニューの「Unicode編集」を実行すると「[Unicode編集](#)」ダイアログボックスが表示されます。マウスの右ボタンによるポップアップメニューから実行することも可能です。また、上部のエディットコントロールにカーソルが現れている状態でも実行可能です。
3. データ内容がUnicodeで表示されていますので、変更を行った後、[ *Enter* ] キーで変更確定となり、ダイアログボックスが閉じます。必要により「フォント選択」ボタンを押下し、「[フォント選択](#)」ダイアログボックスで表示フォントを変更してください。[一覧形式画面](#)上のデータ内容は、シフトJISコードに変換した形式で表示されます。また、[ *Esc* ] キーで変更せずにダイアログボックスを閉じることができます。

ここでの入力、各種コード体系に合わせたコードで行ってください。

< 注意 >

[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

## 1項目のデータを自動生成データに置換する

操作手順は以下の通りです。

1. 「編集(E)」メニューの「データ一括更新(P)」を表示します。
2. 「[データ一括更新](#)」ダイアログボックスが表示されます。
  - 2-1 「項目の生成書式」に、置換したいデータ項目名を指定します。
  - 2-2 「書式情報」の「種別」を選択します。
  - 2-3 必要に応じて「書式情報」のその他の情報を設定します。
3. すべての設定が完了したら、「OK」ボタンを押下します。
4. [一覧形式画面](#)に戻り、置換されたデータで表示されます。

## データファイルに対する実際の更新を行う（一覧形式画面）

[一覧形式画面](#)が表示されている時点では、データファイルに対する実際の更新は、一切行われていません。（作業ファイル上での編集です。）よって、データファイルに対する実際の更新を行うには、次の処理を行う必要があります。

1. 「ファイル(F)」メニューまたは、ツールボタンの「保存して閉じる(S)」を実行します。
2. 「[更新確認](#)」ダイアログボックスが表示され、更新/追加/削除件数が確認できます。
3. 「OK」ボタンを押下するとデータファイルに対する実際の更新を行い、初期画面が表示されます。

## 置換の操作方法

### 置換機能

指定した文字列を、編集データ内から検索し、置換後の文字列に指定した文字列に置換します。比較は、指定したデータ項目の属性に合わせて、表示形式に変換した形で行います。  
検索対象となるデータは、指定した1データ項目の範囲内のみです。

< 注意 >

[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

### 置換の操作手順

1. [一覧形式画面](#)の「検索(S)」メニューから、「置換(R)」を実行します。
2. 「置換」ダイアログボックスが表示されます。
  - 2-1 「検索対象項目名」に検索対象のデータ項目名を設定する。
  - 2-2 「検索文字列」に検索したい文字列を設定する。
  - 2-3 「置換後の文字列」に置き換えたい文字列を設定する。
  - 2-4 「大文字/小文字を区別する」を選択する。(検索対象のデータ項目が英数字属性の場合)
  - 2-5 「検索する方向」を選択する。
3. すべての設定が完了したら、「次を検索(S)」ボタンを押下して、検索を開始します。合致するデータが存在する場合、そのレコードおよび、データ項目を先頭として編集画面が再表示されます。ただし、合致するデータが既に画面上に表示されている場合、スクロールせずカーソルのみが移動します。
4. 検索した文字列を置換したい場合は、「置換(R)」ボタンを押下し文字列を置き換えます。
5. 続けて別の同一データを置換したい場合は、「置換(R)」ボタンを押下して置換を行います。置換を行わない場合は、「次を検索(S)」ボタンで次の文字列を検索します。  
対象となる文字列をすべて置換したい場合は、「すべて置換(A)」ボタンを押下します。

検索対象とした値は、「検索(F)」/「16進データの検索(H)」/「置換(R)」/「16進データの置換(E)」により別の値を検索対象として指定するまで有効です。



## 16進データの置換の操作方法

### 16進データの置換機能

指定した16進数値を、編集データ内から検索し、置換後の16進データに指定した値に置換します。比較は、データ項目単位に16進数で行います。

検索対象となるデータは、指定した1データ項目の範囲内のみです。

< 注意 >

[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

### 16進データの置換操作手順

1. [一覧形式画面](#)の「検索(S)」メニューから、「16進データの置換(E)」を実行します。
  2. 「[16進データの置換](#)」ダイアログボックスが表示されます。
    - 2-1 「検索対象項目名」に検索対象のデータ項目名を設定する。
    - 2-2 「検索する16進データ」に検索したい16進数を設定する。
    - 2-3 「置換後の16進データ」に置き換えたい16進数を設定する。
    - 2-4 「検索する方向」を選択する。
  3. すべての設定が完了したら、「次を検索(S)」ボタンを押下して、検索を開始します。合致するデータが存在する場合、そのレコードおよび、データ項目を先頭として編集画面が再表示されます。ただし、合致するデータが既に画面上に表示されている場合、そのレコードおよび、データ項目を先頭として編集画面が再表示されます。
  4. 検索した16進数を置換したい場合は、「置換(R)」ボタンを押下し文字列を置き換えます。
  5. 続けて別の同一データを置換したい場合は、「置換(R)」ボタンを押下して置換を行います。置換を行わない場合は、「次を検索(S)」ボタンで次の16進数を検索します。  
対象となる16進数をすべて置換したい場合は、「すべて置換(A)」ボタンを押下します。
- 検索対象とした値は、「検索(F)」/「16進データの検索(H)」/「置換(R)」/「16進データの置換(E)」により別の値を検索対象として指定するまで有効です。

## 編集データを破棄する（一覧形式画面）

[一覧形式画面](#)が表示されている時点では、データファイルに対する実際の更新は、一切行われていません。（作業ファイル上での編集です。）よって、データファイルに対する実際の更新を行わずに、編集データを破棄して終了できます。次の手順で行います。

1. 「ファイル(F)」メニューまたは、ツールボタンの「保存しないで閉じる(C)」を実行します。
2. 「データが変更されています。保存しますか」メッセージボックスが表示されます。
3. 「いいえ」ボタンを押下すると編集データを破棄して、初期画面に戻ります。

## データ内容を16進数で表示する（一覧形式画面）

操作手順は以下の通りです。

1. マウスで変更したいデータ内容をクリックします。キーボードでの操作は、カーソルキーで表示したいデータ内容にフォーカスを移動します。
2. 「編集(E)」メニューまたは、ツールボタンの「16進編集」を実行すると「[16進編集](#)」ダイアログボックスが表示されます。マウスの右ボタンによるポップアップメニューから実行することも可能です。また、上部のエディットコントロールにカーソルが現れている状態でも実行可能です。
3. データ内容が16進数で表示されます。終了したい場合は、[ *Enter* ] キーまたは [ *Esc* ] キーによりダイアログボックスを閉じます。

ここでの表示内容は、各種コード体系に従っており、データファイルの内容がそのまま表示されていません。

< 注意 >

[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

## 終了する（一覧形式画面）

操作手順は以下の通りです。

- 1．「ファイル(F)」メニューまたは、ツールボタンの「保存しないで閉じる(C)」を実行します。
- 2．初期画面に戻ります。

## 検索の操作方法

### 検索機能

指定した文字列/数値を、編集データ内から検索します。比較は、指定したデータ項目の属性に合わせて、表示形式に変換した形で行います。

検索対象となるデータは、指定した1データ項目の範囲内のみです。

< 注意 >

[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

### 検索の操作手順

1. [一覧形式画面](#)の「検索（S）」メニューから、「検索（F）」を実行します。
2. 「[検索](#)」ダイアログボックスが表示されます。
  - 2-1 「検索項目名」に検索対象のデータ項目名を設定する。
  - 2-2 「検索文字列」に検索したい文字列を設定する。
  - 2-3 「大文字/小文字を区別する」を選択する。（検索対象のデータ項目が英数字属性の場合）
  - 2-4 「検索する方向」を選択する。
3. すべての設定が完了したら、「OK」ボタンを押下します。
4. ダイアログボックスを閉じて、検索を開始します。合致するデータが存在する場合、そのレコードおよび、データ項目を先頭として編集画面が再表示されます。  
ただし、合致するデータが既に画面上に表示されている場合、スクロールせずカーソルのみが移動します。
5. 続けて別の同一データを検索したい場合は、「検索（S）」メニューの、「前候補（U）」/「次候補（D）」を実行します。  
検索対象とした値は、「検索（F）」/「16進データの検索（H）」/「置換（R）」/「16進データの置換（E）」により別の値を検索対象として指定するまで有効です。

## 16進データの検索の操作方法

### 16進データの検索機能

指定した16進数値を、編集データ内から検索します。比較は、データ項目単位に16進数で行います。検索対象は、検索データ項目を指定しない限り、抽出/編集データすべてです。ただしアイテムセレクトにより、表示項目を選定している場合は、そのデータだけが検索対象となります。

< 注意 >

[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

### 16進データの検索操作手順

1. [一覧形式画面](#)の「検索（S）」メニューから、「16進データの検索（F）」を実行します。
2. 「[16進データの検索](#)」ダイアログボックスが表示されます。
  - 2-1 「16進データ」に検索したい16進数を設定する。
  - 2-2 特定項目内だけで検索したい場合、「検索対象とする項目を指定する」をチェックし、データ項目名を設定する。
  - 2-3 「検索する方向」を選択する。
3. すべての設定が完了したら、「OK」ボタンを押下します。
4. ダイアログボックスを閉じて、検索を開始します。合致するデータが存在する場合、そのレコードおよび、データ項目を先頭として編集画面が再表示されます。  
ただし、合致するデータが既に画面上に表示されている場合、そのレコードおよび、データ項目を先頭として編集画面が再表示されます。
5. 続けて別の同一データを検索したい場合は、「検索（S）」メニューの、「前候補（U）」/「次候補（D）」を実行します。  
検索対象とした値は、「検索（F）」/「16進データの検索（H）」/「置換（R）」/「16進データの置換（E）」により別の値を検索対象として指定するまで有効です。

## 項目名の検索の操作方法

### 項目名の検索機能

指定したデータ項目を画面の先頭に表示します。

< 注意 >

[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

### 項目名の検索の操作手順

1. [一覧形式画面](#)の「検索（S）」メニューから、「項目名の検索（I）」を実行します。
2. 「[項目の選択](#)」ダイアログボックスが表示されます。
  - 2-1 「項目選択」より表示したいデータ項目名を選択/設定する。
3. すべての設定が完了したら、「OK」ボタンを押下します。
4. ダイアログボックスを閉じて、検索を開始します。合致するデータが存在する場合、そのレコードおよび、データ項目を先頭として編集画面が再表示されます。  
ただし、合致するデータが既に画面上に表示されている場合、スクロールせずカーソルのみが移動します。

## その他の機能（一覧形式画面）

### 別データファイルへ保存

編集中のデータ内容を別のファイルへ保存します。

1. 「ファイル（F）」メニューまたは、ツールボタンの「別データファイルへ保存（A）」を実行します。
2. 「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されるのでファイル名を指定して「OK」ボタンを押下します。

< 注意 >

[印刷に関する制限事項/注意事項](#)参照

### レコード形式画面

データ編集画面を[一覧形式画面](#)から[レコード形式画面](#)に切り替えます。その際、[一覧形式画面](#)でフォーカスが設定されているレコードが表示されます。

1. 「表示(V)」メニューまたは、ツールボタンの「[レコード形式画面](#)」を実行します。
2. 「[レコード形式画面](#)」に切り替わります。

### フォントの指定

ビュー上の文字フォントを指定することができます。初期状態では、「MS ゴシックの9ポ」に設定されています。

1. 「表示（V）」メニューの「フォントの指定（F）」を実行します。
2. 「フォントの指定」ダイアログボックスが表示されるので各項目を設定後、「OK」ボタンを押下します。

< 注意 >

[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

### 表示形式の変更

画面の表示形式をメニューのチェック形式で選択します。

1. 「表示（V）」メニューの「表示形式の変更（A）」内の各メニューを実行します。
2. 各項目ごとに表示/非表示が切り替わります。

### キー情報表示

編集中のファイルが索引編成の場合、レコードキー情報を参照することができます。

1. 「表示（V）」メニューの「キー情報表示（K）」を実行します。
2. 「[キー情報参照](#)」ダイアログボックスが表示されます。

### バージョン情報

現在、動作しているTF-LINDAおよび、COBOL登録集解析に使用しているCOBOL解析ライブラリのバージョン情報を確認することができます。

1. 「ヘルプ（H）」メニューの「バージョン情報（A）」を実行します。
2. 「[バージョン情報](#)」ダイアログボックスが表示されます。



サンプルデータでの動作確認手順

TF-LINDAに付属するサンプルデータの使用手順を以下に説明します。

- 1. スタートメニュー「SIMPLIAシリーズ」の「TF-LINDA V60」フォルダより、「SIMPLIA TF-LINDA」を選択します。
- 2. メニューバーから「オプション(O)」を選択し、プルダウンメニュー内の「環境設定(P)」を選択します。
- 3. 環境設定プロパティシートが表示されます。
- 4. 「フォーマット解析方法」タブを選択し、以下のように設定します。

環境設定

フォルダ設定

作業環境

バックアップ

フォーマット解析方法

コード変換情報

表示形式

ファイル種別

☒ COBOL登録集(E)

☐ YPSインクルード仕様書(Y)

☐ ファイル定義体(D)

☐ レアウト定義ファイル(G)

解析方法

☐ COBOL解析ライブラリ(D)

☒ COBOLコンパイラ(C)

解析オプション

正書法の種類：

☐ 固定長(F)

☒ 可変長(V)

☐ 自由(L)

2進項目の扱い：

☒ WORD(W)

☐ BYTE(B)

文字コードの扱い：

☒ SJIS(S)

☐ EUC(U)

☐ COPY文への付加文字列を指定する(Q)

文字列(R)：

OK

キャンセル

ヘルプ

ファイル種別		COBOL登録集
解析方法		どちらでも構いません。
解析オプション	正書法の種類	可変長
	2進項目の扱い	WORD
	文字コードの扱い	SJIS
	COPY文への付加文字列を指定	チェックしない

- 5. 設定後、「OK」ボタンを押下します。
- 6. 初期画面で、「ファイル(F)」メニューの「データファイルを開く(O)」を選択します。
- 7. 「ファイルを開く」ダイアログボックスが表示されます。
- 8. インストール先の「Sample」サブフォルダ内のサンプルデータファイル ("COPYT1.DAT") を指定し、「開く」ボタンを押下します。

- 9. 「テストケース設定」ダイアログボックスが表示されます。
- 10. 「フォーマット情報」の「設定」ボタンを押下します。
- 11. 「フォーマットファイルを指定する」ダイアログボックスが表示されます。
- 12. インストール先の「Sample」サブフォルダ内のサンプルCOBOL登録集ファイル ("COPYT1.COB") を指定し、「開く」ボタンを押下します。
- 13. 解析確認メッセージが表示されますので、「OK」を選択します。
- 14. 解析完了後、「テストケース設定」ダイアログボックスに戻り、レコード長が設定されます。
- 15. 「テストケース設定」ダイアログボックスのデータファイル情報に以下の設定がされていることを確認後、「OK」ボタンを押下します。

テストケース設定

テストケース

フォーマット情報

ファイル名: COPYT1.COB  
レコード長: 500  
ファイル種別: COBOL登録集  

設定(C)...

  
COBOL解析オプション  
文字コード: SJIS  
バイナリ: WORD

データファイル情報

ファイル編成(E): 順編成  
レコード形式: ☒ 固定長(B) ☐ 可変長(V)  
レコード長(L): 500  
最小レコード長④: 0  
キー情報: 

設定(N)...

コード情報

漢字(K): シフトJIS ☐ カナJIS8モード(J)  
行順編成ファイルのコード種別(E): UCS2

コメント(M):

OK

キャンセル

ヘルプ°

ファイル編成	順編成
レコード形式	固定長
レコード長	500
コード情報	シフトJIS

- 16. 「テストケース選択」ダイアログボックスが表示されます。



17. 「データファイルの編集モード」が「更新」に設定されていることを確認後、「OK」ボタンを押下します。

18. 「抽出確認」ダイアログボックスが表示されますので、「OK」ボタンを押下します。



19. レコード形式画面が表示されます。  
この画面でTF-LINDAの各機能をお試しください。

20. TF-LINDAを終了するときは、メニューバーから「ファイル(F)」を選択し、プルダウンメニュー内の「SIMPLIA/TF-LINDAの終了(X)」を選択します。

## テストケース選択

### テストケース選択ダイアログボックスとは

フォーマット情報やデータファイル情報の確認および、データファイルの編集モードや抽出方法を指定するための画面です。

### 画面イメージ

### タイトルバー

テストケース選択(COBOL)	アクセス方法に「COBOLを使用」を選択している場合
テストケース選択(バイトリ)	アクセス方法に「バイトリアクセス」を選択している場合

## コントロールの説明

### データファイル名

フォルダ	データファイルのフォルダパス名を表示します。
ファイル名	データファイルのファイル名を表示します。

### データファイルの編集モード

「更新」、「表示」、「追加」の中から選択します。

### テストケースの設定

データファイル情報、フォーマット情報等の設定を変更したい場合に押下します。

### フォーマット情報

ファイル名	フォーマットファイル名を表示します。
レコード名	フォーマットのレコード名を表示します。
レコード長	フォーマットのレコード長を表示します。
ファイル種別	フォーマットのファイル種別（COBOL登録集、YPSインクルード、ファイル定義体、レイアウト定義ファイル）を表示します。
バイナリ	フォーマットファイル解析時に、「 <a href="#">環境設定（フォーマット解析方法）</a> 」内の「2進項目の扱い」で設定していた内容が表示されます。
アイテムセレクト	編集/表示したいデータ項目を選定します。「アイテムセレクト」ボタン押下により、「 <a href="#">アイテムセレクト</a> 」ダイアログボックスが表示されます。 <a href="#">レコード形式画面</a> からの変更も可能です。

データファイル情報

ファイル編成	データファイルの編成を表示します。
レコード形式	データファイルのレコード形式を表示します。
レコード長	データファイルのレコード長（最大レコード長）を表示します。
最小レコード長	データファイルの最小レコード長を表示します。（索引編成・可変長形式時のみ。それ以外の場合は、0）
キー情報参照	索引編成ファイルの場合のみレコードキー情報を参照することができます。「参照」ボタン押下により、「 <a href="#">キー情報参照</a> 」ダイアログボックスが表示されます。
コード情報	データファイルのコード体系を表示します。

抽出条件

「データファイルの編集モード」が、「更新」、「表示」の時だけ設定することができます。「全件」、「格納順」、「データ条件」から選択します。「格納順」または「データ条件」が設定された際、「設定」ボタンが押下可能となります。設定手順は以下の通りとなります。

格納順	1. 「設定」ボタンを押下すると、「 <a href="#">格納順範囲設定</a> 」ダイアログボックスが表示されます。
	2. 「 <a href="#">格納順範囲設定</a> 」ダイアログボックスにて、各設定を行います。
	3. 設定がすべて完了したら、「OK」ボタンを押下します。その後、「テストケース選択」ダイアログボックスに戻ります。
データ条件	1. 「設定」ボタンを押下すると、「 <a href="#">条件設定</a> 」ダイアログボックスが表示されます。
	2. 「 <a href="#">条件設定</a> 」ダイアログボックスにて、各設定を行います。
	3. 設定がすべて完了したら、「OK」ボタンを押下します。その後、「テストケース選択」ダイアログボックスに戻ります。

フォーマットファイルがレイアウト定義ファイルの場合、「データ条件」で抽出する事はできません。

コメント

コメント内容を表示します。



## テストケース設定

### テストケース選択ダイアログボックスとは

フォーマット情報やデータファイル情報を設定するための画面です。

### 画面イメージ



### コントロールの説明

#### フォーマット情報

- ・ファイル種別

「[環境設定（フォーマット解析方法）](#)」内の「ファイル種別」で設定した内容が表示されます。

・COBOL登録集（または、YPSインクルード仕様書・ファイル定義体・レイアウト定義ファイル）の設定手順については以下の通りです。

1. 「設定」ボタンを押下すると「[フォーマットファイルを指定する](#)」ダイアログボックスが表示されます。

2. COBOL登録集（または、YPSインクルード仕様書・ファイル定義体・レイアウト定義ファイル）ファイル名を設定し、「OK」ボタンを押下します。「キャンセル」ボタンを押下すると「テストケース設定」ダイアログボックスに戻ります。

環境設定（フォーマット解析方法）の「ファイル種別」で選択されているファイル種別のものだけ、指定可能です。それ以外は、解析エラーとなります。

3. 「フォーマットファイル XXXXXXXXを解析しますか」メッセージボックスが表示されます。

4. 「OK」ボタンを押下するとCOBOL登録集（または、YPSインクルード仕様書・ファイル定義体・レイアウト定義ファイル）の解析を開始します。「キャンセル」ボタンを押下すると「テストケース設定」ダイアログボックスに戻ります。

5. 解析が正常終了した場合は、「テストケース設定」ダイアログボックスに戻り、ファイル名とレコード長および、データファイル情報のレコード長が表示されます。解析エラーが発生した場合は、その旨のメッセージボックスが表示され、「テストケース設定」ダイアログボックスに戻ります。

- ・文字コード  
「環境設定（フォーマット解析方法）」内の「文字コードの扱い」で設定した内容が表示されます。
- ・バイナリ  
「環境設定（フォーマット解析方法）」内の「2進項目の扱い」で設定した内容が表示されます。

データファイル情報

- ・ファイル編成  
データファイルの編成を「順編成」、「行順編成」、「索引編成」、「相対編成」から選択します。
- ・レコード形式  
データファイルのレコード形式を「固定長」、「可変長」から選択します。デフォルトでは、「固定長」に設定されています。また、既存データファイル操作時でかつ、「ファイル編成」で「索引編成」が設定された場合、この項目は、設定不可となります。（データファイルより自動取得するため）
- ・レコード長  
データファイルのレコード長（最大レコード長）を指定します。デフォルトでは、COBOL登録集（または、YPSインクルード仕様書・ファイル定義体・レイアウト定義ファイル）のレコード長が設定されています。1～32760の範囲で指定可能です。また、既存データファイル操作時でかつ、「ファイル編成」で「索引編成」が設定された場合、この項目は設定不可となります。（データファイルより自動取得するため）
- ・最小レコード長  
データファイルの最小レコード長を指定します。データファイル新規作成操作時でかつ、「ファイル編成」で「索引編成」を選択、かつ「レコード形式」で「可変長」が選択されている場合に、設定可能です。デフォルトでは、0が設定されています。1～レコード長の値の範囲で指定可能です。また、既存データファイル操作時でかつ、「ファイル編成」で「索引編成」が設定された場合、この項目は設定不可となります。（データファイルより自動取得するため）

ここで直接設定しなくても、次のキー情報を設定することにより、自動的に設定されます。

- ・キー情報「設定」  
データファイル新規作成操作時でかつ、「ファイル編成」で「索引編成」が選択されている場合に、設定可能です。キー情報の設定手順については、以下の通りです。
1. 「設定」ボタンを押下すると、「[キー情報設定](#)」ダイアログボックスが表示されます。
  2. キー情報の設定を行います。

主キー/副キー	キーを構成するフィールドを、「相対位置（バイト），（カンマ）長さ（バイト）」の形式で設定します。相対位置は1から開始します。複数指定は/（スラッシュ）で区切ります。
	例） ' 1 , 10/11 , 5 '
重複キーあり	主キーまたは、それぞれの副キーに対して重複を許可するかどうかを設定します。

3. すべての設定が完了したら、「OK」ボタンを押下します。その後、「テストケース設定」ダイアログボックスに戻ります。また、索引編成の可変長レコード形式、かつ最小レコード長に値が設定されていないか、設定値にキー情報との不整合が生じた場合、自動的に最小レコード長を再設定します。

- ・コード情報

データファイルのコード体系を指定します。既存のデータファイル操作時、「[環境設定\(コード変換情報\)](#)」内で設定されている、コード体系がデフォルトとして表示されます。

「EUC」が選択された場合のみ、「カナJIS8モード」かどうかを指定できます。  
ファイル編成で「行順編成」を選択、かつ「Unicode」が選択された場合のみ、「行順編成ファイルのコード種別」を選択できます。

#### ・コメント

テストケースの内容を認識ためのコメントを記述する欄です。必要なければ、空白のままで構いません。



キー情報設定

キー情報設定ダイアログボックスとは

索引編成ファイルの新規作成時にレコードキーを設定するための画面です。

画面イメージ

キー情報設定

主キー 位置,長さ [ / 位置,長さ ]

1,10

☐ 重複キー有り

副キー

☐ 重複キー有り

☐ 重複キー有り

☐ 重複キー有り

☐ 重複キー有り

OK

キャンセル

ヘルプ

コントロールの説明

主キー	キーを構成するフィールドを、「相対位置 (バイト), (カンマ) 長さ (バイト)」の形式で設定します。 相対位置は1から開始します。 複数指定は/ (スラッシュ) で区切ります。例) 「1, 10/11, 5」 設定可能な情報は、256文字分の情報です。それ以降は無効となります。
副キー	キーを構成するフィールドを、「相対位置 (バイト), (カンマ) 長さ (バイト)」の形式で設定します。 相対位置は1から開始します。 複数指定は/ (スラッシュ) で区切ります。例) 「1, 10/11, 5」 設定可能な情報は、256文字分の情報です。それ以降は無効となります。
重複キー有り	主キー/副キー毎に重複を許可するかどうかの設定を行います。

キー情報参照

キー情報参照ダイアログボックスとは

索引編成ファイルのレコードキー情報を参照するための画面です。

画面イメージ



コントロールの説明

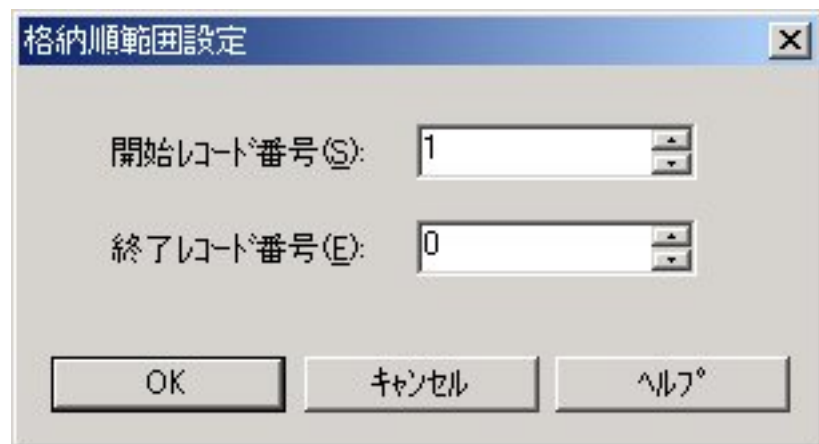
種別	レコードキー名（主キー・副キー）を表示します。
重複	キー毎に重複が許可されているかを表示します。 - 空白：重複が許可されていないことを示します。 - 重複：重複が許可されていることを示します。
設定内容	キーを構成するフィールドを、「相対位置（バイト）,（カンマ）長さ（バイト）」の形式で表示します。

## 格納順範囲設定

### 格納順範囲設定ダイアログボックスとは

既存データファイルから抽出するレコードの範囲を指定するための画面です。データファイルに格納されているレコードの順序に従って「開始レコード番号」から「終了レコード番号」に相当するレコードを抽出します。

### 画面イメージ



### コントロールの説明

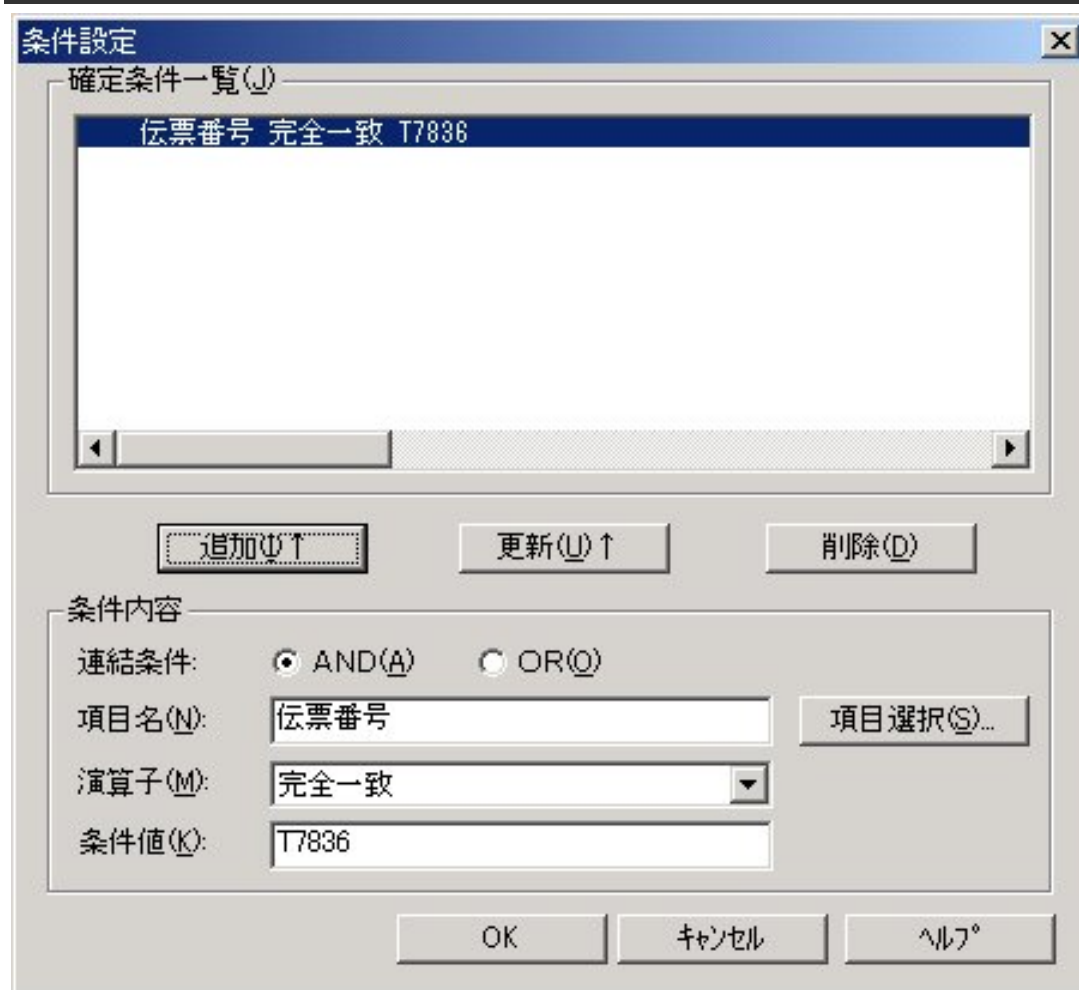
開始レコード番号	格納順に抽出するデータの開始レコード番号を指定します。 デフォルトは1です。
終了レコード番号	格納順に抽出するデータの終了レコード番号を指定します。 デフォルトは0です。（0は最終レコードを意味する。）

## 条件設定

### 条件設定ダイアログボックスとは

既存データファイルから抽出するレコードのデータ条件を指定するための画面です。指定したデータ条件に合致するレコードのみ抽出します。

### 画面イメージ



### 抽出条件の設定方法

#### 追加

画面下部の条件内容で項目名・条件値・条件（2件目以降時は、連結条件も選択必要）をそれぞれ設定し、追加ボタンを押下します。画面上部の確定条件一覧に抽出条件が追加されます。最大10条件指定することが可能です。

#### 更新

画面上部の確定条件一覧で変更したい条件を選択後、画面下部の条件内容で項目名・演算子・条件（2件目以降時は、連結条件も選択必要）をそれぞれ設定し、更新ボタンを押下します。確定条件一覧の抽出条件が更新されます。

#### 削除

画面上部の確定条件一覧で削除したい条件を選択後、削除ボタンを押下します。確定条件一覧から抽出条件が削除されます。

同一項目の複数設定が可能です。

### コントロールの説明

#### 確定条件一覧

設定したデータ条件が表示されます。ここで表示されている条件でデータを抽出します。

条件内容

・ 連結条件

データ条件を 2 つ以上指定する場合、前の条件との連結子を「AND」、「OR」から選択します。デフォルトでは、「AND」に設定されています。

・ 項目名

抽出条件を設定するデータ項目名を指定します。  
また、項目選択ボタン押下により、「[項目の選択](#)」ダイアログボックス内の項目一覧から選択することができます。

アイテムセレクト機能で選択している項目のみ設定可能です。（デフォルトでは、基本項目のみ設定可能です。）  
OCCURS句をもつ項目の場合、アイテムセレクト機能の「OCCURS句を展開する」の設定状況により、指定方法が異なります。それは、以下の通りです。

チェックしている場合	データ項目名に添字を付加して指定します。
チェックしていない場合	データ項目名のみ指定します。（添字を付加しない）

・ 演算子

項目のデータ内容と条件値を比較するための演算子を選択します。データ項目属性により、以下のように指定可能な演算子が異なります。

文字型属性	「前方一致」、「完全一致」
数字型属性	「＝」、「」、「＞」、「」、「＜」、「」

・ 演算子

抽出条件値を設定します。

## 抽出確認

### 抽出確認ダイアログボックスとは

抽出対象のレコード件数を確認するための画面です。データファイルに何件のレコードが存在するかわからない場合や、抽出条件にヒットするレコード件数を知るのに有効です。

### 画面イメージ



### コントロールの説明

#### ヒット件数

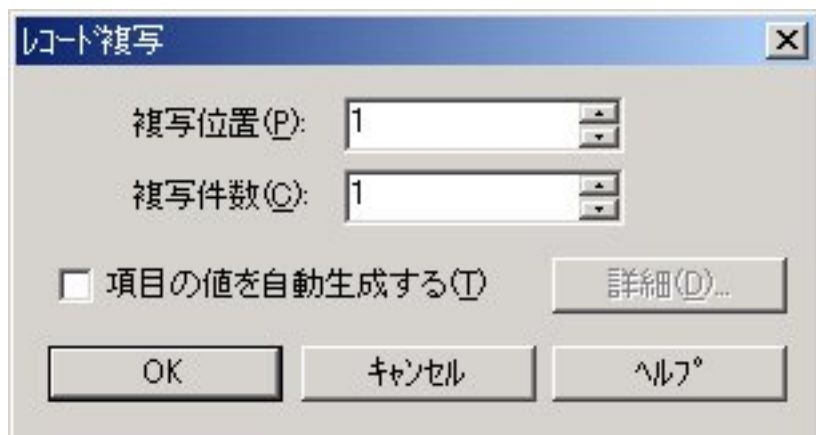
抽出対象のレコード件数が表示されます。

## レコード複写（順/行順編成ファイルの場合）

### レコード複写ダイアログボックスとは

「レコード複写」処理に必要な情報を指定するための画面です。現在表示中のレコードを複写位置で指定された位置に挿入複写します。複写位置に「ゼロ」を指定すれば最後尾に追加複写します。また、一度に複数件の複写が可能です。

### 画面イメージ



### コントロールの説明

#### 複写位置

現在表示中のレコードを複写位置で指定された位置に挿入複写します。複写位置に「ゼロ」を指定すれば最後尾に追加複写します。デフォルトは、表示されているレコードの位置になります。

#### 複写件数

複写する件数の指定を行います。

#### 項目の値を自動生成する

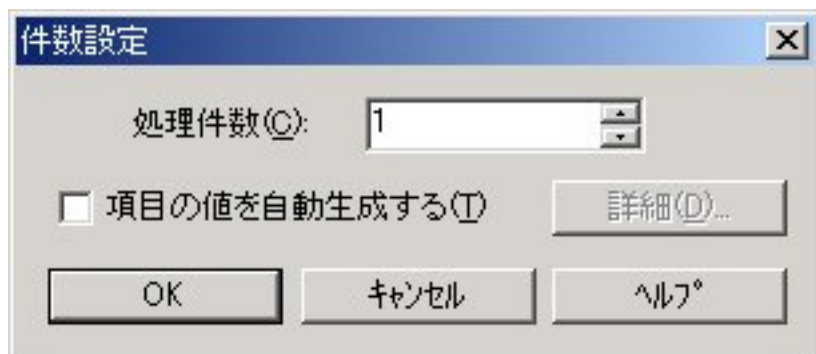
チェックすると、複写するレコードの一部のデータを自動生成値に置き換えて追加します。詳細ボタン押下により、「[データ生成](#)」ダイアログボックスが表示され、データ生成に関する詳細設定が行えます。

## 件数設定（順/行順編成ファイルの場合）

### 件数設定ダイアログボックスとは

「レコード挿入」 / 「最後に追加」 / 「レコード削除」処理時に必要なレコード件数を指定するための画面です。

### 画面イメージ



### コントロールの説明

#### 処理件数

「レコード挿入」 / 「最後に追加」処理時は、何レコード追加するのかを指定します。「レコード削除」処理時は、現在表示中のレコードから何レコード削除するのかを指定します。

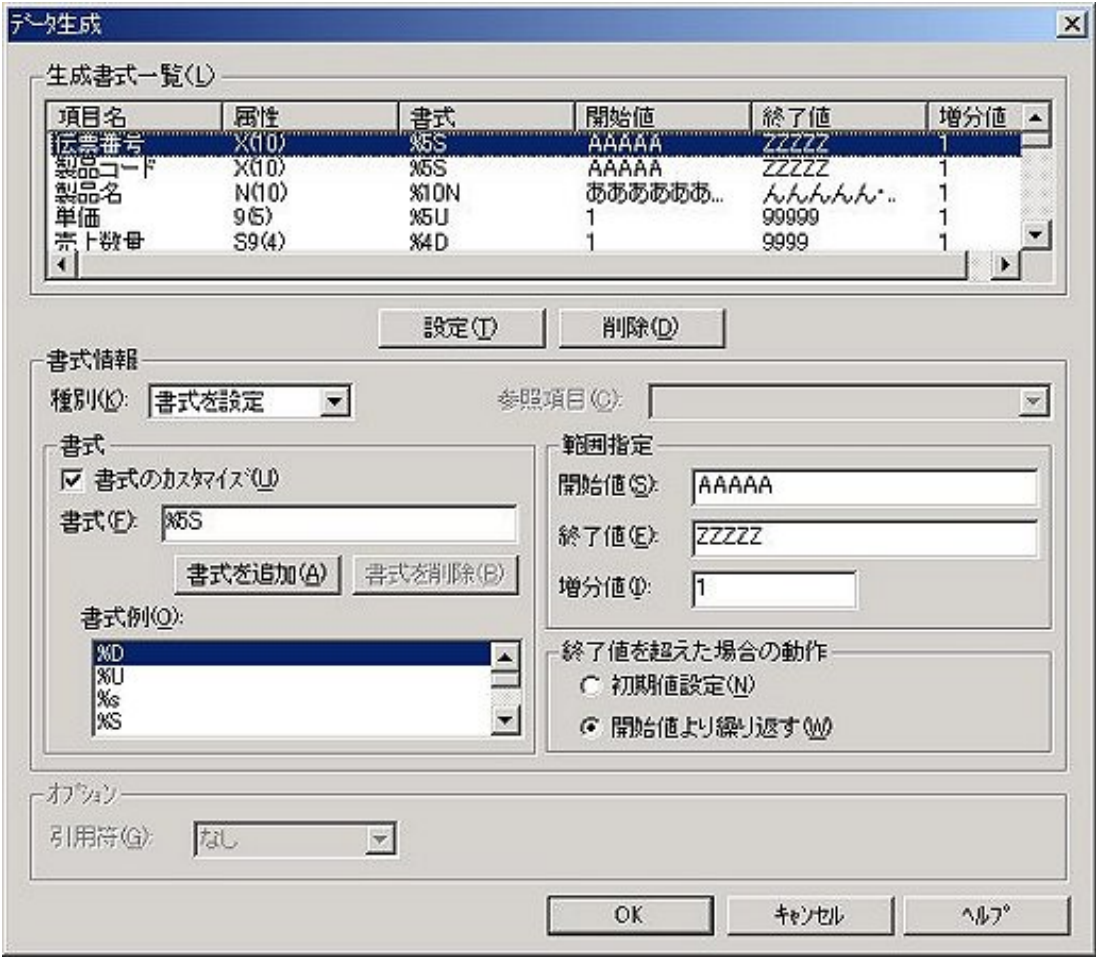
#### 項目の値を自動生成する

チェックすると、レコードの一部のデータを自動生成値に置き換えて追加します。詳細ボタン押下により、「[データ生成](#)」ダイアログボックスが表示され、データ生成に関する詳細設定が行えます。「レコード削除」処理時は、選択できません。



データの自動生成（レコード追加、レコード複写処理時）に関する詳細設定を行うための画面です。

画面イメージ



コントロールの説明

項目の生成書式一覧

データ生成に関する情報の一覧が表示されているため、設定状況を確認できます。また、データ生成方法を指定するデータ項目の選択もここでを行います。

書式情報

・ 種別

データ生成の種別を「初期値を設定」、「書式を設定」、「他の項目を参照」から選択します。デフォルトでは、「書式を設定」が選択されています。

初期値を設定	項目属性毎の初期値を設定します。
書式を設定	書式を設定し、書式に従ってデータ生成します。
他の項目を参照	指定されたデータ項目のデータ生成方法に従います。

「書式を設定」での書式情報のデフォルト値  
・ フォーマット情報の解析後初めて「データ生成」を選択した場合には、すべての項目のデータ生成の種別は「書式を設定」が選択され、下表のような各データ項目属性に沿ったデフォルト値が設定されます。

データ項目属性	書式	開始値	終了値	増分値
符号あり数値	D	1	9(桁数分)	開始値の数値
符号なし数値(少数点なし)	U	1	9(桁数分)	開始値の数値
符号なし数値(少数点あり)	U	0.0(桁数分-1)1	9(桁数分).9(桁数分)	開始値の数値
英文字	S	A(桁数分 最大桁数5桁)	Z(桁数分 最大桁数5桁)	1
日本語	N	あ(桁数分)	ん(桁数分)	1

・ 参照項目

参照するデータ項目名を指定します。種別で「他の項目を参照」を選択した場合、設定可能です。

・書式

書式のカスタマイズ

チェックすると書式をカスタマイズすることができます。

書式

書式を指定します。種別で「書式を設定」を選択すると、各項目属性に合わせた書式がデフォルトとして設定されます。

[書式の形式]

書式は、可変部と固定部により構成されます。可変部のみ、固定部のみの指定でも構いません。また、指定順に制限はありません。

可変部	文字「%」（パーセント）で始まり、「桁数」、「書式文字」の順で指定します。	
	指定例）%9D	
	[桁数]	データ項目属性の範囲内で指定可能です。可変部を複数指定した場合、合計の桁数がデータ項目属性の範囲内になるように設定する必要があります。（固定部を含む場合、その桁数も考慮する必要があります。） 書式文字「YMD」「YMA」時の桁数は、4か2のみ指定可能です。
	[書式文字]	符号付き数値。 D 値の取り得る範囲は、0～9です。  指定可能な項目属性は、文字型（英数字項目など）・数字型（外部10進項目など）です。
		符号無し数値。 U 値の取り得る範囲は、0～9です。  指定可能な項目属性は、文字型（英数字項目など）・符号無し数字型（外部10進項目など）です。
		半角英小文字。 s 値の取り得る範囲は、a～zです。増分方法は、文字列全体に対して増分値を加算した形式で行います。  指定可能な項目属性は、文字型（英数字項目など）です。
		半角英大文字。 S 値の取り得る範囲は、A～Zです。増分方法は、文字列全体に対して増分値を加算した形式で行います。  指定可能な項目属性は、文字型（英数字項目など）です。
		全角文字。 N 値の取り得る範囲は、JIS非漢字／第一水準／第二水準です。増分方法は、それぞれの桁に対して増分値を加算した形式で行います。  指定可能な項目属性は、日本語型（日本語項目など）です。
		日付（エラーなし）。 YMD 値の取り得る範囲は、実際に存在する日付です。  指定可能な項目属性は、文字型（英数字項目など）です。
		日付（エラーあり）。 YMA 値の取り得る範囲は、実際に存在しない日付を含みます。（全月、31日まで）  指定可能な項目属性は、文字型（英数字項目など）です。
		時間 T 時分秒を含むデータです。  指定可能な項目属性は、文字型（英数字項目など）です。
		日付＋時間 TS 年月日および時分秒を含むデータです。  指定可能な項目属性は、文字型（英数字項目など）です。
固定部	文字「'」（シングルクォート）で文字列の最初と最後を囲います。	
	指定例）'9999'	

書式例

書式例が一覧で表示されています。初期時、「%D」、「%U」、「%s」、「%S」、「%N」、「%YMD」、「%YMA」、「%T」、「%TS」が登録されています。自分が設定した書式を書式例に追加することや、必要のなくなった書式例を削除することも可能です。ただし初期登録されているものは、削除できません。

・範囲指定

#### 開始値

可変部の開始値を設定します。可変部が複数ある場合は、文字「,」（カンマ）で区切って指定します。指定する文字は、対応する書式が取り得る範囲内である必要があります。

#### 終了値

可変部の終了値を設定します。可変部が複数ある場合は、文字「,」（カンマ）で区切って指定します。指定する文字は、対応する書式が取り得る範囲内である必要があります。

#### 増分値

可変部の増分値を設定します。-9～+9で指定可能です。

#### 終了値を超えた場合の動作

可変部の値が終了値を超えた場合の扱いを「初期値設定」、「開始値より繰り返す」から選択します。

### 使用例

書式：D（符号付き数値）

書式「D」の使用例を以下に示します。

例1）PIC S9(5)で定義されている項目に対して、それぞれ「101」～「200」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式	%5D
開始値	+00101 (101でも可)
終了値	+00200 (200でも可)
増分値	1
処理件数	100

例2）PIC S9(5)で定義されている項目に対して、それぞれ「50」～「-49」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式	%5D
開始値	+00050 (50でも可)
終了値	-00049 (-49でも可)
増分値	-1
処理件数	100

書式：U（符号無し数値）

書式「U」の使用例を以下に示します。

例1）PIC 9(5)で定義されている項目に対して、それぞれ「101」～「200」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式	%5U
開始値	00101(101でも可)
終了値	00200(200でも可)
増分値	1
処理件数	100

例2）PIC X(10)で定義されている項目に対して、それぞれ「ABCDE00001」～「ABCDE00100」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式	'ABCDE'%5U
開始値	00001(1でも可)
終了値	00100(100でも可)
増分値	1
処理件数	100

書式：s（半角英小文字）

書式「s」の使用例を以下に示します。

例1）PIC X(5)で定義されている項目に対して、それぞれ「aaaaa」～「aaadv」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式	%5s
開始値	aaaaa

終了値	aaadv
増分値	1
処理件数	100

例2) PIC X(10)で定義されている項目に対して、それぞれ「aaaaa10cc」～「aaadv10fx」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式	%5s'10'%2s
開始値	aaaaa,cc
終了値	aaadv,zz
増分値	1
処理件数	100

書式：S（半角英大文字）

書式「S」の使用例を以下に示します。

例1) PIC X(5)で定義されている項目に対して、それぞれ「ZZZZZ」～「ZZZWE」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式	%5S
開始値	ZZZZZ
終了値	ZZZWE
増分値	-1
処理件数	100

例2) PIC X(10)で定義されている項目に対して、それぞれ「AAAAAAAA番」～「AAADVADV番」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式	%5S%3S'番'
開始値	AAAAA,AAA
終了値	AAADV,ADV
増分値	1
処理件数	100

書式：N（全角文字）

書式「N」の使用例を以下に示します。

例1) PIC N(5)で定義されている項目に対して、それぞれ「あああああ」～「んんんんん」の値をもつレコード82件を生成したい場合

書式	%5N
開始値	あああああ
終了値	んんんんん
増分値	1
処理件数	82

例2) PIC N(10)で定義されている項目に対して、それぞれ「日本語項目10000」～「日本語項目でてててて」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式	'日本語項目'%5N
開始値	10000
終了値	でてててて
増分値	1
処理件数	100

書式：YMD（日付：エラーなし）

書式「YMD」の使用例を以下に示します。

例1) PIC X(8)で定義されている項目に対して、それぞれ「20000101」～「20000410」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式	%4YMD
開始値	20000101
終了値	20000410

増分値	1
処理件数	100

例2) PIC X(6)で定義されている項目に対して、それぞれ「000101」～「000410」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式	%2YMD、または%YMD
開始値	000101
終了値	000410
増分値	1
処理件数	100

\* 2桁の年を表す値が「99」「02」の場合、その関係は「99<02」となります。

書式：YMA（日付：エラーあり）

書式「YMA」の使用例を以下に示します。

例1) PIC X(8)で定義されている項目に対して、それぞれ「20000101」～「20000407」の値（途中エラーの値含む）をもつレコード100件を生成したい場合

書式	%4YMA
開始値	20000101
終了値	20000407
増分値	1
処理件数	100

例2) PIC X(6)で定義されている項目に対して、それぞれ「990701」～「991007」の値（途中エラーの値含む）をもつレコード100件を生成したい場合

書式	%2YMA、または%YMA
開始値	990701
終了値	991007
増分値	1
処理件数	100

\* 2桁の年を表す値が「99」「02」の場合、その関係は「99>02」となります。

書式：T（時間）

書式「T」の使用例を以下に示します。

例1) PIC X(6)で定義されている項目に対して、それぞれ「100001」～「100140」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式	%T
開始値	100001
終了値	100140
増分値	1
処理件数	100

書式：TS（日付＋時間）

書式「TS」の使用例を以下に示します。

例1) PIC X(15)で定義されている項目に対して、それぞれ「20000101 100001」～「20000407 100140」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式	%TS
開始値	20000101 100001
終了値	20000407 100140
増分値	1
処理件数	100

データ一括更新

データ一括更新ダイアログボックスとは

データの自動生成（データ一括更新処理時）に関する詳細設定を行うための画面です。

画面イメージ

データ一括更新

生成書式

項目名 (C): 単価 参照 (R)...

属性: 9(5)

書式情報

種別 (K): 書式を設定

書式

☒ 書式のカスタマイズ (U)

書式 (F): %5U

書式を追加 (A) 書式を削除 (B)

書式例 (O):

%D%U%e%S

範囲指定

開始値 (S): 10000

終了値 (E): 50000

増分値 (I): 1

終了値を超えた場合の動作

☒ 初期値設定 (N)☐ 開始値より繰り返す (W)

OKキャンセルヘルプ

コントロールの説明

項目の生成書式

自動生成データに置換するデータ項目名を指定します。また、参照ボタン押下により、「[項目の選択](#)」ダイアログボックス内の項目一覧から選択することができます。

アイテムセレクト機能で選択している項目のみ設定可能です。（デフォルトでは、基本項目のみ設定可能です。）

OCCURS句をもつ項目の場合、アイテムセレクト機能の「OCCURS句を展開する」の設定状況により、指定方法が異なります。それは、以下の通りです。

チェックしている場合	データ項目名に添字を付加して指定します。
チェックしていない場合	データ項目のみ指定します。（添字を付加しない）

書式情報

- 種別  
データ生成の種別を「初期値を設定」、「書式を設定」から選択します。デフォルトでは、「初期値を設定」が選択されています。

初期値を設定	項目属性毎の初期値を設定します。
書式を設定	書式を設定し、書式に従ってデータ生成します。

## ・書式

### 書式のカスタマイズ

チェックすると書式をカスタマイズすることができます。

### 書式

書式を指定します。種別で「書式を設定」を選択すると、各項目属性に合わせた書式がデフォルトとして設定されます。

#### [書式の形式]

書式は、可変部と固定部により構成されます。可変部のみ、固定部のみの指定でも構いません。また、指定順に制限はありません。

可変部	文字「%」（パーセント）で始まり、「桁数」、「書式文字」の順で指定します。		
	指定例 ) %9D		
	[桁数]	データ項目属性の範囲内で指定可能です。可変部を複数指定した場合、合計の桁数がデータ項目属性の範囲内になるように設定する必要があります。（固定部を含む場合、その桁数も考慮する必要があります。） 書式文字「YMD」「YMA」時の桁数は、4か2のみ指定可能です。	
	[書式文字]	D	符号付き数値。 値の取り得る範囲は、0～9です。 指定可能な項目属性は、文字型（英数字項目など）・数字型（外部10進項目など）です。
		U	符号無し数値。 値の取り得る範囲は、0～9です。 指定可能な項目属性は、文字型（英数字項目など）・符号無し数字型（外部10進項目など）です。
		s	半角英小文字。 値の取り得る範囲は、a～zです。増分方法は、文字列全体に対して増分値を加算した形式で行います。 指定可能な項目属性は、文字型（英数字項目など）です。
		S	半角英大文字。 値の取り得る範囲は、A～Zです。増分方法は、文字列全体に対して増分値を加算した形式で行います。 指定可能な項目属性は、文字型（英数字項目など）です。
		N	全角文字。 値の取り得る範囲は、JIS非漢字 / 第一水準 / 第二水準です。増分方法は、それぞれの桁に対して増分値を加算した形式で行います。 指定可能な項目属性は、日本語型（日本語項目など）です。
		YMD	日付（エラーなし）。 値の取り得る範囲は、実際に存在する日付です。 指定可能な項目属性は、文字型（英数字項目など）です。

		YMA	<p>日付（エラーあり）。</p> <p>値の取り得る範囲は、実際に存在しない日付を含みます。（全月、31日まで）</p> <p>指定可能な項目属性は、文字型（英数字項目など）です。</p>
		T	<p>時間</p> <p>時分秒を含むデータです。</p> <p>指定可能な項目属性は、文字型（英数字項目など）です。</p>
		TS	<p>日付 + 時間</p> <p>年月日および時分秒を含むデータです。</p> <p>指定可能な項目属性は、文字型（英数字項目など）です。</p>
固定部	文字「 ' 」（シングルクォート）で文字列の最初と最後を囲います。		
	指定例） ' 9999 '		

## 書式例

書式例が一覧で表示されています。初期時、「%D」、「%U」、「%s」、「%S」、「%N」、「%YMD」、「%YMA」、「%T」、「%TS」が登録されています。自分が設定した書式を書式例に追加することや、必要のなくなった書式例を削除することも可能です。ただし初期登録されているものは、削除できません。

### ・範囲指定

#### 開始値

可変部の開始値を設定します。可変部が複数ある場合は、文字「 , 」（カンマ）で区切って指定します。指定する文字は、対応する書式が取り得る範囲内である必要があります。

#### 終了値

可変部の終了値を設定します。可変部が複数ある場合は、文字「 , 」（カンマ）で区切って指定します。指定する文字は、対応する書式が取り得る範囲内である必要があります。

#### 増分値

可変部の増分値を設定します。-9 ~ +9で指定可能です。

#### 終了値を超えた場合の動作

可変部の値が終了値を超えた場合の扱いを「初期値設定」、「開始値より繰り返す」から選択します。

## 使用例

書式：D（符号付き数値）

書式「D」の使用例を以下に示します。

例 1）既存レコード100件のPIC S9(5)で定義されている項目を、それぞれ「101」～「200」の値に置換したい場合

書式	%5D
開始値	+00101 (101でも可)
終了値	+00200 (200でも可)
増分値	1



例2) 既存レコード100件のPIC S9(5)で定義されている項目を、それぞれ「50」～「-49」の値に置換したい場合

書式	%5D
開始値	+00050 (50でも可)
終了値	-00049 (-49でも可)
増分値	-1

書式：U ( 符号無し数値 )

書式「U」の使用例を以下に示します。

例 1 ) 既存レコード100件のPIC 9(5)で定義されている項目を、それぞれ「101」～「200」の値に置換したい場合

書式	%5U
開始値	00101(101でも可)
終了値	00200(200でも可)
増分値	1

例2) 既存レコード100件のPIC X(10)で定義されている項目を、それぞれ「ABCDE00001」～「ABCDE00100」の値に置換したい場合

書式	'ABCDE'%5U
開始値	00001(1でも可)
終了値	00100(100でも可)
増分値	1

書式：s ( 半角英小文字 )

書式「s」の使用例を以下に示します。

例 1 ) 既存レコード100件のPIC X(5)で定義されている項目を、それぞれ「aaaaa」～「aaadv」の値に置換したい場合

書式	%5s
開始値	aaaaa
終了値	aaadv
増分値	1

例2) 既存レコード100件のPIC X(10)で定義されている項目を、それぞれ「aaaaa10cc」～「aaadv10fx」の値に置換したい場合

書式	%5s'10'%2s
開始値	aaaaa,cc
終了値	aaadv,zz
増分値	1

書式：S ( 半角英大文字 )

書式「S」の使用例を以下に示します。

例 1 ) 既存レコード100件のPIC X(5)で定義されている項目を、それぞれ「ZZZZZ」～「ZZZWE」の値に置換したい場合

書式	%5S
開始値	ZZZZZ
終了値	ZZZWE
増分値	-1

例2) 既存レコード100件のPIC X(10)で定義されている項目を、それぞれ「AAAAAAAA番」～「AAADVADV番」の値に置換したい場合

書式	%5S%3S'番'
開始値	AAAAA,AAA
終了値	AAADV,ADV
増分値	1

書式：N（全角文字）

書式「N」の使用例を以下に示します。

例1) 既存レコード82件のPIC N(5)で定義されている項目を、それぞれ「あああああ」～「んんんんん」の値に置換したい場合

書式	%5N
開始値	あああああ
終了値	んんんんん
増分値	1

例2) 既存レコード100件のPIC N(10)で定義されている項目を、それぞれ「日本語項目10000」～「日本語項目でててて」の値に置換したい場合

書式	'日本語項目'%5N
開始値	10000
終了値	でててて
増分値	1

書式：YMD（日付：エラーなし）

書式「YMD」の使用例を以下に示します。

例1) 既存レコード100件のPIC X(8)で定義されている項目を、それぞれ「20000101」～「20000410」の値に置換したい場合

書式	%4YMD
開始値	20000101
終了値	20000410
増分値	1

例2) 既存レコード100件のPIC X(6)で定義されている項目を、それぞれ「000101」～「000410」の値に置換したい場合

書式	%2YMD、または%YMD
開始値	000101
終了値	000410

増分値            1

\* 2桁の年を表す値が「99」「02」の場合、その関係は「99<02」となります。

書式：YMA（日付：エラーあり）

書式「YMA」の使用例を以下に示します。

例1）既存レコード100件のPIC X(8)で定義されている項目を、それぞれ「20000101」～「20000407」の値（途中エラーの値含む）に置換したい場合

書式	%4YMA
開始値	20000101
終了値	20000407
増分値	1

例2）既存レコード100件のPIC X(6)で定義されている項目を、それぞれ「990701」～「991007」の値（途中エラーの値含む）に置換したい場合

書式	%2YMA、または%YMA
開始値	990701
終了値	991007
増分値	1

\* 2桁の年を表す値が「99」「02」の場合、その関係は「99>02」となります。

書式：T（時間）

書式「T」の使用例を以下に示します。

例1）PIC X(6)で定義されている項目に対して、それぞれ「100001」～「100140」の値をもつレコード100件を生成したい場合

書式	%T
開始値	100001
終了値	100140
増分値	1
処理件数	100

書式：TS（日付＋時間）

書式「TS」の使用例を以下に示します。

例1）PIC X(15)で定義されている項目に対して、それぞれ「20000101 100001」～「20000407 100140」の値をもつレコード100件を生成したい場合

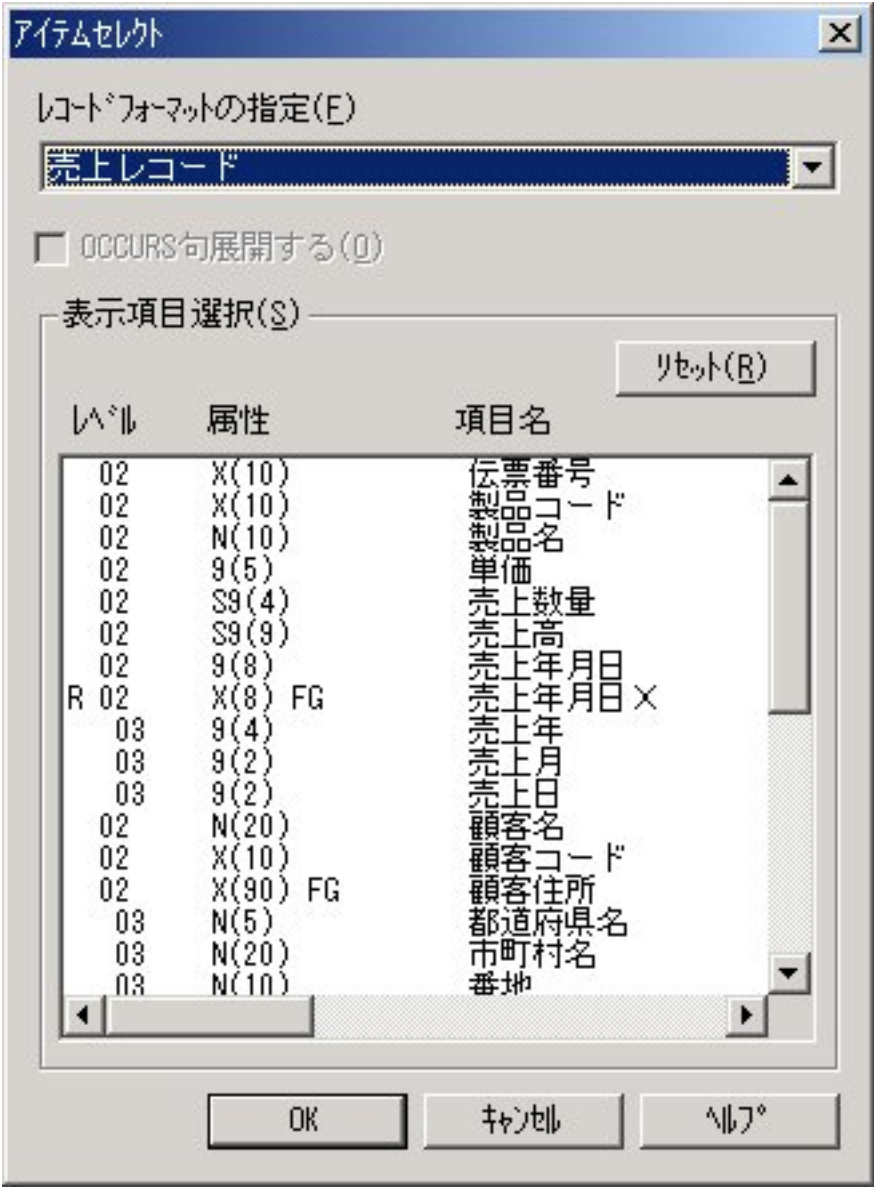
書式	%TS
開始値	20000101 100001
終了値	20000407 100140
増分値	1
処理件数	100

アイテムセレクト

アイテムセレクトダイアログボックスとは

「アイテムセレクト」処理時に必要な情報を設定するための画面です。アイテムセレクトを設定することにより、表示/編集したいデータ項目の選択、OCCURS句を展開せずに表示等の設定ができます。

画面イメージ



アイテムセレクト設定後の表示について

[レコード形式画面](#)および、[一覧形式画面](#) どちらでも、アイテムセレクトでの設定に従って表示されます。また、アイテムセレクトの設定情報は、[レコード形式画面](#)と[一覧形式画面](#)で共通です。

アイテムセレクトを設定しない場合（通常）

画面形式	表示されている項目の種類	編集できる項目
レコード形式画面	レコード/集団項目/基本項目	基本項目のみ
一覧形式画面	基本項目	基本項目のみ

・OCCURS句項目は、配列(1)～配列（最大値）の項目全てが選択されています。

- ・再定義項目は、選択されていません。

## コントロールの説明

### レコードフォーマットの指定

COBOL登録集ファイルに定義されている01レベルの項目(レコード)がすべて列挙されていますので、その中から表示したい項目を選択します。デフォルトでは、COBOL登録集ファイル内で最初に定義されているものが選択されています。

### OCCURS句展開する

OCCURS句定義されている項目を展開しない(配列(1)のみ)で表示するか、それとも展開して(配列(1)~配列(反復回数)をすべて)表示するかを選択します。デフォルトでは、展開するに設定されています。

**COBOL登録集ファイルにOCCURS句定義のある項目が存在する場合のみ選択可能です。**

### 表示項目の選択

項目一覧より表示/編集したい項目を選択します。[ Shift ] キーを押しながらクリックすることで、範囲選択することも可能です。

項目一覧の仕様は以下の通りとなっています。

- 「レコードフォーマットの指定」で選択されたレコード内の項目が全て表示されています。
- 「OCCURS句展開する」での設定内容に従って表示されています。
- 再定義項目については、左端に「R」の表記があり、COBOL登録集ファイルで定義されているのと同じ位置に表示されています。よって、同一階層内で一つ上に表示されている項目が被再定義項目となります。

**「R」の表記が同レベルにおいて2項目以上続けて表示されている場合について  
2つめ以降の再定義項目は、どの項目に対しての再定義であるか知る事ができません。COBOL登録集  
ファイルを参照して確認してください。**

例) 以下のDATA3は、DATA1とDATA2のどちらの項目に対しての再定義であるか分かりません。

< 項目一覧の内容 >  
03 DATA1  
R 03 DATA2  
R 03 DATA3

**OCCURS句指定をもつ再定義項目について  
「OCCURS句展開する」がチェックされている場合、OCCURS句指定をもつ再定義項目の要素すべて  
に「R」が表記されていますが、各要素単位で同時に選択することができます。**

例) 以下のDATA-Rは、DATAを再定義、かつOCCURS 2をもつ事を表しています。この場合、DATA-R(1)とDATA-R(2)を同時に選択することができます。

< 項目一覧の内容 >  
03 DATA  
R 03 DATA-R(1)  
R 03 DATA-R(2)

選択可能な条件は以下の通りです。

- 索引編成ファイルの場合、主キーに相当する項目は無条件で選択されています。
- 集団項目とその集団項目内に含まれる基本項目の両方を選択した場合は、集団項目のみ選択された形式となります。
- 被再定義項目とそれに対する再定義項目の両方を選択した場合は、被再定義項目のみ選択された形式となります。

MDPORT連携ダイアログボックスとは

「MDPORT連携」処理時に必要な情報を設定するための画面です。以下のようなインポート/エクスポート処理を行うことが可能です。

インポートとは

CSV形式ファイル、XML形式ファイルを編集中のファイルに取り込むことができます。  
インポート可能なCSV形式ファイルは、以下の項目を満たすものです。

項目	形式
区切り文字（デリミタ）	半角カンマ「,」により区切られたもの。
引用符	数値、文字項目ともに引用符で括られていないもの、 またはダブルコーテーション「"」で括られているもの。

インポート可能なXML形式ファイルは、MDPORTがサポートしている形式のものです。それ以外の形式で記述されたものはインポート時にエラーとなります。

XML形式ファイルをインポートする場合は、入力がXML形式、出力がデータ形式のレイアウト定義ファイルが必要です。

エクスポートとは

編集中のデータ内容を、異なるコード/ファイル編成のデータファイル、CSV形式、またはXML形式に変換して出力することができます。なお、出力対象となるデータ項目はアイテムセレクトで選択されているもののみです。アイテムセレクトしていない場合は、全ての基本項目が対象となります。

XML形式ファイルをエクスポートする場合は、入力がデータ形式、出力がXML形式のレイアウト定義ファイルが必要です。

< 注意 >

[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

MDPOROT連携

インポート/エクスポート

☒ インポート(P)

☐ エクスポート(E)

データ形式

☐ データファイル形式(D)

☒ CSV形式(C)

☐ XML形式(X)

アイテムセレクトで選択されていない項目の扱い

☐ フィールドを詰める(Q)

チェックしないとフィールドにNULLが埋め込まれます。

インポートするデータの位置

挿入位置(Q): 1

"0"が指定された場合、最後に追加します。

インポートするCSVファイルの引用符

引用符(Q): なし

対象ファイル指定(Z)

参照(V)...

XML形式のレイアウト定義ファイル指定(L)

☒ 既存ファイルを指定(S) ☐ 新規作成(N)

参照(R)...

MDPOROT起動(M) キャンセル ヘルプ?

## コントロールの説明

### インポート/エクスポート

「インポート」/「エクスポート」から処理を選択します。

### データ形式

ファイル形式を「データファイル形式」、「CSV形式」、「XML形式」から選択します。「インポート」の場合、「データファイル形式」は選択できません。

### アイテムセレクトで選択されていない項目の扱い

「エクスポート」の時だけ、有効です。  
 アイテムセレクトでデータ項目を絞り込んでいない場合、関係ありません。  
 アイテムセレクトされていない項目にあたる部分のデータをNULLで出力するか、または詰めて出力するかを選択します。チェックした場合は、後者になります。「データ形式」で「データファイル形式」を設定した場合、有効となります。また、出力されるファイルのレコード長のデフォルト値は、次のとおりとなります。

- 「フィールドを詰める」をチェックした場合  
 アイテムセレクトで選択したデータ項目の項目長の総和

- 「フィールドを詰める」をチェックしない場合  
 アイテムセレクトで選択した先頭データ項目から、アイテムセレクトで選択した最終データ項目までの総和（途中の選択していない項目の長さも含まれる）

### インポートするデータの位置

「インポート」の時だけ、有効です。  
取り込んだデータを編集集中データの何レコード目に挿入するかを指定します。デフォルト値は、「1」（先頭）が設定されています。

MDPORTの操作方法に関しては、SIMPLIA/TF-MDPORTオンラインマニュアルを参照してください。

インポートするCSVファイルの引用符

CSVファイルの引用符を指定します。デフォルト値は、「なし」が設定されています。

対象ファイル指定

編集集中のファイルに取り込むファイルを指定します。

XML形式のレイアウト定義ファイル指定

MDPORTのレイアウト定義で作成したレイアウト定義ファイルを指定します。  
または新規作成するレイアウト定義ファイルを指定します。

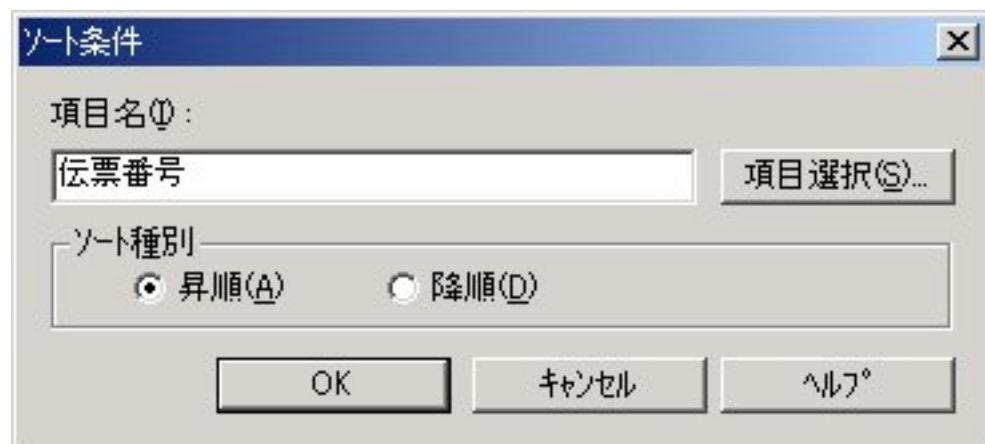


## ソート条件

### ソート条件ダイアログボックスとは

抽出中のデータをソートするための、ソートキーに割り当てるデータ項目名と並び順を指定するための画面です。

### 画面イメージ



### コントロールの説明

#### 項目名

ソートキーに割り当てるデータ項目名を指定します。デフォルトでは、直前に[レコード形式画面](#)または、[一覧形式画面](#)でカーソルが位置付けられていた項目名が設定されています。  
また、項目選択ボタン押下により、「[項目の選択](#)」ダイアログボックス内の項目一覧から選択することができます。

アイテムセレクト機能で選択している項目のみ設定可能です。（デフォルトでは、基本項目のみ設定可能です。）

OCCURS句をもつ項目の場合、アイテムセレクト機能の「OCCURS句を展開する」の設定状況により、指定方法が異なります。それは、以下の通りです。

チェックしている場合	データ項目名に添字を付加して指定します。
チェックしていない場合	データ項目名のみ指定します。（添字を付加しない）

#### ソート種別

ソートの並び順を「昇順」、「降順」から選択します。デフォルトでは、「昇順」が設定されています。

## 印刷

### 印刷ダイアログボックスとは

印刷に関する標準的な設定をするための画面です。TF-LINDAでは一覧形式イメージでのデータの印刷を行います。

その他の印刷に関する設定については、「[印刷ページ設定](#)」プロパティで行います。

実際に印刷する前に印刷イメージを確認したい場合は、「[印刷プレビュー](#)」画面にて行ってください。

### 画面イメージ

印刷

プリンタ

プリンタ名(N): SIMPLIASV05#FUJITSU XL-5800 プロパティ(P)...

状態: 準備完了

種類: FUJITSU XL-5800

場所: 3番柱の通路側\_SIMPLIASV05サーバ横

コメント: A4,B4,A3可能

印刷範囲

☒ すべて(A)

☐ ページ指定(G) 1 ページから(F)   
 ページまで(T)

☐ 選択した部分(S)

印刷部数

部数(C): 1

☒ 部単位で印刷(O)

1 1 2 2 3 3

OK キャンセル

### コントロールの説明

#### プリンタ

コンピュータに設定されているプリンタの選択および情報を表示します。

#### 印刷範囲

印刷する範囲を指定します。ドキュメント全体、または指定したページを印刷するように指定します。

#### 印刷部数

印刷する部数を指定します。

検索

検索ダイアログボックスとは

「検索」処理に必要な情報を設定するための画面です。「検索」処理とは、指定した文字列/数値を編集データ内から検索します。  
検索対象となるデータは、指定した 1 データ項目の範囲内のみです。

< 注意 >  
[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

画面イメージ

検索

検索文字列(S)

T9510-E-01

☒ 大文字／小文字を区別する(Q)

検索対象項目名①

伝票番号

参照(R)...

検索する方向

☒ 後方へ検索する(D)  
☐ 前方へ検索する(U)

OK

キャンセル

ヘルプ°

コントロールの説明

検索対象とする項目

検索対象とするデータ項目名を 1 つ指定します。デフォルトでは、直前に[レコード形式画面](#)または、[一覧形式画面](#)でカーソルが位置付けられていた項目名が設定されています。  
また、参照ボタン押下により、「[項目の選択](#)」ダイアログボックス内の項目一覧から選択することができます。  
指定するデータ項目名は、完全一致でなければなりません。

アイテムセレクト機能で選択している項目のみ設定可能です。（デフォルトでは、基本項目のみ設定可能です。）

OCCURS句をもつ項目の場合、アイテムセレクト機能の「OCCURS句を展開する」の設定状況により、指定方法が異なります。それは、以下の通りです。

チェックしている場合	データ項目名に添字を付加して指定します。
チェックしていない場合	データ項目名のみ指定します。（添字を付加しない）

検索文字列

検索したい文字列または数値を指定してください。最新のものから 5 つまで履歴をもつことが可能で、ツールを終了するまで有効です。また、検索対象のデータ項目属性により、以下のように指定方法が異なります。

文字型属性	単純に文字列を指定します。
数字型属性	<p>「比較演算子 + 数値」の形式で指定します。</p> <p>比較演算子として指定できる記号は、「=」（等しい）、「&gt;」（より上）、「&lt;」（より下）、「&gt;=」（以上）、「&lt;=」（以下）の5つです。また、「=」（等しい）の場合、省略可能です。</p> <p>例）500以上のデータを検索したい場合 &gt;=500</p> <p>符号および、小数点の指定も可能です。符号省略時は、正の数と見なします。また、符号なしのデータ属性に符号が入力された場合、その符号は無視します。</p> <p>比較演算子を指定する場合、先頭、および比較演算子間には、空白を入れないで下さい。</p> <p>エラーとなる例） 「 &gt;=500」（先頭に空白） 「&gt; =500」（比較演算子間に空白）</p>

大文字/小文字を区別する

大文字/小文字を別の文字として扱うかどうかを指定します。デフォルトでは、「区別する」が設定されています。文字型属性のデータ項目を検索する場合に有効となります。

検索する方向

現在のカーソル位置より、どの方向に向かって検索するか「前方へ検索する」「後方へ検索する」より選択します。デフォルトでは、「後方へ検索する」が設定されています。また、現在カーソルが位置づけられているデータ項目が「検索対象とする項目」と同一の場合、そのデータも検索対象に含まれます。

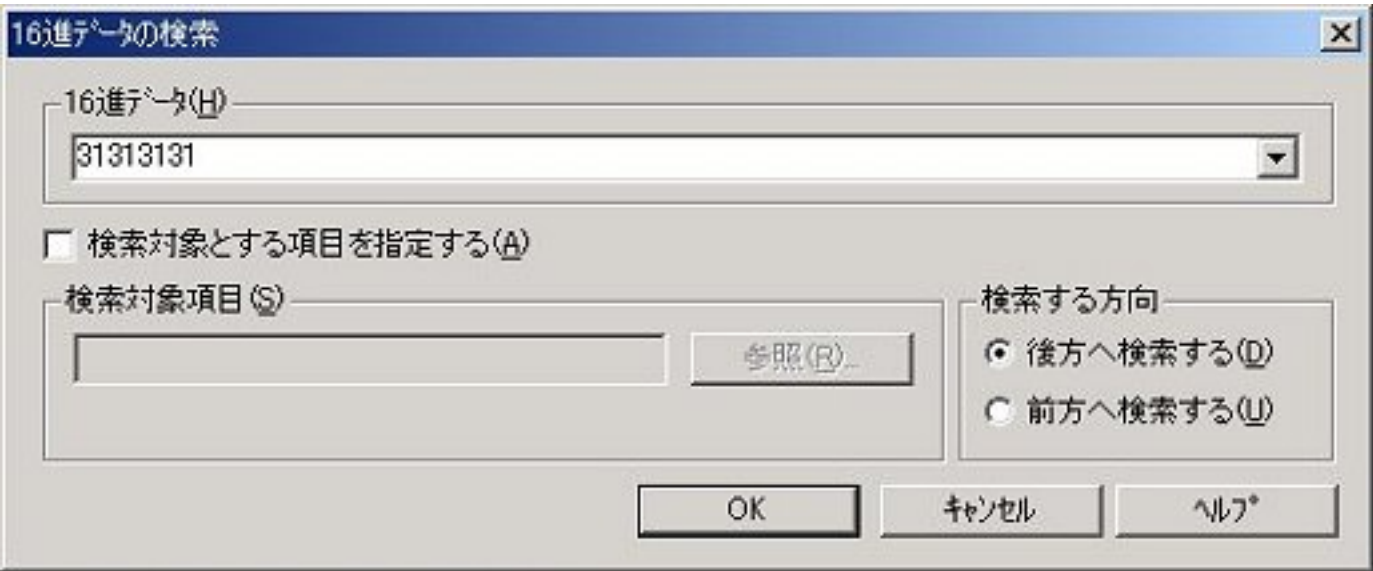
16進データの検索

16進データの検索ダイアログボックスとは

「16進データの検索」処理に必要な情報を設定するための画面です。「16進データの検索」処理とは、指定した16進数値を、編集データ内から検索します。  
検索対象は、検索データを指定しない限り、抽出/編集データすべてです。ただしアイテムセレクトにより、表示項目を選定している場合は、そのデータだけが検索対象となります。

< 注意 >  
[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

画面イメージ



コントロールの説明

16進データ

検索したい16進数値を指定してください。最新のものから5つまで履歴をもつことが可能で、ツールを終了するまで有効です。

検索対象とする項目を指定する

検索対象とするデータ項目名を指定するかどうかを指定します。指定しない場合は、全ての編集中データを検索対象とします。指定する場合は、データ項目名を1つだけ指定できます。  
また、参照ボタン押下により、「[項目の選択](#)」ダイアログボックス内の項目一覧から選択することが出来ます。  
指定するデータ項目名は、完全一致でなければなりません。

アイテムセレクト機能で選択している項目のみ設定可能です。（デフォルトでは、基本項目のみ設定可能です。）

OCCURS句をもつ項目の場合、アイテムセレクト機能の「OCCURS句を展開する」の設定状況により、指定方法が異なります。それは、以下の通りです。

チェックしている場合	データ項目名に添字を付加して指定します。
チェックしていない場合	データ項目名のみ指定します。（添字を付加しない）

検索する方向

現在のカーソル位置より、どの方向に向かって検索するか「前方へ検索する」「後方へ検索する」より選択します。デフォルトには、「後方へ検索する」が設定されています。また、現在カーソルが位置づけられているデータも検索対象に含まれます。（ただし、検索対象とする項目を指定した場合は、「検索」処理と同様）

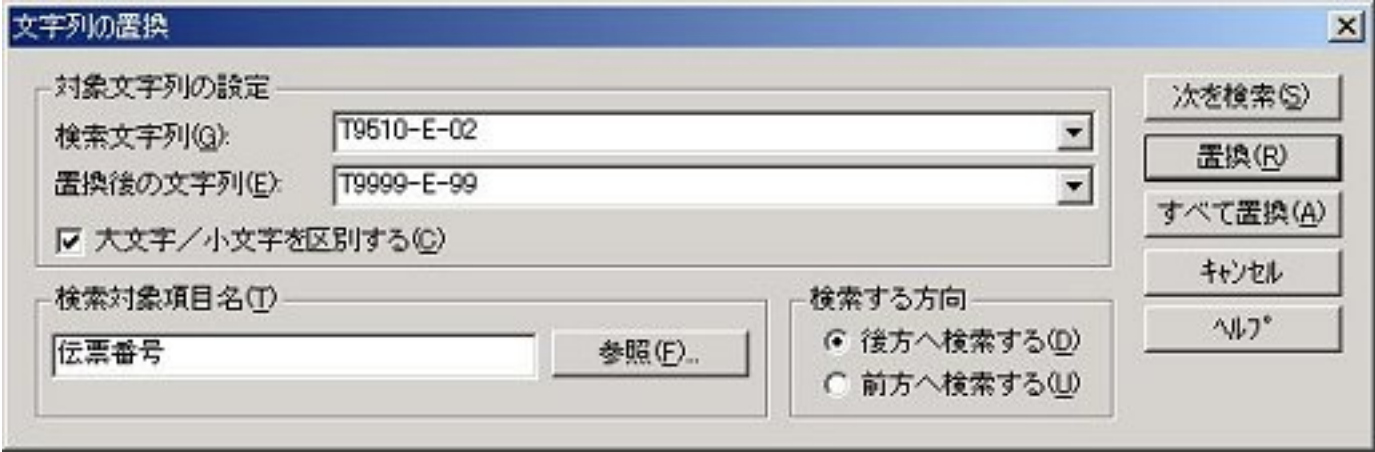
置換

置換ダイアログボックスとは

「置換」処理に必要な情報を設定するための画面です。「置換」処理とは、指定した文字列編集データ内から検索し、置換後の文字列に指定した文字列に置換します。検索対象となるデータは、指定した1データ項目の範囲内のみです。

< 注意 >  
[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

画面イメージ



コントロールの説明

検索文字列

検索したい文字列を指定してください。最新のものから5つまで履歴をもつことが可能で、ツールを終了するまで有効です。

置換後の文字列

置き換えたい文字列を指定してください。最新のものから5つまで履歴をもつことが可能で、ツールを終了するまで有効です。

大文字/小文字を区別する

大文字/小文字を別の文字として扱うかどうかを指定します。デフォルトでは、「区別する」が設定されています。文字型属性のデータ項目を検索する場合に有効となります。

検索対象項目名

検索対象とするデータ項目名を1つ指定します。デフォルトでは、直前に[レコード形式画面](#)または、[一覧形式画面](#)でカーソルが位置付けられていた項目名が設定されています。また、参照ボタン押下により、「[項目の選択](#)」ダイアログボックス内の項目一覧から選択することができます。指定するデータ項目名は、完全一致でなければなりません。

アイテムセレクト機能で選択している項目のみ設定可能です。（デフォルトでは、基本項目のみ設定可能です。）

OCCURS句をもつ項目の場合、アイテムセレクト機能の「OCCURS句を展開する」の設定状況により、指定方法が異なります。それは、以下の通りです。

チェックしている場合	データ項目名に添字を付加して指定します。
チェックしていない場合	データ項目名のみ指定します。（添字を付加しない）

検索する方向

現在のカーソル位置より、どの方向に向かって検索するか「前方へ検索する」「後方へ検索する」より選択します。デフォルトでは、「後方へ検索する」が設定されています。また、現在カーソルが位置づけられているデータ項目が「検索対象とする項目」と同一の場合、そのデータも検索対象に含まれます。



16進データの置換

16進データの置換ダイアログボックスとは

「16進データの置換」処理に必要な情報を設定するための画面です。「16進データの置換」処理とは、指定した16進数値を、編集データ内から検索し、置換後の文字列に指定した文字列に置換します。検索対象となるデータは、指定した1データ項目の範囲内のみです。

< 注意 >  
[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

画面イメージ



コントロールの説明

検索する16進データ

検索したい16進数値を指定してください。最新のもののから5つまで履歴をもつことが可能で、ツールを終了するまで有効です。

置換後の16進データ

置き換えたい16進データを指定してください。最新のもののから5つまで履歴をもつことが可能で、ツールを終了するまで有効です。

検索対象項目名

検索対象とするデータ項目名を1つ指定します。デフォルトでは、直前に[レコード形式画面](#)または、[一覧形式画面](#)でカーソルが位置付けられていた項目名が設定されています。  
また、参照ボタン押下により、「[項目の選択](#)」ダイアログボックス内の項目一覧から選択することが出来ます。  
指定するデータ項目名は、完全一致でなければなりません。

アイテムセレクト機能で選択している項目のみ設定可能です。（デフォルトでは、基本項目のみ設定可能です。）

OCCURS句をもつ項目の場合、アイテムセレクト機能の「OCCURS句を展開する」の設定状況により、指定方法が異なります。それは、以下の通りです。

チェックしている場合	データ項目名に添字を付加して指定します。
チェックしていない場合	データ項目名のみ指定します。（添字を付加しない）

検索する方向

現在のカーソル位置より、どの方向に向かって検索するか「前方へ検索する」「後方へ検索する」より選択します。デフォルトには、「後方へ検索する」が設定されています。また、現在カーソルが位置づけられているデータも検索対象に含まれます。（ただし、検索対象とする項目を指定した場合は、「検索」処理と同様）



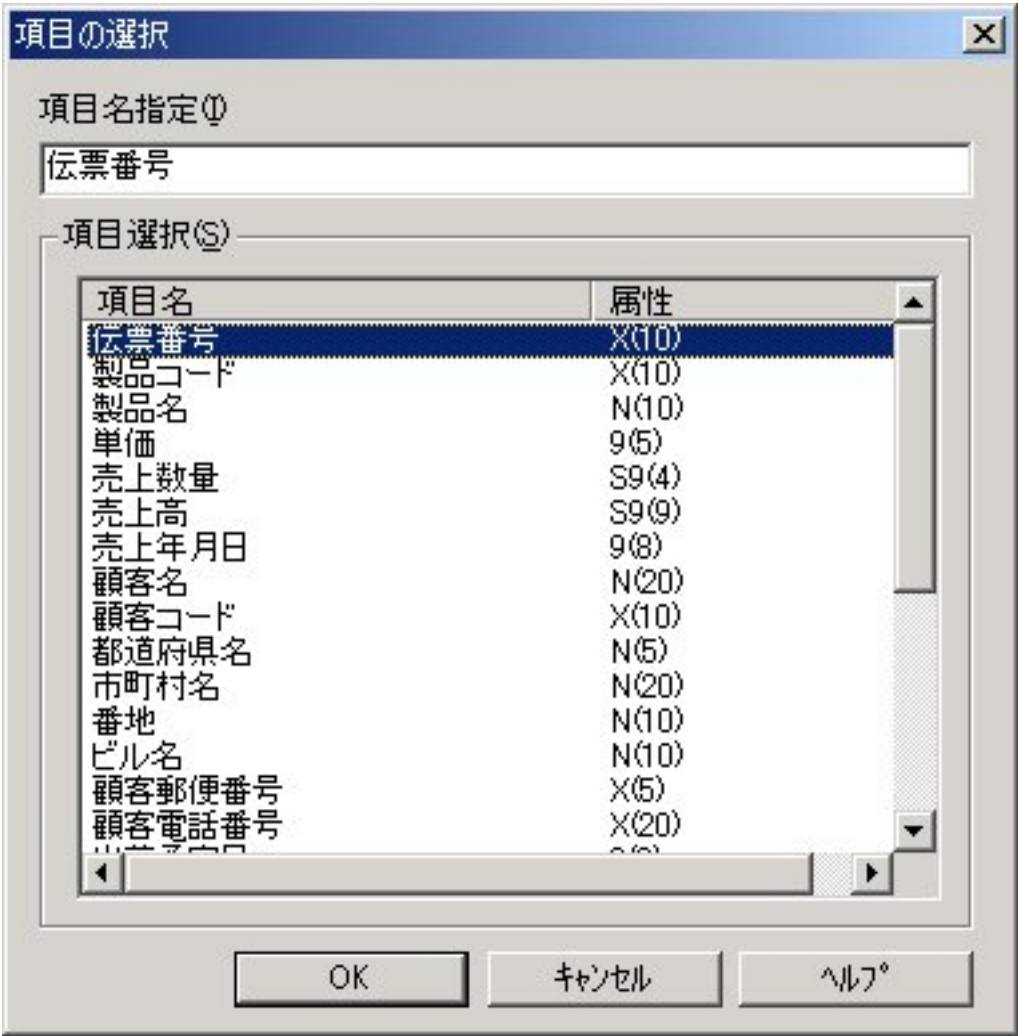
項目の選択

項目の選択ダイアログボックスとは

データ項目名を指定するための画面です。「項目名の検索」処理の場合、指定したデータ項目を画面の先頭に表示します。

< 注意 >  
[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

画面イメージ



コントロールの説明

項目名指定

データ項目名を指定します。  
指定するデータ項目名は、完全一致でなければなりません。

アイテムセレクト機能で選択している項目のみ設定可能です。（デフォルトでは、基本項目のみ設定可能です。）

OCCURS句をもつ項目の場合、アイテムセレクト機能の「OCCURS句を展開する」の設定状況により、指定方法が異なります。それは、以下の通りです。

チェックしている場合	データ項目名に添字を付加して指定します。
チェックしていない場合	データ項目名のみ指定します。（添字を付加しない）

項目選択

COBOL登録集（または、YPSインクルード仕様書・ファイル定義体・レイアウト定義ファイル）内で定義されているデータ項目の一覧が表示されています。ここで項目を選択することにより、上部の「項目名指定」エディットボックスに設定されます。

アイテムセレクト機能により表示項目を選定している場合、それらの項目しか表示されません。

## レコード番号による指定

### レコード番号による指定ダイアログボックスとは

データ内容を表示したいレコード番号を指定するための画面です。ここで指定したレコード番号に相当するレコードのデータ内容を表示します。

### 画面イメージ



### コントロールの説明

#### レコード番号

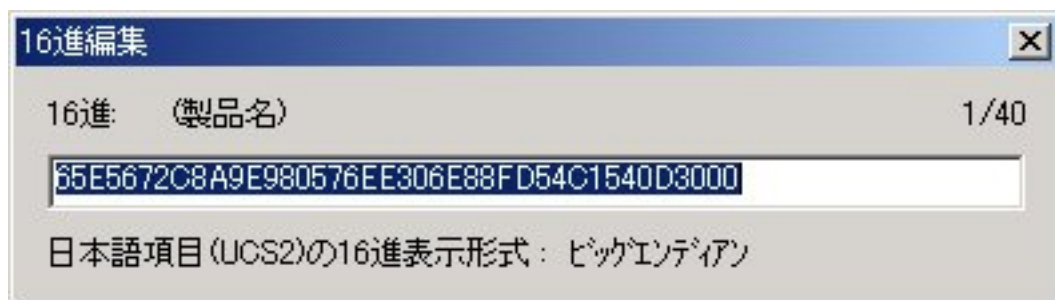
表示したいレコードの番号を指定します。「0(ゼロ)」を指定した場合は、最終レコードとなります。

## 16進編集

### 16進編集ダイアログボックスとは

16進数によるデータの表示/編集を行います。現在、カーソルの存在するデータ項目が処理対象となります。

### 画面イメージ



### コントロールの説明

#### 項目名

表示/編集対象のデータ項目名が表示されています。

#### カーソル位置

エディットボックス内のカーソル位置を「現在位置/全体桁数」の形式で表示します。

ただし、範囲選択時における現在位置の表示で、不正確なケースがあります。

#### データ内容

表示/編集対象のデータ内容が16進数表記で表示されています。ここでのデータ内容は、ファイルに格納されている形式と同一です。

#### 日本語項目（UCS2）の16進表示形式

16進数値が「ビッグエンディアン」、「リトルエンディアン」のどちらのモードになっているかを示します。

コード体系がUnicode、かつ日本語項目の際、表示されます。

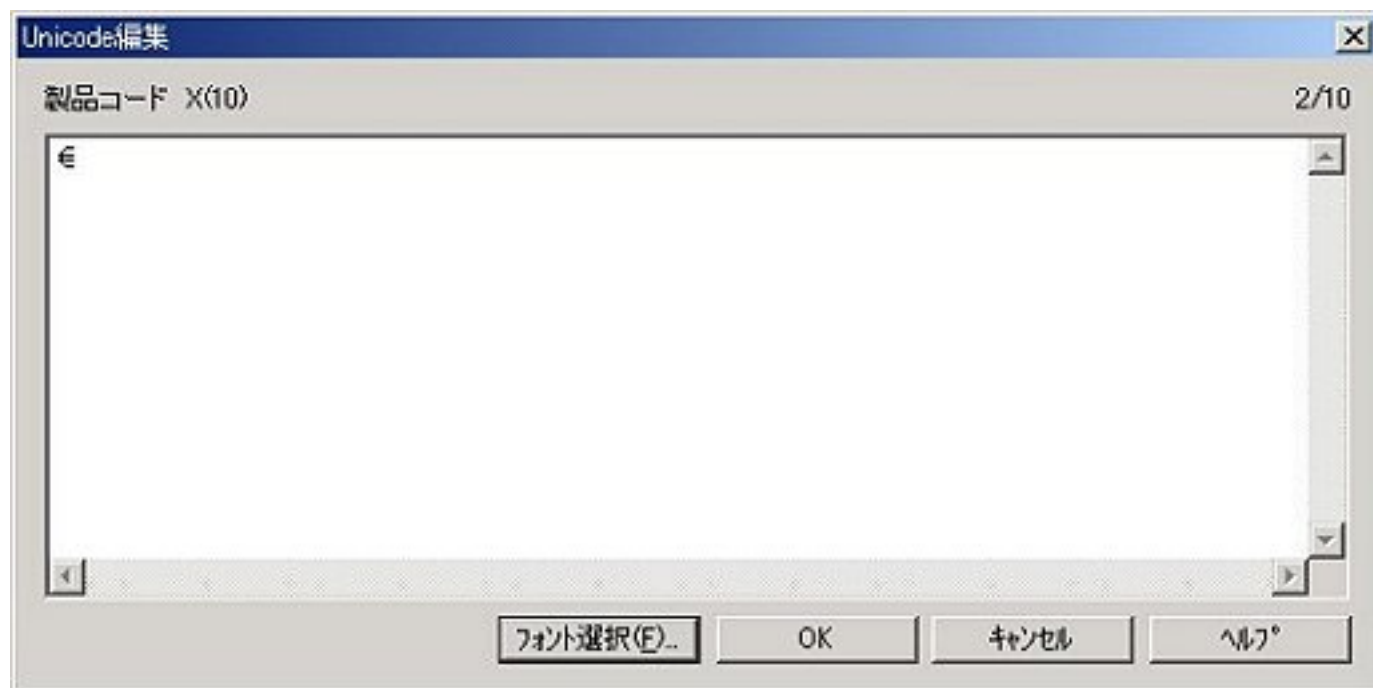
「環境設定(コード変換情報)」の「日本語項目（UCS2）の16進表示形式」で変更できます。

## Unicode編集

### Unicode編集ダイアログボックスとは

Unicodeによるデータの表示/編集を行います。現在、カーソルの存在するデータ項目が処理対象となります。

### 画面イメージ



### コントロールの説明

#### 項目名

表示/編集対象のデータ項目名が表示されています。

#### データ内容

編集中のデータ項目の内容が、Unicodeで表示されます。改行コードが含まれる場合、複数行で内容が表示されます。

#### フォント選択

「[フォント選択](#)」ダイアログから表示フォントを切り替えます。

#### カーソル位置情報 （Unicode編集ダイアログの右上）

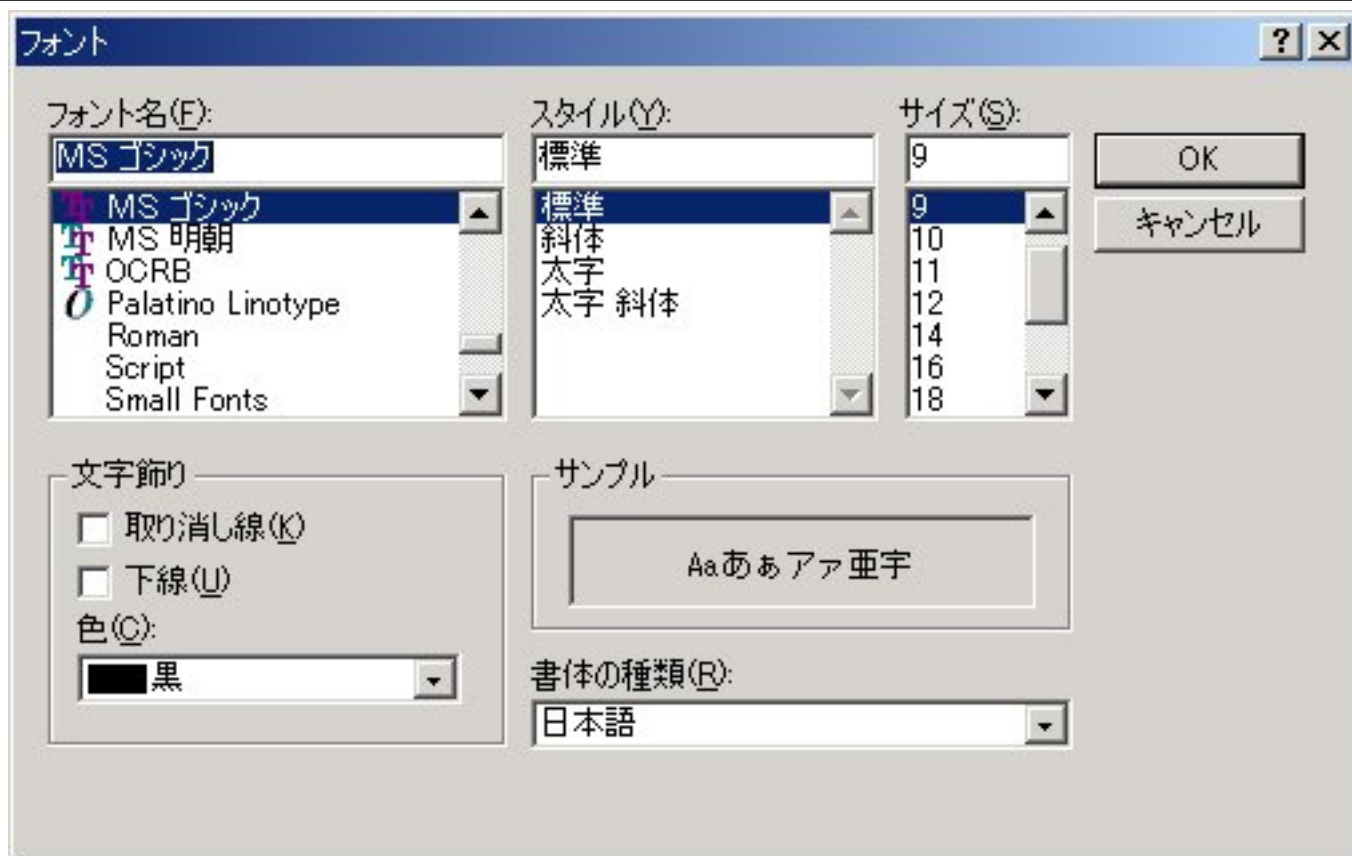
入力エリア内のカーソル位置情報は、「現在位置/全体文字数」の形式（単位：文字数）で表示されません。

## フォント選択

### フォント選択ダイアログボックスとは

「[Unicode編集](#)」ダイアログのデータ内容に表示するフォントを選択します。

### 画面イメージ



### コントロールの説明

#### フォント名

表示するフォントを指定します。

#### スタイル

表示する文字スタイルを指定します。

#### サイズ

表示する文字サイズを指定します。

#### 文字飾り

表示する文字飾りを指定します。

#### サンプル

現在指定している文字のサンプルを表示します。

#### 書体の種類

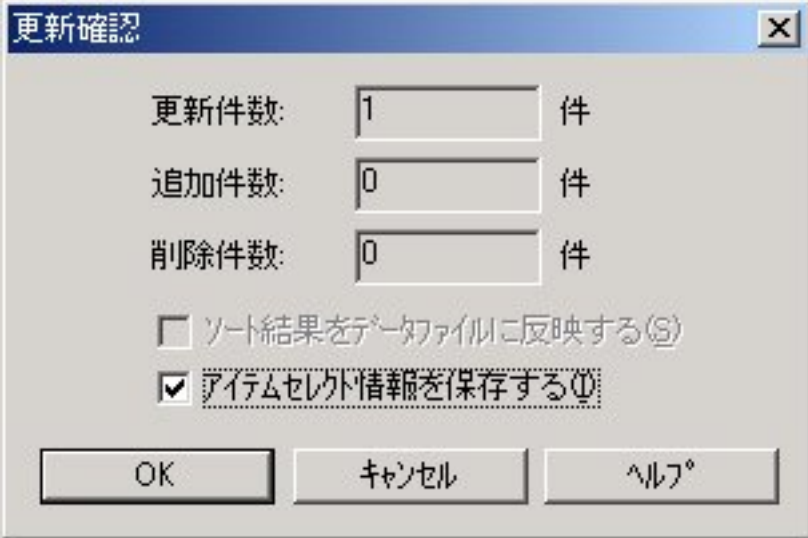
指定したフォントで利用できる書体の一覧から、設定されている言語にあった書体を選択します。

## 更新確認

### 更新確認ダイアログボックスとは

編集したデータ件数および、データソート有無を確認するための画面です。また、「アイテムセレクト」処理の設定情報を保存する/しないを選択できます。

### 画面イメージ



更新確認

更新件数: 1 件

追加件数: 0 件

削除件数: 0 件

☐ ソート結果をデータファイルに反映する(S)

☒ アイテムセレクト情報を保存する(O)

OK キャンセル ヘルプ°

### コントロールの説明

#### 更新件数

更新したレコードの件数を表示します。

#### 追加件数

追加したレコードの件数を表示します。

#### 削除件数

削除したレコードの件数を表示します。

#### ソート結果をデータファイルに反映する

チェックした場合、データソートによるレコードの並びの変更をデータファイルへ反映します。[レコード形式画面](#)または、[一覧形式画面](#)でデータソート実施時のみ選択可能です。

#### アイテムセレクト保存

チェックした場合、アイテムセレクトで設定した情報を保存します。

## バージョン情報

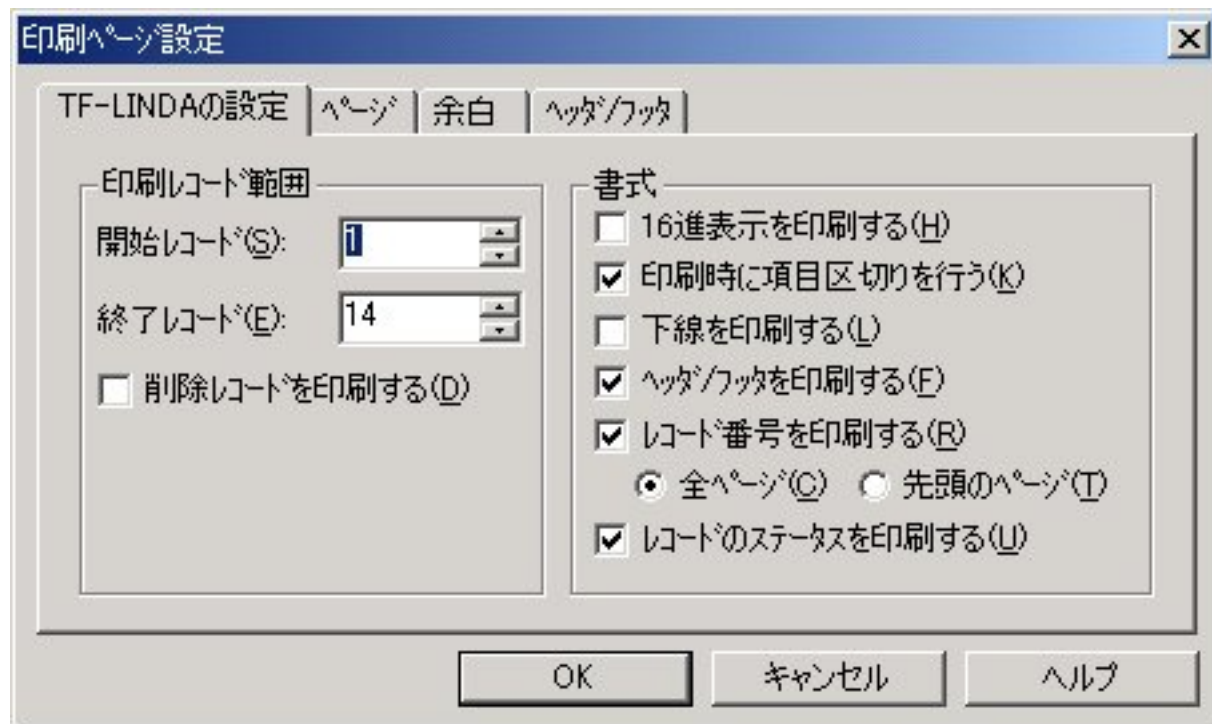
### 画面イメージ



### 説明

現在、動作しているTF-LINDAおよび、フォーマット解析に使用しているCOBOL解析ライブラリのバージョン情報を確認することができます。





## コントロールの説明

### 印刷レコード範囲

#### 開始レコード

印刷対象とするデータの開始レコード番号を指定します。デフォルトでは、1が設定されています。

#### 終了レコード

印刷対象とするデータの終了レコード番号を指定します。デフォルトでは、編集中の全レコード件数が設定されています。また、「0」ゼロの指定は、最終レコードまでを意味します。

#### 削除レコードを印刷する

データ編集で削除したレコードを印刷対象とするかを指定します。デフォルトでは、「しない」が設定されています。

### 書式

#### 16進表示を印刷する開始レコード

16進表記のデータ内容を付加して印刷するかを指定します。デフォルトでは、「しない」が設定されています。

#### 印刷時に項目区切りを行う

各項目属性に従って印刷するかを指定します。デフォルトでは、「行う」が設定されています。

## 下線を印刷する

データ内容部分に下線を印刷するかを指定します。デフォルトでは、「しない」が設定されています。

## ヘッダ/フッタを印刷する

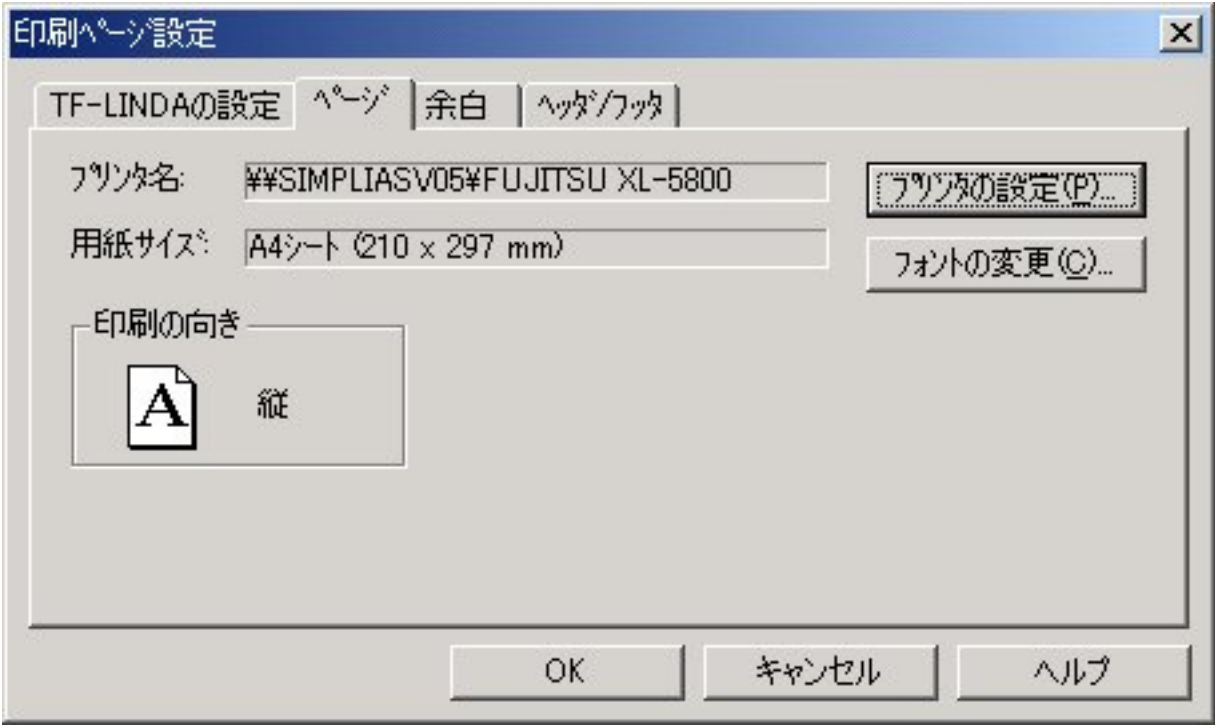
ヘッダ/フッタを印刷するかを指定します。デフォルトでは、「する」が設定されています。

## レコード番号を印刷する

レコード番号を印刷するかを指定します。デフォルトでは、「する」が設定されています。また、「する」を設定した場合、印刷箇所を「全ページ」と「先頭ページ」から選択できます。デフォルトでは、「全ページ」が設定されています。

## レコードのステータスを印刷する

各レコードのステータス（更新/追加/削除等）を印刷するかを指定します。デフォルトでは、「する」が設定されています。

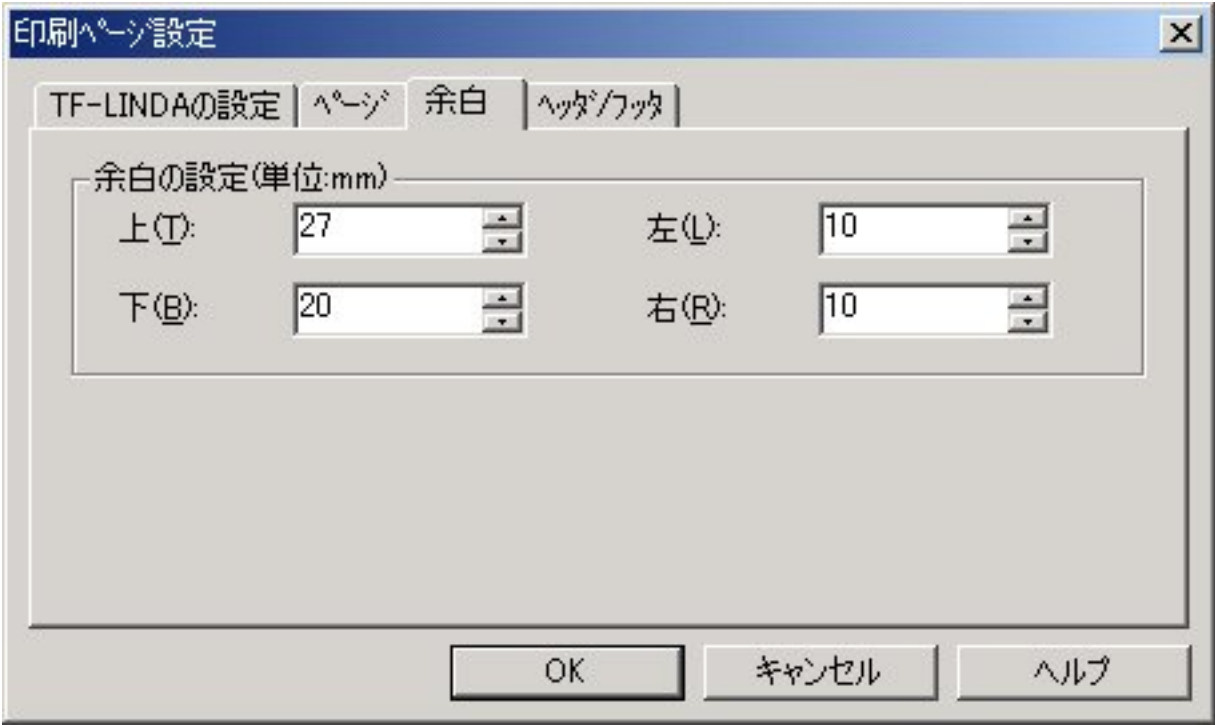


コントロールの説明

プリンタ名	印刷するプリンタ名が表示されます。
プリンタ設定	印刷するプリンタ名を変更したい場合に押下します。
フォントの変更	印刷する文字列のフォントを指定します。デフォルトでは、「MSゴシックの9ボ」が設定されています。

< 注意 >  
[印刷に関する制限事項/注意事項](#)参照

用紙サイズ	印刷する用紙サイズを表示します。
印刷の向き	印刷する用紙の向きを表示します。

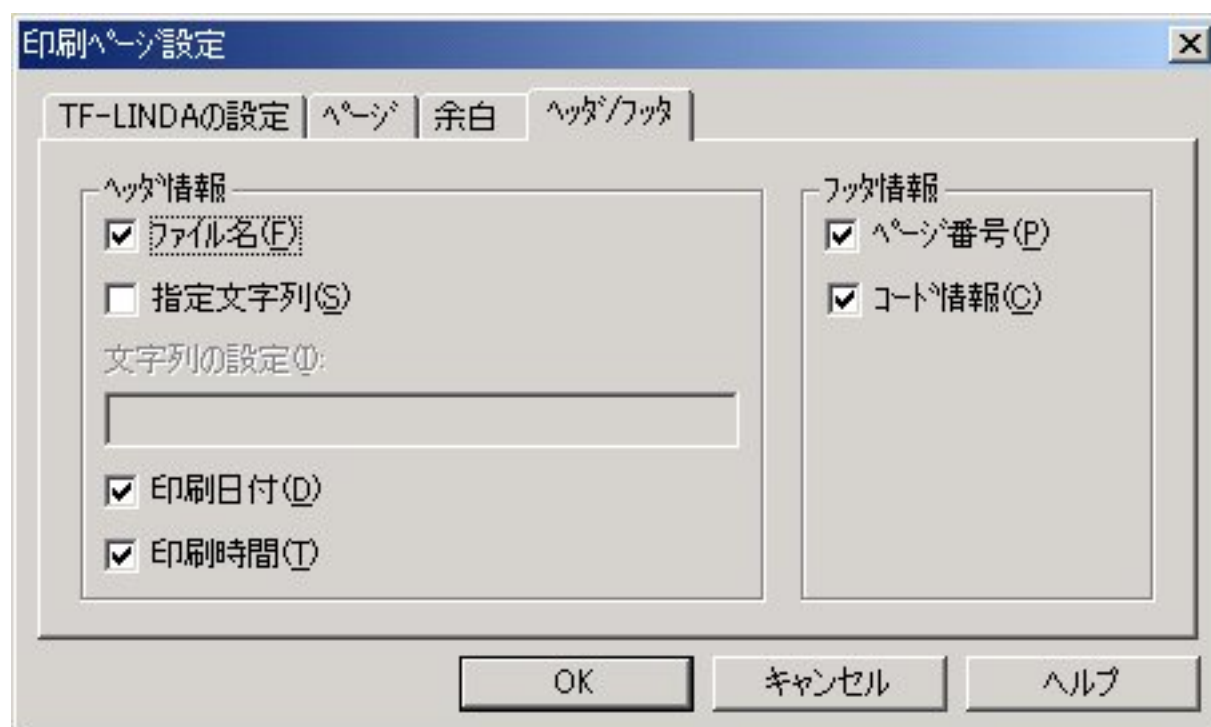


コントロールの説明

余白の設定

上	上部の余白サイズをmm単位で指定します。デフォルトでは、「25mm」が設定されています。
下	下部の余白サイズをmm単位で指定します。デフォルトでは、「20mm」が設定されています。
左	左部の余白サイズをmm単位で指定します。デフォルトでは、「10mm」が設定されています。
右	右部の余白サイズをmm単位で指定します。デフォルトでは、「10mm」が設定されています。

< 注意 >  
[印刷に関する制限事項/注意事項](#)参照



## コントロールの説明

## ヘッダ情報

ファイル名	編集集中のファイル名をヘッダに印刷するかを指定します。デフォルトでは、「する」が設定されています。
指定文字列	ヘッダに指定文字列を印刷するかを指定します。印刷したい文字列がある場合、ここで入力します。デフォルトでは、「しない」が設定されています。
印刷日時	ヘッダに印刷日付を印刷するかを指定します。デフォルトでは、「する」が設定されています。
印刷時間	ヘッダに印刷時間を印刷するかを指定します。デフォルトでは、「する」が設定されています。

## フッタ情報

ページ番号	フッタにページ番号を印刷するかを指定します。デフォルトでは、「する」が設定されています。
コード情報	データのコード体系を印刷するかを指定します。デフォルトでは、「しない」が設定されています。



## コントロールの説明

### フォルダ

ドライブによって指定されたディスクドライブ内のフォルダを選択します。

### ドライブ

ドライブの選択を行います。

### ネットワーク

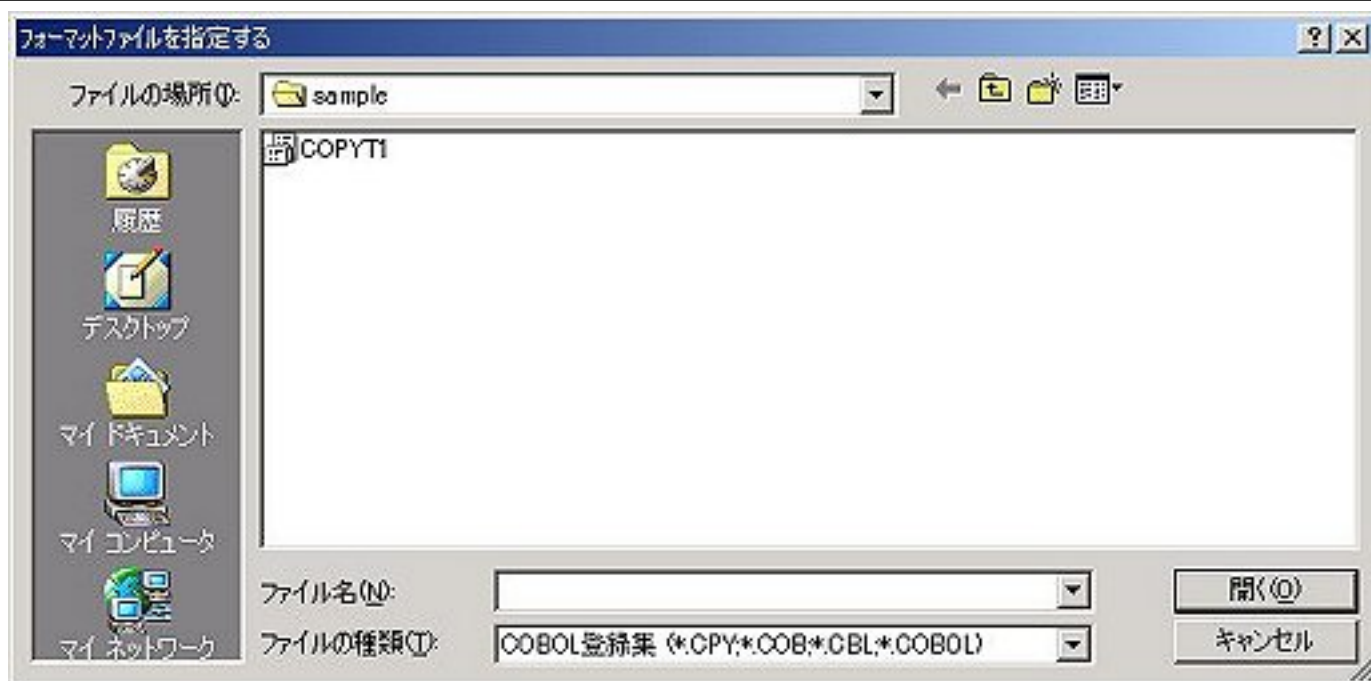
ネットワーク上のドライブを割り当てます。

## フォーマットファイルを指定する

### フォーマットファイルを指定する選択ダイアログボックスとは

データフォーマットに使用するCOBOL登録集（または、YPSインクルード仕様書・ファイル定義体・レイアウト定義ファイル）ファイルを選択するための画面です。

### 画面イメージ



### コントロールの説明

基本的には「ファイルを開く」のコモンダイアログボックスであるため説明を省略します。ここでは、データフォーマットとして指定可能なファイルの種類についてのみ説明します。

#### ファイルの種類

次のうち、環境設定（フォーマット解析方法）の「ファイル種別」で選択されているものが表示されます。

- COBOL登録集（\*.CPY；\*.COB；\*.CBL；\*.COBOL）
- YPSインクルード仕様書（\*.YAC；\*.YCB）
- ファイル定義体（\*.FFD）
- レイアウト定義ファイル（\*.LAY）



## 項目区切りあり

## 帳票イメージ

Copyt1.dat SIMPLIA/TF-LINDA 1999/02/19 16:13:10

項目名 属性 相番	伝票番号 X(10) 1	製品コード X(10) 11	製品名 N(10) 21	単価 9(5) 41	売上数量 S9(4) 46	売上高 S9(9) 50	売上年月日 9(8) 59
000001	T9510-A-01	H274920183	バーコードリーダ	69800	+0002	+000139600	19951001
000002	T9510-A-02	H274920183	バーコードリーダ	69800	+0001	+000069800	19951011
000003	T9510-B-01	H637292735	高速クラスキャナ	90000	+0001	+000090000	19951003
000004	T9510-B-02	H637292735	高速クラスキャナ	90000	+0010	+000900000	19951009
000005	T9510-B-03	H63729273	高速カラーデキャナ	90000	+0002	+000180000	19951012
000006	T9510-C-01	H748446290	スキャナ接続ボード	30000	+0002	+000060000	19951012
000007	T9510-D-01	H77293855	増設光ディスク	99000	+0002	+000198000	19951013
000008	T9510-D-02	H77293855	増設光ディスク	99000	+0010	+000990000	19951015
000009	T9510-E-01	H882743638	日本語キーボード	08800	+0012	+000105600	19951003
000010	T9510-E-02	H882743638	日本語キーボード	08800	+0020	+000176000	19951015
000011	T9510-E-03	H882743638	日本語キーボード	08800	+0100	+000880000	19951017
000012	T9510-F-01	H893822833	マウスMA-1 S	03500	+0012	+000042000	19951003
000013	T9510-G-01	H918274828	キーボード防塵カバー	02600	+0010	+000026000	19951027
000014	T9510-G-02	H918274828	キーボード防塵カバー	02600	+0005	+000013000	19951030

- 1 -

## 帳票説明

ここで説明する帳票は、「印刷ページ設定」プロパティの「TF-LINDAの設定」画面で以下のような設定をすることにより印刷できます。

- 「16進表示を印刷する」をチェックしない。
- 「印刷時に項目区切りを行う」をチェックする。

## ヘッダ部

データファイル名・指定文字列・印刷日付・印刷時間が印刷可能であり、全てのページに印刷されます。ヘッダを印刷するには、「印刷ページ設定」プロパティ、「TF-LINDAの設定」の「ヘッダ/フッタを印刷する」をチェックし、「ヘッダ/フッタ」の「ヘッダ情報」で印刷したい項目をチェックします。

ヘッダ部として印刷される文字列が1ページ内に納まらない場合、その部分は切り捨てられます。

## 見出し部

データ項目名、データ項目属性、相対位置が印刷可能です。データ項目属性・相対位置の印刷は、一覧形式画面の表示形式に合わせて行われます。

## 明細部



レコード番号	画面上、表示されているレコード番号と同じ番号が印刷されます。「印刷ページ設定」プロパティの「TF-LINDAの設定」画面で次の印刷書式を設定できます。  - レコード番号を印刷する：印刷する/しない - 印刷するページ：全ページ/レコードの先頭ページのみ
ステータス	画面上、表示されているステータスと同様に編集状況のステータスが印刷されます。レコードの先頭ページにのみ印刷されます。「印刷ページ設定」プロパティの「TF-LINDAの設定」画面で印刷する/しないの選択が可能です。
データ内容	1データ項目毎にデータ内容を区切って印刷します。データ内容は、表示形式と同様に各データ項目属性に合わせた形式で印刷します。また、表示形式と同様に常にシフトJISのコード体系に変換して印刷します。  「印刷ページ設定」プロパティの「TF-LINDAの設定」画面で下線を印刷する/しないが選択可能です。
終端記号	レコードの終わりを表す記号として下矢印（ ）がレコードの終端直後に印刷されます。

フッタ部

ページ番号・データファイルのコード情報が印刷可能です。ページ番号は、横方向優先として連番で印刷されます。フッタを印刷するには、「印刷ページ設定」プロパティ、「TF-LINDAの設定」の「ヘッダ/フッタを印刷する」をチェックし、「ヘッダ/フッタ」の「フッタ情報」で印刷したい項目をチェックします。

項目区切りあり（16進付加）

帳票イメージ

Copyt1.dat SIMPLIA/TF-LINDA 1999/02/19 16:21:13

項目名 属性 相番	スリーヌ X(10) 1	伝票番号 X(10) 11	製品コード X(10) 11	製品名 N(10) 21	単価 9(5) 41	売上数量 S9(4) 46	売上高 S9(9) 50	売上年月日 9(8) 59
000001	T9510-A-01	H274920183	H274920183	バーコードリーダー	69800	+0002	+000139600	19951001
	5333324233	4333333333	86858585868885858484		33333	3334	333333334	33333333
	4951001001	8274920183	3F1B321B383A1B3F1010		69800	0002	000139600	19951001
000002	T9510-A-02	H274920183	H274920183	バーコードリーダー	69800	+0001	+000069800	19951011
	5333324233	4333333333	86858585868885858484		33333	3334	333333334	33333333
	4951001002	8274920183	3F1B321B383A1B3F1010		69800	0001	000069800	19951011
000003	T9510-B-01	H637292735	H637292735	高速カラスキャナ	90000	+0001	+000090000	19951003
	5333324233	4333333333	869A8488858584888684		33333	3334	333333334	33333333
	4951002001	8637292735	021C3A391B383C333910		90000	0001	000090000	19951003
000004	T9510-B-02	H637292735	H637292735	高速カラスキャナ	90000	+0010	+000900000	19951009
	5333324233	4333333333	869A8488858584888684		33333	3334	333333334	33333333
	4951002002	8637292735	021C3A391B383C333910		90000	0010	000900000	19951009
000005	T9510-B-03	H63729273	H63729273	高速カラスキャナ	90000	+0002	+000180000	19951012
	5333324233	4333333332	869A8488858584888684		33333	3334	333333334	33333333
	4951002003	8637292730	021C3A391B353C333910		90000	0002	000180000	19951012

- 1 -

帳票説明

ここで説明する帳票は、「印刷ページ設定」プロパティの「TF-LINDAの設定」画面で以下のような設定をすることにより印刷できます。

- 「16進表示を印刷する」をチェックする。
- 「印刷時に項目区切りを行う」をチェックする。

ヘッダ部

データファイル名・指定文字列・印刷日付・印刷時間が印刷可能であり、全てのページに印刷されます。ヘッダを印刷するには、「印刷ページ設定」プロパティ、「TF-LINDAの設定」の「ヘッダ/フッタを印刷する」をチェックし、「ヘッダ/フッタ」の「ヘッダ情報」で印刷したい項目をチェックします。

ヘッダ部として印刷される文字列が1ページ内に納まらない場合、その部分は切り捨てられます。

見出し部

データ項目名、データ項目属性、相対位置が印刷可能です。データ項目属性・相対位置の印刷は、一覧形式画面の表示形式に合わせて行われます。

明細部

レコード番号	<p>画面上、表示されているレコード番号と同じ番号が印刷されます。「印刷ページ設定」プロパティの「TF-LINDAの設定」画面で次の印刷書式を設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- レコード番号を印刷する：印刷する/しない</li> <li>- 印刷するページ：全ページ/レコードの先頭ページのみ</li> </ul>
ステータス	画面上、表示されているステータスと同様に編集状況のステータスが印刷されます。レコードの先頭ページにのみ印刷されます。「印刷ページ設定」プロパティの「TF-LINDAの設定」画面で印刷する/しないの選択が可能です。
データ内容	<p>1データ項目毎にデータ内容を区切って印刷します。データ内容は、表示形式と同様に各データ項目属性に合わせた形式で印刷します。また、表示形式と同様に常にシフトJISのコード体系に変換して印刷します。</p> <p>「印刷ページ設定」プロパティの「TF-LINDAの設定」画面で下線を印刷する/しないが選択可能です。</p>
16進データ	<p>データ内容を16進表記にて縦2段で印刷します。1データ項目毎にデータ内容を区切って印刷します。データは、ファイルに格納されている内容をそのままの形式で印刷します。</p> <p>「印刷ページ設定」プロパティの「TF-LINDAの設定」画面で下線を印刷する/しないが選択可能です。</p>
終端記号	レコードの終わりを表す記号として下矢印（ ）がレコードの終端直後に印刷されます。

## フッタ部

ページ番号・データファイルのコード情報が印刷可能です。ページ番号は、横方向優先として連番で印刷されます。フッタを印刷するには、「印刷ページ設定」プロパティ、「TF-LINDAの設定」の「ヘッダ/フッタを印刷する」をチェックし、「ヘッダ//フッタ」の「フッタ情報」で印刷したい項目をチェックします。

## 項目区切りなし

## 帳票イメージ

Copyt1.dat SIMPLIA/TF-LINDA 1999/02/19 16:23:45

	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90
000001	T9510-A-01	274920163	バーコードリーダー	5980000060001396001951001	小林機械株式会社					
000002	T9510-A-02	274920163	バーコードリーダー	5980000040000698001951011	田畑機器株式会社					
000003	T9510-B-01	637292735	高速カラスキャナ	9000000040000900001951003	相原製作所					
000004	T9510-B-02	637292735	高速カラスキャナ	9000000100009000001951009	清水広告株式会社					
000005	T9510-B-03	63729273	高速カラーデキャナ	9000000080001800001951012	小林機械株式会社					
000006	T9510-C-01	748446290	スキャナ接続ボード	9000000080000600001951012	小林機械株式会社					
000007	T9510-D-01	77293855	増設光ディスク	9900000080001980001951013	沢田通信株式会社					
000008	T9510-D-02	77293855	増設光ディスク	9900000100009900001951015	丸山電子機器株式会社					
000009	T9510-E-01	682743638	日本語キーボード	0880000180001056001951003	黒沢法律事務所					
000010	T9510-E-02	682743638	日本語キーボード	0880000200001760001951015	坂上建設株式会社					
000011	T9510-E-03	682743638	日本語キーボード	0880001000008800001951017	山下通信機器株式会社					
000012	T9510-F-01	893822833	マウスMA-1S	0350000180000420001951003	黒沢法律事務所					
000013	T9510-G-01	918274828	キーボード防塵カバー	0260000100000260001951027	東京文具販売株式会社					
000014	T9510-G-02	91827482	キーボード防塵カバー	02600000E0000130001951030	田町機械工業株式会社					

- 1 -

## 帳票説明

ここで説明する帳票は、「印刷ページ設定」プロパティの「TF-LINDAの設定」画面で以下のような設定をすることにより印刷できます。

- 「16進表示を印刷する」をチェックしない。
- 「印刷時に項目区切りを行う」をチェックしない。

## ヘッダ部

データファイル名・指定文字列・印刷日付・印刷時間が印刷可能であり、全てのページに印刷されます。ヘッダを印刷するには、「印刷ページ設定」プロパティ、「TF-LINDAの設定」の「ヘッダ/フッタを印刷する」をチェックし、「ヘッダ/フッタ」の「ヘッダ情報」で印刷したい項目をチェックします。

ヘッダ部として印刷される文字列が1ページ内に納まらない場合、その部分は切り捨てられます。

## 明細部

レコード番号	画面上、表示されているレコード番号と同じ番号が印刷されます。「印刷ページ設定」プロパティの「TF-LINDAの設定」画面で次の印刷書式を設定できます。  - レコード番号を印刷する：印刷する/しない - 印刷するページ：全ページ/レコードの先頭ページのみ
データ内容	1レコード単位でデータ内容を印刷します。データ内容は、各データ項目属性の意識がありません。また、常にシフトJISのコード体系に変換して印刷します。  「印刷ページ設定」プロパティの「TF-LINDAの設定」画面で下線を印刷する/しないが選択可能です。
終端記号	レコードの終わりを表す記号として下矢印（ ）がレコードの終端直後に印刷されます。

フッタ部

ページ番号・データファイルのコード情報が印刷可能です。ページ番号は、横方向優先として連番で印刷されます。フッタを印刷するには、「印刷ページ設定」プロパティ、「TF-LINDAの設定」の「ヘッダ/フッタを印刷する」をチェックし、「ヘッダ/フッタ」の「フッタ情報」で印刷したい項目をチェックします。

目盛り

10バイト単位で目盛りを印刷します。これは、レコード単位のデータ相対位置に対応しています。

	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90
000001	F9510-A-01	H274920163	バーコードリーダー	5980000060	0013960019	51001	小林製薬株式会社			
	5333324233	4333333333	5685858586	5885858484	3333333343	3333333433	3333338A9D	5484898A8E	5D848484848484	
	4951001001	5274920163	3F1B321B38	3A1B3F1010	5980000020	0013960019	51001FC71	50A2A4EE9F	E0101010101010	
000002	F9510-A-02	H274920163	バーコードリーダー	59800000A0	006980019	51011	田畑機器株式会社			
	5333324233	4333333333	5685858586	5885858484	3333333343	3333333433	333333969A	548E898A8E	5D848484848484	
	4951001002	5274920163	3F1B321B38	3A1B3F1010	5980000010	006980019	510113348	50ADA4EE9F	E0101010101010	
000003	F9510-B-01	H37292735	高速力ラー スキャナ	90000000A0	009000019	51003	相原製作所			
	5333324233	4333333333	589A848885	584888684	3333333343	3333333433	333333988B	5B8E888484	5B484848484848	
	4951002001	5637292735	021C3A391B	383C333910	9000000010	009000019	510031AC4	DBDCA10101	0101010101010	
000004	F9510-B-02	H37292735	高速力ラー スキャナ	9000000100	009000019	51009	清水広告株式会社			
	5333324233	4333333333	589A848885	584888684	3333333343	3333333433	3333339B9B	5489898A8E	5D848484848484	
	4951002002	5637292735	021C3A391B	383C333910	9000000100	009000019	510090405	DCD0A4EE9F	E0101010101010	
000005	F9510-B-03	H37292735	高速力ラー テキナ	90000000B0	001800019	51012	小林製薬株式会社			
	5333324233	4333333333	589A848885	584888684	3333333343	3333333433	3333338A9D	5484898A8E	5D848484848484	
	4951002003	5637292735	021C3A391B	383C333910	9000000020	001800019	51012FC71	50A2A4EE9F	E0101010101010	

## 帳票説明

- 「16進表示を印刷する」をチェックする。
- 「印刷時に項目区切りを行う」をチェックしない。

ヘッダ部

データファイル名・指定文字列・印刷日付・印刷時間が印刷可能であり、全てのページに印刷されます。ヘッダを印刷するには、「印刷ページ設定」プロパティ、「TF-LINDAの設定」の「ヘッダ/フッタを印刷する」をチェックし、「ヘッダ/フッタ」の「ヘッダ情報」で印刷したい項目をチェックします。

ヘッダ部として印刷される文字列が 1 ページ内に納まらない場合、その部分は切り捨てられます。

## 明細部

レコード番号	画面上、表示されているレコード番号と同じ番号が印刷されます。「印刷ページ設定」プロパティの「TF-LINDAの設定」画面で次の印刷書式を設定できます。  - レコード番号を印刷する：印刷する/しない - 印刷するページ：全ページ/レコードの先頭ページのみ
データ内容	1レコード単位でデータ内容を印刷します。データ内容は、各データ項目属性の意識がありません。また、常にシフトJISのコード体系に変換して印刷します。  「印刷ページ設定」プロパティの「TF-LINDAの設定」画面で下線を印刷する/しないが選択可能です。
終端記号	レコードの終わりを表す記号として下矢印（ ）がレコードの終端直後に印刷されます。

フッタ部

ページ番号・データファイルのコード情報が印刷可能です。ページ番号は、横方向優先として連番で印刷されます。フッタを印刷するには、「印刷ページ設定」プロパティ、「TF-LINDAの設定」の「ヘッダ/フッタを印刷する」をチェックし、「ヘッダ/フッタ」の「フッタ情報」で印刷したい項目をチェックします。

目盛り

10バイト単位で目盛りを印刷します。これは、レコード単位のデータ相対位置に対応しています。



## 数字項目の入力/表示仕様

### データ項目属性

TF-LINDA上で数字項目の扱いが適用されるデータ項目は以下のものです。

- ・ 外部10進項目
- ・ 外部10進項目（LEADING）
- ・ 外部10進項目（TRAILING）
- ・ 外部10進項目（LEADING SEPARATE）
- ・ 外部10進項目（TRADING SEPARATE）
- ・ 内部10進項目（PACKED-DECIMAL）
- ・ 内部10進項目（COMP-3）
- ・ 2進項目（BINARY）
- ・ 2進項目（COMP）
- ・ 2進項目（COMP-4）
- ・ 2進項目（COMP-5）
- ・ ポインタ項目

### 初期値

新規作成時、又はレコード追加時、初期値として 0 (ゼロ)が設定されます。

### 入力仕様

入力可能文字	入力可能な文字は、0から9、+ - .の半角文字のみです。
入力可能桁数	各項目属性にしたがって上限が設定されています。

#### 符号の入力について

- ・ 符号の入力位置は、先頭または最後尾でなければなりません。
- ・ 符号の入力は、1つでなければなりません。
- ・ 符号無しの項目に対する符号の入力は無視します。
- ・ 符号ありの項目に符号省略した場合は + を付加します。

#### 小数点の入力について

- ・ 小数点の入力位置は、整数部・小数部とも0でない限り、桁数が項目属性の範囲を超えないように指定して下さい。
- ・ 小数点の入力は、1つでなければなりません。
- ・ 小数点なしの項目に対する小数点の入力は、小数点以下の値が0である限り可能であり、整数値部分だけを有効とします。
- ・ 小数点ありの項目に対する小数点省略は、入力値を整数として扱うため、整数部分の桁数が項目属性の範囲内であるかまたは、ゼロの場合、可能です。
- ・ 符号の入力位置は、先頭または最後尾でなければなりません。

### 表示仕様

各数字項目属性に準拠した形式で表示します。また、環境設定(表示形式の数値項目のゼロサプレスを行う)の指定により表示形式が異なります。次に表示形式の例を示します。



例 )

	属性	値	0サプレス指定時	0サプレスなし時
符号/小数点なし	9 ( 4 )	0	0	0000
		123	123	0123
符号あり	S9 ( 4 )	0	+0	+0000
		123	+123	+0123
小数点あり	V9 ( 4 )	0	0	0.0000
		0.123	0.123	0.1230
符号/小数点あり	SV9 ( 4 )	0	+0	+0.0000
		0.123	+0.123	+0.1230

数値部が有効な値でなかった場合、数値エラーが発生します。外部10進の項目属性の場合は、エラーの発生した桁の下位4ビットで数値を認識します。それ以外の属性では数値エラーが発生した場合、項目全体を0として処理します。なお、ケースによって必ずしもこのように処置されるわけではありません。

外部 ) 10進の例

- 文字 " A " ( 0x41 ) の場合 : " 1 " と認識
- 文字 " J " ( 0x4A ) の場合 : " 0 " と認識 ( 9以上のため " 0 " と認識 )

格納データ形式

COBOL登録集上で定義されている各数字項目属性に準拠した形式で格納されます。

## 英数字項目の入力/表示仕様

### データ項目属性

TF-LINDA上で英数字項目の扱いが適用されるデータ項目は以下のものです。

- ・英字項目
- ・英数字項目
- ・英数字編集項目
- ・指標データ項目
- ・数字編集項目
- ・集団項目（アイテムセレクトにより項目選択した場合）

### 初期値

新規作成時、又はレコード追加時、初期値としてNULLが設定されます。

### 入力仕様

入力可能文字	半角文字、全角文字、半角/全角の混在可能。
入力可能桁数	入力上、桁数制限はありませんが確定時、項目属性に従って桁数チェックが行われます。

### 表示仕様

基本的に格納されているデータをそのままの形式で表示します。ただし、環境設定（作業環境のCOBOL埋め込み文字）の指定により表示形式が異なります。

- NULLを設定した場合

空白のみのデータ又は、文字列に後続空白をもつデータの場合、その空白部分を削らずに表示します。

例）

項目属性	データ内容	表示内容
X ( 5 )	“ ”	“ ”
X ( 5 )	“ ..... ”	“ ..... ”
X ( 5 )	“ ABC.. ”	“ ABC.. ”

- 空白を設定した場合

空白のみのデータ又は、文字列に後続空白をもつデータの場合、その空白部分を削って表示します。

ここでの空白とは半角空白のことです。

例）

項目属性	データ内容	表示内容
X ( 5 )	“ ”	“ ”
X ( 5 )	“ ..... ”	“ ”
X ( 5 )	“ ABC.. ”	“ ABC.. ”

< 注意 >

[表示内容/操作内容における制限事項/注意事項](#)参照

## 格納データ形式

基本的に入力されたデータをそのままの形式で格納します。ただし埋め込み文字については、環境設定（作業環境のCOBOL埋め込み文字）の指定により格納するデータ形式が異なります。

- NULLを設定した場合

入力された文字列が項目属性の最大桁数に満たない場合、空き領域にNULLが埋め込まれます。

- 空白を設定した場合

入力された文字列が項目属性の最大桁数に満たない場合、空き領域に半角空白が埋め込まれます。

## 日本語項目の入力/表示仕様

### データ項目属性

TF-LINDA上で数字項目の扱いが適用されるデータ項目は以下のものです。

- ・日本語項目
- ・日本語編集項目
- ・日本語編集項目(PIC G USAGE DISPLAY-1)

### 初期値

新規作成時、又はレコード追加時、画面上、初期値として NULLが設定されます。

### 入力仕様

入力可能文字	全角文字のみ可能。ただし、Unicodeの場合は半角文字・全角文字・半角/全角の混在可能。
入力可能桁数	入力上、桁数制限はありませんが確定時、項目属性に従って桁数チェックが行われます。

### 表示仕様

基本的に格納されているデータをそのままの形式で表示します。ただし、環境設定（作業環境のCOBOL埋め込み文字）の指定により表示形式が異なります。

- NULLを設定した場合

空白のみのデータ又は、文字列に後続空白をもつデータの場合、その空白部分を削らずに表示します。

例)

項目属性	データ内容	表示内容
N(5)	“ ”	“ ”
N(5)	“ ”	“ ”
N(5)	“ ABC ”	“ ABC ”

- 空白を設定した場合

空白のみのデータ又は、文字列に後続空白をもつデータの場合、その空白部分を削って表示します。

ここでの空白とは全角空白のことです。ただし、Unicodeの場合は半角空白。

例)

項目属性	データ内容	表示内容
N(5)	“ ”	“ ”
N(5)	“ ”	“ ”
N(5)	“ ABC ”	“ ABC ”

< 注意 >

[表示内容/操作方法における制限事項/注意事項](#)参照

### 格納データ形式

基本的に入力されたデータをそのままの形式で格納します。ただし、環境設定（作業環境のCOBOL埋め込み文字）の指定により格納するデータ形式が異なります。

- NULLを設定した場合

入力された文字列が項目属性の最大桁数に満たない場合、空き領域にNULLが埋め込まれます。

- 空白を設定した場合

入力された文字列が項目属性の最大桁数に満たない場合、空き領域に全角空白が埋め込まれます。

浮動小数点項目の入力/表示仕様

データ項目属性

TF-LINDA上で浮動小数点項目の扱いが適用されるデータ項目は以下のものです。

- ・ 外部浮動小数点項目
- ・ 単精度内部浮動小数点項目（COMP-1）
- ・ 倍精度内部浮動小数点項目（COMP-2）

初期値

新規作成時、又はレコード追加時、初期値としてNULLが設定されます。

入力仕様

入力可能文字	半角文字、全角文字、半角/全角の混在可能。	
入力可能桁数	外部	各属性項目に従って上限が設定されています。
	COMP-1	最大4桁
	COMP-2	最大8桁

表示仕様

格納されているデータをそのままの形式で表示します。

格納データ形式

入力されたデータをそのままの形式で格納します。入力したデータが最大桁数に満たない場合、空き領域（後ろ）にNULLが埋め込まれます。

ブール項目の入力/表示仕様

データ項目属性

TF-LINDA上でブール項目の扱いが適用されるデータ項目は以下のものです。

- ・ 内部ブール項目（BIT）
- ・ 外部ブール項目（DISPLAY）

初期値

新規作成時、又はレコード追加時、初期値として0が桁数分埋められます。

入力仕様

入力可能文字	入力可能な文字は、0か1の半角文字のみ。
入力可能桁数	各属性項目に従って上限が設定されています。

表示仕様

0と1による文字列表現。

格納データ形式

COBOL登録集上で定義されている各ブール項目属性に準拠した形式で格納されます。また、入力したデータが最大桁数に満たない場合、空き領域（後ろ）に 0 が埋め込まれます。

## 文字コード変換仕様

### コード変換パス

TF-LINDAではシフトJIS、EUC、JEF、Unicodeのデータファイルに対応しています。画面に表示する際のコード体系はシフトJISであるため、データファイルのコード体系によっては、表示/格納処理においてコード変換が発生します。以下にコード体系の変換パターンを示します。

#### 表示処理

入力		出力
EUC		シフトJIS
JEF		シフトJIS
Unicode		シフトJIS

#### 格納処理

入力		出力
シフトJIS		EUC
シフトJIS		JEF
シフトJIS		Unicode

### 1バイト系コード変換

TF-LINDAで対応している1バイト系コードとして、ASCIIコード系(シフトJIS、EUC)とEBCDIC(カナ)コード系(JEF)があります。EBCDIC(英小文字)やEBCDIC(ASCII)には対応していません。TF-LINDAでは同一コード系であっても、文字以外のコードはエラーとなります。ただし、ASCIIコード系どうしでのタブ文字(0x09)や、日本語シフト制御コード(SI/SO)はエラーとしません。EBCDICコード系とASCIIコード系の文字変換において、特に一般のコード変換仕様と異なる点を以下に示します。

#### 代替文字の置き換え

EBCDIC (カナ)	 (4F)	(4A)	! (5A)	(5F)
ASCII	] (5D)	[ (5B)	! (21)	^ (5E)

#### 英小文字の変換

EBCDIC (カナ)	ASCII	英大文字		英大文字
ASCII	EBCDIC (カナ)	英大文字		英大文字
		英小文字		英大文字

### 2バイト系コード変換

TF-LINDAでの2バイト系コードの変換は、以下のいずれかの方法で行われます。

#### 標準変換

TF-LINDA内部で算術式によりコード変換を行います。算術式では各コード体系がJISコード準拠とみなして  
1～94区のコード配置を変えるだけで、95区以降のコード変換はエラーとなり拡張文字や利用者定義文字  
は変換できません。また、JEFコードは'78JIS準拠のため、一部の文字('83JISでの改定文字)について  
同一の文字へ変換されません。正しい文字の変換を行うなら、JEFコードを扱う場合はADJUST変換を行  
うようにしてください。

## ADJUST変換

ADJUSTを使用してiconv変換を行います。この変換では、厳密な文字の対応付けを実現し、  
ADJUSTによる外字連携を行うことができます。ADJUSTを使用するには、環境設定のコード変換情報内  
にある「ADJUSTを使用する」をチェックし、iconvキーワードを指定します。なお、1バイト系コードの  
変換ではADJUSTは使用されません。

## cobolEUCコードの対応

UXP/DS COBOLでは、EUCコードのG3文字(コードセット3)を2バイトの16ビットで扱う機能(cobolEUC  
コード)があります。TF-LINDAではcobolEUCコード変換に対応しており、日本語属性項目のみG3文字  
は2バイトのcobolEUCコードで扱います。



データ項目属性の表記について

COBOL登録集（または、YPSインクルード仕様書・ファイル定義体・レイアウト定義ファイル）ファイル内で定義されているデータ項目毎の属性を簡略化して表示します。項目属性の表示形式の詳細は以下の通りです。

名称形式	PICTURE定義	画面表示
英字項目	A	X(1) A
英数字項目	X	X(1)
英数字編集項目	XA99AX	#X(6)
数字編集項目	99/99	#X(5) 9
数字編集項目	¥¥¥,¥¥9	#X(7)
日本語項目	N	N(1)
日本語編集項目	NBN	#N(3)
日本語編集項目	G(10) DISPLAY-1	N(10)
数字項目	9	9(1)
数字項目	999999999999999999	9(18)
数字項目（符号付き）	S9	S9(1)
数字項目（小数点付き）	9V9	9(1)V9(1)
数字項目（内部10進）	9(4) PACKED-DECIMAL	9(4) PD
数字項目（内部10進）	9(4) COMP-3	9(4) C3
数字項目（バイナリ）	9(4) BINARY	9(4) B
数字項目（バイナリ）	9(4) COMP	9(4) C
数字項目（バイナリ）	9(4) COMP-4	9(4) C4
数字項目（バイナリ）	9(4) COMP-5	9(4) C5
外部ブール項目	1(8) DISPLAY	1(8) D
内部ブール項目	1(8) BIT	1(8) B
外部浮動小数点項目	+9.9E+99	9(8) E9(E)
単精度内部浮動小数点項目	COMP-1	9(4) C1
倍精度内部浮動小数点項目	COMP-2	9(8) C2
ポインタ項目	POINTER	9(9) P
指標データ項目	INDEX	X(4)

数字項目（符号付き）にSIGN句が指定されていても、その情報は表示されません。

アイテムセレクトにより、表示項目を選定した場合、属性欄に「FG」が表記されることがありますが、これはその項目が集団項目であることを表します。

全般における制限事項/注意事項

TF-LINDAを使用するにあたっての、全般的な制限事項 / 注意事項を以下に示します。

1．Windows（R）/Windows NT（R）の強制終了について

TF-LINDA起動中は、Windows（R）/Windows NT（R）の強制終了を行わないようにしてください。操作中のファイルが破壊される可能性があります。

2．データファイルの復旧方法について

TF-LINDAで各種ファイルを使用中に、システムやTF-LINDA本体、関連ソフトウェア等に異常が発生した場合、処理の復旧ができず、ファイルの内容が破壊される場合があります。事前に、利用者がバックアップを取得する等の処置を行ってください。索引ファイルが破壊され、バックアップがない場合は、COBOL85/97に添付されている、COBOLファイルユーティリティを使用して復旧処理を行ってください。

3．ディスクドライブの空き容量について

データファイルを作成するドライブの空き容量が十分確保されている状態で使用してください。保存時、容量不足が発生すると一部のデータが失われる可能性があります。事前に、利用者がバックアップを取得する等の処置を行ってください。

4．空白の扱いについて

日本語項目の入力時、文字列中の空白の扱いとして、全角空白とするか、半角2バイトの空白とするかは、利用者の使用する日本語変換（FEP）の環境設定によって決定されます。半角2バイト空白の環境では項目属性に反するため、全角空白の環境で使用してください。

5．COBOL登録集について

データファイルを操作するために使用するCOBOL登録集は、COBOL文法上、正しく記述されていなければなりません。

6．データファイルの情報設定について

指定したファイル編成・属性と、実際のファイルの編成・属性が合致しないと、ファイルをオープンすることができない場合があります。

7．ファイルの排他について

TF-LINDAで使用中のファイルを、他のアプリケーションから同時に使用すると、正しく動作しない場合があります。

8．TF-LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダについて

- フォルダ内には、以下のファイルが作成されます。十分な領域を確保してください。
- ファイル操作用ワークファイル：操作対象のファイルサイズの約2倍の領域が必要です。また、大量にデータを追加/複写する場合は、上記に加えて、追加/複写するデータ件数×レコード長×2の作業領域が必要です。
  - エラーファイル：フォーマットファイル解析時のエラーファイルが出力されます。

9．編集可能なレコード数について

TF-LINDAでは、10万件までデータの抽出・編集ができます。

10．フォーマットとデータファイルのレコード長が異なる場合について

フォーマットレコード長＞データファイルレコード長の場合	データファイルのレコード長より大きい部分もデータ入力可能ですが、最終的に破棄されます。
フォーマットレコード長＜データファイルレコード長の場合	フォーマットレコード長より大きい部分は、データ入力できません。
	追加レコードのフォーマットレコード長より大きい部分のデータは、NULL文字となります。
	「レコード複写」では、フォーマットレコード長より大きい部分のデータは、複写されずNULL文字となります。 索引編成でキーがフォーマットレコード長より大きい部分に定義されている場合、レコード形式画面での「レコード追加」「レコード複写」処理を実行することはできません。

11．テストケースファイルについて

別フォルダに同じファイル名のデータファイルが存在する場合、それぞれで使用するテストケースファイルは同一のものとなります。

## 12．データビューが表示されていない場合について

ウィンドウのサイズ変更等により、データビュー（データ内容が表示されている子ウィンドウ）が表示されていない場合、実行不可となるメニューがあります。

## 13．部分抽出時におけるデータソートについて

格納順範囲やデータ条件を指定してデータ抽出を行った場合、データソートを実行すると編集したデータを元のデータファイルに保存することができません。また、ソート結果を反映することもできません。ただし、「別データファイルへ保存」機能により、別のファイルとして保存することは可能です。

## 14．保存時の空き容量チェックについて

TF-LINDAではデータ保存時、空き領域のチェックを行っていますが、データファイルを保存するドライブが、Windows（R）/Windows NT（R）システムをインストールしているドライブと同じ場合、正しい値を求められないため、以下のような問題が発生する場合があります。

- 空き容量が十分であるのに保存できないというメッセージが表示される。
- 空き容量が不十分であるのに保存する。この場合、可能である限りのデータをレコード単位で保存します。

## 表示内容/操作方法における制限事項/注意事項

TF-LINDAの画面表示内容および操作方法に関する制限事項/注意事項について、以下に示します。

### 1. データファイルのコード体系に「EUC/カナJIS8モード」を指定した場合について

英数字項目に日本語文字が含まれている場合、その部分が正しく表示されません。

### 2. 代替文字について

レコード/一覧形式画面上のコード変換エラーの発生したデータは、以下のような代替文字で表示されます。

- 英数字項目： “\_”（アンダースコア）
- 日本語項目： “ ”（黒四角）

### 3. カーソル位置の表示について

レコード形式画面、一覧形式画面、または16進編集画面のエディット操作時、カーソル位置が表示されます。文字列の範囲選択を行った場合、常に選択範囲の先頭をカーソル位置として表示します。

### 4. 索引編成ファイル

- 主キーが重複許可されている索引編成ファイルは、格納順範囲抽出を選択できません。
- 新規作成する際の副キーの定義は、最大4個までです。
- 新規作成する際のキーとして指定できる項目数は、キー情報設定画面で定義したキー情報（255文字で表現できる範囲以下）です。
- 符号付きの数値項目にキーが割り当てられている場合のレコードの並びは、絶対値の順番となります。
- レコードフォーマットを変更した場合、キーとなる項目の相対位置・データ長が一致していないと、正しい動作が行われなくなります。アイテムセレクト機能により、キーを含む項目を変更した場合も、同様です。

### 5. 行順編成のコード体系がUnicodeのファイル

行順編成のコード体系がUnicodeのデータファイルを扱う場合、使用するフォーマットに次の規約があります。

- UCS2コードとして扱う場合、全ての項目属性が日本語項目系で構成されているフォーマットを使用する必要があります。
- UTF8コードとして扱う場合、日本語項目系を除く項目属性で構成されているフォーマットを使用する必要があります。

### 6. 環境設定

テストケースファイルを保管するフォルダおよびTF-LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダおよびバックアップファイルを作成するフォルダについて

- ドライブのルートは指定できません。サブフォルダを指定して下さい。
- ロングファイル名をサポートしていないファイルシステム上に指定しないでください。
- 相対パスでの指定はできません。絶対パスで指定してください。

### 7. やり直し

- 他のレコードを表示したり、メニュー処理を実行した時点で実行不可になります。
- データ内容が変更されていない場合は、実行できません。

### 8. フォントの変更

- 設定可能な文字サイズは、6～26です。
- 色の設定は、無効です。

### 9. 16進編集

- 16,384バイト以上のデータ項目は扱えません。
- BIT属性の項目は扱えません。

## 10．MDPORT連携

### インポート/エクスポート共通

- レコード形式が可変長の場合、MDPORT連携を実行する事はできません。
- 扱える項目数は、MDPORT側の仕様に依存します。

### インポート

- データファイル形式のインポートは、サポートしていません。
- アイテムセレクトで表示項目を絞り込んでいる場合、この機能は使用できません。
- 編集集中ファイルの編成が索引 / 相対編成である場合、この機能は使用できません。
- CSV形式ファイルのコード体系は、SJISである必要があります。

### エクスポート

- OCCURS句については、アイテムセレクト内の「OCCURS句展開する」の設定の有無に関わらず、常に展開された形式となります。
- 出力対象となるレコードには、「レコード削除」によって削除したレコードも含まれます。

## 11．検索

データファイルのコード体系がEUC、JEFの場合、コード変換エラーとなるデータは、正しく検索されません。  
以下のデータ項目は、扱うことができません。

- 浮動小数点項目（COMP-1/COMP-2/外部浮動小数点）
- 内部ブール項目（BIT）

以下の文字は、検索文字列として指定することができません。

- “\_”（アンダースコア）
- “ ”（黒四角）

フォーマットとデータファイルのレコード長が異なる場合の仕様は以下のとおりです。（可変長レコード形式も同様）

フォーマットレコード長 > データファイルレコード長の場合	データファイルのレコード長を越える相対位置に相当するデータ項目は、指定できません。（項目選択ダイアログボックスの一覧に表示されません）
フォーマットレコード長 < データファイルレコード長の場合	フォーマットのレコード長を越える部分のデータを検索することは出来ません。

## 12．16進データの検索

2つ以上のデータ項目にまたがる合致データは、合致していると見なしません。

以下のデータ項目は、扱うことができません。

- 内部ブール項目（BIT）

フォーマットとデータファイルのレコード長が異なる場合の仕様は以下のとおりです。（可変長レコード形式も同様）

フォーマットレコード長 > データファイルレコード長の場合	データファイルのレコード長を越える相対位置に相当するデータ項目は、指定できません。（項目選択ダイアログボックスの一覧に表示されません）
フォーマットレコード長 < データファイルレコード長の場合	フォーマットのレコード長を越える部分のデータを検索することは出来ません。

### 13．検索/16進データの検索および、前候補/次候補

合致するデータへのカーソル位置付けは、データ項目単位で行われます。そのため、1つのデータ項目に合致する文字列や値が複数含まれている場合でも、1度しか位置付けられません。

### 14．項目名の検索

フォーマットとデータファイルのレコード長が異なる場合の仕様は以下のとおりです。（可変長レコード形式も同様）

フォーマットレコード長 > データファイルレコード長の場合	データファイルのレコード長を越える相対位置に相当するデータ項目は、指定できません。（項目選択ダイアログボックスの一覧に表示されません）
----------------------------------	---

### 15．データ条件の指定による抽出

最大10件までデータ抽出条件を指定することができます。

データ条件に指定できない項目は、以下のものです。

- 浮動小数点項目
- 内部ブール項目（BIT）
- 外部ブール項目
- アイテムセレクトにより選定されていない項目（アイテムセレクトがデフォルトの場合、集団項目）
- データファイルのレコード長よりフォーマットのレコード長が長い場合、データファイルのレコード長を超える領域に位置する項目

アクセス方法がバイナリアクセスの場合、データ条件抽出を行うことができません。

### 16．データソート

以下の場合、データソート機能を利用できません。

- 編集集中のデータファイルがSJISコード以外の時。
- 編集集中のデータファイルが索引 / 相対編成で、かつ更新 / 追加モードの時。
- 編集集中のレコード件数が1件しかない場合。
- ソートキーとして指定できない項目のみの場合（アイテムセレクトにより表示項目を選定している場合を含む）
- 1項目しか存在せず、その項目のサイズがデータのレコード長よりも大きい場合（アイテムセレクトにより表示項目を選定している場合を含む）

ソートキーとして指定できない項目は、以下のものです。

- 浮動小数点項目
- 内部ブール項目（BIT）
- 相対編成の相対レコード番号
- 項目長が128バイトを超える項目
- アイテムセレクトにより選定されていない項目（アイテムセレクトがデフォルトの場合、集団項目）

- データファイルのレコード長よりフォーマットのレコード長が長い場合、データファイルのレコード長を超える領域に位置する項目

## 17．データ生成 / データー括更新

- 書式に指定可能な文字数は、最大128バイトです。
- 開始値、終了値に指定可能な文字数は、カンマなどを含めて最大128バイトです。
- 増分値に指定可能な値の範囲は、-9 ~ +9です。
- 書式 %s、%Sの桁数の指定は、最大5まで可能です。
- 書式 %D、%Uの桁数の指定は、最大18まで可能です。
- 英数字系の項目に対する固定部の指定は、最大3個まで可能です。（可変部は、制限なし）
- 日本語系の項目に対する固定部・可変部の指定は、それぞれ1個のみ可能です。
- 数字系の項目に対する固定部・可変部の指定は、それぞれ1個のみ可能です。
- 書式例への登録は、最大100個まで可能です。

データ生成 / データー括更新で扱えない項目は、以下のものです。

- ポインタ項目
- 浮動小数点項目
- ブール項目
- 相対編成の相対レコード番号
- アイテムセレクトにより選定されていない項目（アイテムセレクトがデフォルトの場合、集団項目）
- データファイルのレコード長よりフォーマットのレコード長が長い場合、データファイルのレコード長を超える領域に位置する項目

## 18．一覧形式画面

項目に入力した値を確定するためには、フォーカスを移動するか、[Enter]キーを押下してください。  
データ編集域では、入力を確定する前に他の処理を行うと入力データは破棄されます。

## 19．置換

検索に関する制限・注意事項は「11．検索」に準じます。

- 検索文字と置換文字の長さは同じとする。検索文字 < 置換文字や、検索文字 > 置換文字の場合はエラーとする。
- 文字列に対する検索置換を実施する場合は、検索文字列と置換文字列の項目の属性に対するチェックを行う。
- 索引編成 / 相対編成のキー項目に対する置換処理は行わない。

## 20．16進データの置換

検索に関する制限・注意事項は「12．16進データの検索」に準じます。

- 検索文字と置換文字の長さは同じとする。検索文字 < 置換文字や、検索文字 > 置換文字の場合はエラーとする。
- 16進検索置換を実施する場合、置換文字列より入力データがコード変換エラーを起こす場合でもエラーとはしない。  
指定されて検索文字列を指定された置換文字列に置換する。結果としてコード変換でエラーが発生する可能性がある。
- 索引編成 / 相対編成のキー項目に対する置換処理は行わない。

## フォーマットファイルに関する制限事項/注意事項

データファイルのデータ操作を行う場合、COBOL登録集・YPSインクルード仕様書、ファイル定義体、またはレイアウト定義ファイルを解析してレコードフォーマット情報を作成します。各フォーマットファイル（レコード定義）に関しての制限事項/注意事項を以下に示します。

### 共通

#### 項目数について

01レベルの項目を含めて9,999項目まで扱うことが可能です。なお、繰り返し（COBOL登録集では、OCCURS句）指定がある場合、反復数の分、項目数にカウントされます。

### COBOL登録集

#### 1．記述について

COBOL文法上、正しく記述されていなければなりません。

#### 2．ネスト構造のCOBOL登録集について

ファイルがネスト構造であるCOBOL登録集を解析する場合、関係するファイルがすべて同一フォルダ内に存在する必要があります。

#### 3．以下の指定があってははいけません

- OCCURS DEPENDING ON句
- 01レベルにREDEFINES句
- TYPE/TYPEDEF句 **[ ただし、COBOLコンパイラ使用時はサポート ]**
- 仮原文（括弧など） **[ ただし、COBOLコンパイラ使用時はサポート ]**

#### 4．以下の指定があっても、TF-LINDAでは無視されます

- レベル番号77の項目
- レベル番号66、または88の項目
- BASED ON句
- JUSTIFIED句
- BLANK WHEN ZERO句
- RENAME句
- KEY IS句
- VALUE句
- VALUE NULL句
- 条件名VALUEの記号および、記号定数
- PRINTING POSITION句
- CHARACTER TYPE句
- SYNC句

#### 5．以下の指定については、TF-LINDAで制限されます

- 数字編集項目および英数字編集項目は、英数字項目として扱われます。
- USAGE句のINDEX指定はX(4)として扱われます。
- 外部浮動小数点項目は英数字項目として扱われます。ただし、埋め込み文字は、環境設定(作業環境)内の「COBOL埋め込み文字」の設定には、影響されず常に「NULL」となります。
- ポインタデータ項目は、"PICTURE 9(9) COMP-5"の指定と同等に扱われます。ただし、属性欄には、"9(9)P"を表示します。
- COMPUTATIONAL-1およびCOMPUTATIONAL-2の属性は、それぞれ"PICTURE X(4)"、"PICTURE X(8)"の属性として扱われます。ただし、埋め込み文字は、環境設定(作業環境)内の「COBOL埋め込み文字」の設定には、影響されず常に「NULL」となります。
- 通貨記号は、対応していません。



- COMPUTIONAL-4およびCOMPUTIONAL-5の属性は、2進項目と同等に扱われます。ただし、COMPUTIONAL-5の記憶領域の内部表現は、低アドレスのバイト位置が下位桁を表し、高アドレスのバイト位置が上位桁を表します。

6．01レベル項目の自動付加について

01レベルの項目がない場合、TF-LINDA-ADDRECというレコード名を自動的に付加します。

7．集団項目のUSAGE句指定について

集団項目にUSAGE句が付加されている場合、基本項目はすべて以下のように表示されます。

- 2進数項目                  : B
- 内部10進数項目          : PD

8．OCCURS句指定を伴うBIT属性項目について

OCCURS句指定されているBIT属性の基本項目、またはOCCURS句指定されている集団項目にBIT属性項目が従属している場合、扱うことができません。これらを含むCOBOL登録集をTF-LINDAで扱った場合、データ内容や動作は保証されません。

9．再定義項目を再定義している場合について

再定義項目であると同時に被再定義項目でもある項目は正しく扱われません。

10．2進データの基本項目の扱いについて

TF-LINDAでは、COBOL翻訳オプションである“ BINARY ”に対応しているため、WORD/BYTE形式の両方を扱うことができます。ただし、以下の制限があります。

WORD形式	符号なし2進項目は、常に“ BINARY(WORD,MLBOFF)"指定されたものとして扱います。
BYTE形式	COBOL解析ライブラリ使用時は、扱えません。[ ただし、COBOLコンパイラ使用時はサポート ]

YPSインクルード仕様書

1．記述について

YPS/COBOL文法上、正しく記述されていなければなりません。

2．解析方法について

解析する前にYPS/COBOLコンパイラの「環境設定（COBOL仕様）」の「レコード長」で、251を設定しておく必要があります。

ファイル定義体

1．記述について

FILEで正しく作成されたファイル定義体でなければなりません。

レイアウト定義ファイル

1．記述について

MDPORTのレイアウト定義で正しく作成されたレイアウト定義ファイルでなければなりません。

文字コードはSJISでなければなりません。

2．レベル番号について

設定されている項目は、02レベルの基本項目として扱われる。

OCCURS項目内の項目は+ 2 ずつ（04、06、08・・・）として扱う。

3．以下の指定があっても、TF-LINDAでは無視されます。

マルチフォーマットや複数の01レベルの指定は行えない。

## データファイルの扱いに関する制限事項/注意事項

データファイルの扱いに関する制限事項 / 注意事項を、以下に示します。

### 1. レコード長について

扱えるファイルのレコード長は、最大32,760バイトです。

### 2. ファイルの排他について

TF-LINDAで使用中のファイルは、ファイル単位での排他制御となります。ただしCOBOLアプリケーション内でのみ有効であるため、他のプログラムと共用した場合、TF-LINDAが正常に動作しない場合があります。

### 3. 扱えないファイルについて

- 0バイトのファイルは扱えません。
- データファイル名のフルパスが259文字以上であるファイルは操作できません。

### 4. レコード形式が固定長であるファイルについて

固定長レコードの場合、テストケース設定画面で指定したレコード長と実際のファイルのレコード長が異なると次のような制限が生じます。

- 最終レコードは更新できません。
- レコード追加 / 削除 / 複写はできません。
- 正しくデータ内容が表示されません。

### 5. 行順編成ファイルについて

- COMP、PACKED-DECIMAL、BIT属性の項目が含まれていると、正常に動作しない場合があります。

### 6. 索引編成ファイルについて

索引編成ファイルの更新中に異常が発生すると、データファイルが破壊される場合があります。その場合はCOBOL85/97ファイルユーティリティによるファイルの復旧処理を行ってください。

### 7. Unicodeファイルについて

- 日本語項目は、UCS2（リトルエンディアン）コード、英数字・数字項目は、UTF8コードとして扱います。
- アイテムセレクト機能でレコードフォーマットの変更や集団項目および、再定義項目の選択ができません。

- 行順編成の場合、UCS2（リトルエンディアン）コードまたは、UTF8コードのどちらか一方のコードのみ作成されます。それに伴いフォーマットとして指定できる項目属性に次の制約があります。

UCS2（リトルエンディアン）コードで扱う場合、日本語項目だけの項目属性で構成されている必要があります。

UTF8コードで扱う場合、日本語項目以外の項目属性で構成されている必要があります。

- 索引編成ファイルにおいて、主キー情報と項目情報の相対位置と長さが一致していなければTF-LINDAで扱うことができません。

## 印刷に関する制限事項/注意事項

印刷および、印刷プレビューに関する制限事項 / 注意事項を、以下に示します。

### 1. 印刷全般について

- 扱えるデータ項目数は、最大1,500項目です。
- 一覧形式イメージの印刷のみ可能です。レコード形式イメージの印刷はサポートしていません。
- 抽出していないレコードは、印刷することができません。
- 同一マシン内で複数のTF-LINDAを起動していると、メモリ不足が発生する場合があります。
- プリンタの解像度は、300dpi以上を指定してください。240dpi以下の場合、プレビュー画面のイメージ通りに印刷されない可能性があります。

### 2. 余白について

- 設定できる値は、上下左右とも、0～50mmです。

### 3. フォントについて

- 扱えるフォントサイズは、6～26です。
- 扱えるフォントは、固定ピッチのフォントのみです。(固定ピッチのフォントのみ一覧に表示されています)
- WYSIWYG (表示と印刷時のイメージが同じ) フォント以外のものを指定した場合、プレビュー画面のイメージ通りに印刷されない可能性があります。

### 4. 行間/データ項目間隔について

行間 / データ項目間隔サイズは固定であり、それぞれ次のとおりです。

行間	フォント文字サイズの4分の1
データ項目間隔	半角2文字の空白 (項目区切りありの場合)

### 5. 16進印刷について

- 残り印刷行が3行 (通常印刷行と16進印刷行を合わせて) に満たない場合、後のページに印刷します。
- 内部ブール項目 (BIT) は、「-」 (ハイフン) で印刷します。
- EUCコードの3バイト系文字、半角カナ文字および、JEFコードの場合、通常印刷行データと1データ項目内の範囲でずれます。

### 6. 印刷用紙について

以下に示すもの以外の用紙サイズは、「印刷ページ設定プロパティ」内の「用紙サイズ」に「Unknown」が表示されます。ただし印刷は可能です。

- 「Letter (8 1/2 × 11 inc)」
- 「Legal (8 1/2 × 14 inc)」
- 「A4シート (210 × 297 mm)」
- 「A3シート (297 × 420 mm)」
- 「A4 smallシート (210 × 297 mm)」
- 「A5シート (148 × 210 mm)」
- 「B4シート (250 × 354 mm)」
- 「B5シート (182 × 257 mm)」
- 「Cシート (17 × 22 インチ)」
- 「Dシート (22 × 34 インチ)」
- 「Eシート (34 × 44 インチ)」
- 「Letter Small (8 1/2 × 11 インチ)」
- 「Tabloid (11 × 17 インチ)」
- 「Ledger (17 × 11 インチ)」
- 「Statement (5 1/2 × 8 1/2 インチ)」
- 「Executive (7 1/2 × 10 1/2 インチ)」
- 「Folio (8 1/2 × 13 インチ)」
- 「Quarto (215 × 275 mm)」
- 「10 × 14インチシート」
- 「11 × 17インチシート」
- 「Note (8 1/2 × 11 インチ)」
- 「#9 Envelope (3 7/8 × 8 7/8 インチ)」
- 「#10 Envelope (4 1/8 × 9 1/2 インチ)」
- 「#11 Envelope (4 1/2 × 10 3/8 インチ)」
- 「#12 Envelope (4 3/4 × 11 インチ)」
- 「#14 Envelope (5 × 11 1/2 インチ)」
- 「DL Envelope (110 × 220 mm)」
- 「C5 Envelope (162 × 229 mm)」
- 「C3 Envelope (324 × 458 mm)」
- 「C4 Envelope (229 × 324 mm)」
- 「C6 Envelope (114 × 162 mm)」
- 「C65 Envelope (114 × 229 mm)」
- 「B4 Envelope (250 × 353 mm)」
- 「B5 Envelope (176 × 250 mm)」
- 「B6 Envelope (176 × 125 mm)」
- 「Italy Envelope (110 × 230 mm)」
- 「Monarch Envelope (3 7/8 × 7 1/2 インチ)」
- 「6 3/4 Envelope (3 5/8 × 6 1/2 インチ)」
- 「US Std Fanfold (14 7/8 × 11 インチ)」
- 「German Std Fanfold (8 1/2 × 12 インチ)」
- 「German Legal Fanfold (8 1/2 × 13 インチ)」

## 7. ヘッダ/フッタについて

ヘッダ/フッタの印刷文字列が1ページに納まらない部分は切り捨てられます。

## 8. 小見出しについて

小見出しは、項目区切りありの場合にのみ、印刷されます。

小見出しである属性/相対位置は、画面上での表示/非表示状態と同じ形式で印刷されます。ヘッダ/フッタの印刷文字列が1ページに納まらない部分は切り捨てられます。

## 9. レコード番号について

印刷されるレコード番号は、画面上表示されているものと対応付けられています。そのため削除レコードを印刷対象としない場合、その部分に相当するレコード番号が跳ぶことになります。

## 10．項目区切りなしの印刷について

- EUCコードの3バイト系文字、半角カナ文字および、JEFコードの場合、目盛りとずれます。
- 8で割り切れないBIT項目が連続するものを含むCOBOL登録集には対応していません。

## 11．可変長形式のレコードについて

可変長レコードの場合、データフォーマットが存在する長さ（フォーマットのレコード長）で印刷します。

## 12．フォーマットとデータファイルのレコード長が異なる場合について

フォーマットレコード長＞ データファイルレコード長の 場合	データが存在しない部分の小見出し（データ項目名/属性/相対位置）
フォーマットレコード長＜ データファイルレコード長の 場合	データフォーマットが存在しない部分のデータは、印刷されません。

## 13．文字列のページ引き継ぎについて

印刷する文字列がページ内に納まらない場合、印刷可能なところまで出力し、続きを次ページに印刷します。

また、日本語文字がちょうど良くページに納まらない場合、文字化け防止として、余白（0mm設定時含む）部分にはみ出した形式で1バイト余計に印刷します。それに伴い、次ページの先頭1バイトは空白となります。

## 14．プリンタについて

Windowsに対応していないプリンタを使用した場合、プレビュー画面のイメージ通りに印刷されない可能性があります。

## ツールバー

TF-LINDAで利用できるツールバーについて以下に説明します。



ファイル	1	データファイルの新規作成	データファイルを新規作成したい場合に、このコマンドを実行します。
	2	データファイルを開く	既存のデータファイルを操作したい場合に、このコマンドを実行します。また、ここでは新規のデータファイルを指定することもできます。
	3	別データファイルへ保存	編集中のデータ内容を別のファイルへ同一のファイル属性で保存します。
	4	保存して閉じる	データファイルの更新を行い、初期画面に戻ります。その際、更新件数確認のメッセージが表示されます。変更データが存在しない場合は、なにもせずに初期画面に戻ります。
	5	保存しないで閉じる	初期画面に戻ります。変更データが存在する場合は、保存するかどうかのメッセージボックスが表示されます。
	6	印刷	編集中のデータを一覧形式イメージで印刷することができます。
	7	印刷プレビュー	印刷イメージを画面上で確認することができます。
データ操作	8	やり直し	1レコード単位で変更データを元の値に戻します。ただし、データ変更後、他のレコードへ移動すると、その時点でやり直し(U)ができなくなります。
	9	最後に追加	存在するレコードの一番後ろにレコードを追加します。一度に複数件の追加が可能です。 また、自動生成機能を利用することにより、あらかじめ値が設定されたレコードを追加することができます。
	10	レコード複写	・順/行順編成ファイル操作時は、現在表示中のレコードを複写位置で指定された位置に挿入複写します。複写位置に「0」を指定すれば最後尾に追加複写します。また、一度に複数件の複写が可能です。 また、自動生成機能を利用することにより、一部を自動生成値に置きかえたレコードを複写することができます。 ・索引/相対編成ファイル操作時は、現在表示中のレコードを1件複写します。追加処理後のレコードの並びは、索引ファイルの場合は主キーの昇順、相対ファイルの場合は相対レコード番号の昇順となります。
	11	レコード削除	現在、表示中のレコードを削除します。この処理によって削除されたレコードはレコード復元(R)コマンドによって復元することができます。順/行順編成ファイル操作時は、一度に複数件の削除が可能です。
検索	12	レコード番号による指定	指定されたレコード番号のレコードを表示します。
	13	先頭レコード	先頭レコードを表示します。
	14	前レコード	現在表示しているレコードの1つ前のレコードを表示します。
	15	次レコード	現在表示しているレコードの1つ次のレコードを表示します。
	16	最終レコード	最終レコードを表示します。
表示	17	レコード形式画面	データ編集画面を一覧形式画面からレコード形式画面に切り替えます。その際、一覧形式画面でフォーカスが設定されているレコードが表示されます。

	18	一覧形式画面	データ編集画面をレコード形式画面から一覧形式画面に切り替えます。その際、レコード形式画面で表示していたレコードを先頭にして一覧表示されます。
	19	アイテムセレクト	表示/編集したいデータ項目を選択します。詳しくは以下のような処理が可能です。 ・レコードフォーマットの指定 ・OCCURS句展開表示/非展開表示 ・表示項目の選択 ・被再定義項目/再定義項目の切り替え
	20	16進編集	16進数によるデータの表示/編集を行います。現在、カーソルの存在するデータ項目が処理対象となります。
オプション	21	環境設定	TF-LINDAが動作する上での各種設定を行います。設定可能な項目群は、以下のものです。 ・フォルダ設定 ・作業環境 ・バックアップ ・フォーマット解析方法 ・コード変換情報 ・表示形式
	22	MDPORT連携	インポート SIMPLIA/TF-MDPORTの機能を利用し、CSV形式のファイルを取り込むことができます。  ・エクスポート 編集中のデータ内容を、SIMPLIA/TF-MDPORTの機能を利用し、異なるコード/ファイル編成または、CSV形式に変換して出力します。
ヘルプ	23	トピックの検索	オンラインマニュアルのコンテンツを表示します。

ステータスバー

ステータスバーの左側の部分には、メニューコマンドを選択したときにそれぞれの簡単な説明が表示されます。同様に、ツールバーのボタンを押したままにしても簡単な説明が表示されます。説明を見た後でそのツールバーのコマンドの実行を中止したいときは、マウス ポインタをそのツールバー ボタン以外の位置に移動してマウス ボタンを離します。



表示	説明
ファイル編成	[ 順編成 ] / [ 行順編成 ] / [ 索引編成 ] / [ 相対編成 ]
レコード属性	[ 固定長 ] / [ 可変長 ]
編集モード	[ 更新 ] / [ 表示 ] / [ 追加 ]
メッセージ	その他の情報を表示します。
カーソル位置	入力エリア内のカーソル位置を「現在位置/全体桁」の形式（単位：バイト数）で表示します。



## ショートカットキー

TF-LINDAで利用できるショートカットキーを以下に説明します。

### ファイル (F)

<i>Ctrl + O</i>	[ データファイルを開く ] を選択します。
<i>Ctrl + S</i>	[ 保存して閉じる ] を選択します。
<i>Ctrl + P</i>	[ 印刷 ] を選択します。

### データ操作 (D)

<i>Ctrl + Z</i>	[ やり直し ] を選択します。
<i>Ctrl + A</i>	[ 最後に追加 ] を選択します。

### 編集 (E)

<i>Ctrl + H</i>	[ 16進編集 ] を選択します。
-----------------	-------------------

### 検索 (S)

<i>F7</i>	[ 前レコード ] を選択します。
<i>F8</i>	[ 次レコード ] を選択します。
<i>F5</i>	[ 先頭レコード ] を選択します。
<i>F6</i>	[ 最終レコード ] を選択します。
<i>Ctrl + F</i>	[ 検索 ] を選択します。
<i>Shift + F3</i>	[ 前候補 ] を選択します。
<i>F3</i>	[ 次候補 ] を選択します。
<i>Ctrl + I</i>	[ 項目名の検索 ] を選択します。
<i>Ctrl + R</i>	[ 置換 ] を選択します。

## メッセージの説明形式

各ドキュメントを出力する際に発生するメッセージについて説明します。メッセージは各画面上のメッセージボックスとして出力します。

TF-LINDA製品の実行時に出力されるメッセージの説明をします。

### 日本語詳細メッセージ

[ メッセージの詳細 ]	出されたメッセージの詳細情報を示します。
[ 利用者の処置 ]	利用者が行うべき対処方法を示します。

一覧に記載されていないメッセージが表示された場合、以下の処置を行ってみてください。それでも同じ現象が発生する場合は、富士通技術員（SE）に連絡してください。

- ・ Windows（R）/Windows NT（R）の再立ち上げを行い、再度処理を行う。
- ・ 他のアプリケーションが起動されている場合、終了してから、再度処理を行う。
- ・ Windows（R）/Windows NT（R）システムおよび、TF-LINDAで作業に使用しているドライブに容量不足が無いか確認する。
- ・ 搭載メモリは、十分か確認する。

10001：レジストリに環境設定の情報（フォルダ設定・テストケースファイル格納フォルダ）を保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

Windows（R）/Windows NT（R）システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10002：レジストリに環境設定の情報（フォルダ設定・作業ファイル用フォルダ）を保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

Windows（R）/Windows NT（R）システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10003：レジストリに環境設定の情報（作業環境・COBOL埋め込み文字の設定）を保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

Windows（R）/Windows NT（R）システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10004：レジストリに環境設定の情報（作業環境・編集モード）を保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

Windows（R）/Windows NT（R）システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10005：レジストリに環境設定の情報（バックアップ・バックアップファイル作成の有無）を保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

Windows（R）/Windows NT（R）システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10006：レジストリに環境設定の情報（フォーマット解析方法・原始プログラム）を保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

Windows（R）/Windows NT（R）システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10007：レジストリに環境設定の情報（フォーマット解析方法・登録集）を保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

Windows（R）/Windows NT（R）システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10008：レジストリに環境設定の情報（フォーマット解析方法・英小大文字の区別）を保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

Windows（R）/Windows NT（R）システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

認してください。

10009：レジストリに環境設定の情報（フォーマット解析方法・タブコードの扱い）を保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

Windows（R）/Windows NT（R）システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10010：レジストリに環境設定の情報（フォーマット解析方法・文字コード）を保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

Windows（R）/Windows NT（R）システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10011：レジストリに環境設定の情報（コード変換情報・ADJUSTを使用する）を保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

Windows（R）/Windows NT（R）システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10012：レジストリに環境設定の情報（コード変換情報・EUCの場合カナJIS8モード）を保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

Windows（R）/Windows NT（R）システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10013：レジストリに環境設定の情報（コード変換情報・変換元コード体系）を保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

Windows（R）/Windows NT（R）システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10014：レジストリに環境設定の情報（コード変換情報・変換先コード体系）を保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

Windows（R）/Windows NT（R）システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10015：レジストリに環境設定の情報（コード変換情報・変換元iconvキーワード）を保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

Windows（R）/Windows NT（R）システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10016：レジストリに環境設定の情報（コード変換情報・変換先iconvキーワード）を保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

Windows（R）/Windows NT（R）システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10017: レジストリに環境設定の情報 (作業環境・索引 / 相対編成のレコード操作時のメッセージの表示) を保存できませんでした。

[メッセージの意味]

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

[利用者の処置]

Windows (R) / Windows NT (R) システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10018: レジストリに環境設定の情報 (表示形式・数値項目の 0 サプレス) を保存できませんでした。

[メッセージの意味]

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

[利用者の処置]

Windows (R) / Windows NT (R) システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10019: レジストリに環境設定の情報 (作業環境・エラーファイル表示用エディタ名) を保存できませんでした。

[メッセージの意味]

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

[利用者の処置]

Windows (R) / Windows NT (R) システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10020: レジストリに環境設定の情報 (バックアップ・バックアップファイル作成フォルダ) を保存できませんでした。

[メッセージの意味]

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

[利用者の処置]

Windows (R) / Windows NT (R) システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10021: レジストリに環境設定の情報 (表示形式・一覧形式画面: 項目の最大表示幅の抑制) を保存できませんでした。

[メッセージの意味]

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

[利用者の処置]

Windows (R) / Windows NT (R) システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10022: レジストリに環境設定の情報 (表示形式・レコード形式画面: 項目名の表示幅) を保存できませんでした。

[メッセージの意味]

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

[利用者の処置]

Windows (R) / Windows NT (R) システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10023: レジストリに環境設定の情報 (フォーマット解析方法・解析方法) を保存できませんでした。

[メッセージの意味]

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

[利用者の処置]

Windows (R) / Windows NT (R) システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10024: レジストリに環境設定の情報 (フォーマット解析方法・2 進項目の扱い) を保存できませんでした。

[メッセージの意味]

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

[利用者の処置]

Windows (R) / Windows NT (R) システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10025 : レジストリに環境設定の情報 ( フォーマット解析方法・COPY文への付加文字列 ) を保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

Windows ( R ) /Windows NT ( R ) システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10026 : レジストリに環境設定の情報 ( フォーマット解析方法・ファイル種別 ) を保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

Windows ( R ) /Windows NT ( R ) システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10027 : レジストリに環境設定の情報 ( コード変換情報・行順編成ファイルのコード種別 ) を保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

Windows ( R ) /Windows NT ( R ) システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10028 : レジストリに環境設定の情報 ( コード変換情報・日本語項目 ( UCS2 ) の16進表示形式 ) を保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

Windows ( R ) /Windows NT ( R ) システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10029 : レジストリに環境設定の情報 ( 作業環境・COBOLファイルサイズ ) を保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

環境設定の情報をレジストリへ保存する処理で、エラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

Windows ( R ) /Windows NT ( R ) システムの存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

10101 : 指定されたフォルダが存在しないため、保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

指定されたフォルダが存在しないため、保存できませんでした。

〔利用者の処置〕

指定したフォルダ名が実際に存在するか確認してください。また、TF-LINDAでは、ドライブのルートに保存することはできません。必ずフォルダを作成し、その中へ保存して下さい。

10102 : 指定されたフォルダに書き込み権限が無いため、保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

指定されたフォルダに書き込み権限が無いため、保存できませんでした。

〔利用者の処置〕

対象フォルダのアクセス権に書き込み許可を与えるか、または、書き込み権限をもつ別のフォルダへ保存してください。

10103 : 指定されたファイルに書き込み権限が無いため、上書き保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

上書き保存を実行しましたが、既存ファイルに書き込み権限が無いため、保存できませんでした。

〔利用者の処置〕

対象の既存ファイルのアクセス権に書き込み許可を与えるか、または、別のファイル名で保存してください。

10201 : テストケースファイルのフルパスが制限を超えました。指定するデータファイルのファイル名を短



くしてください。

〔メッセージの意味〕

テストケースファイル名（ドライブ名・フォルダ名含む）の長さが制限を超えました。

〔利用者の処置〕

テストケースファイル名の長さは、データファイル名と環境設定のテストケースファイルを保存するフォルダに影響されます。詳細は、以下のとおりです。

環境設定のテストケースファイルを保存するフォルダで指定したフォルダ名（フルパス）の長さ＋データファイル名の長さ＋4（テストケースファイルの拡張子「.LNC」）

10202：指定されたフォルダが存在しないため、保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

指定されたフォルダが存在しないため、保存できませんでした。

〔利用者の処置〕

指定フォルダを確認してください。

10203：指定されたフォルダに書き込み権限が無いため、保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

指定されたフォルダに書き込み権限が無いため、保存できませんでした。

〔利用者の処置〕

指定フォルダのアクセス権限を確認してください。

10204：指定されたファイルに書き込み権限が無いため、上書き保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

指定されたファイルに書き込み権限が無いため、上書き保存できませんでした。

〔利用者の処置〕

指定ファイルのアクセス権限を確認してください。

10205：指定されたTF-LINDAの制御ファイルに書き込み権限が無いため、上書き保存できませんでした。

〔メッセージの意味〕

テストケースファイルに書き込み権限が無いため、上書き保存できませんでした。

〔利用者の処置〕

環境設定のテストケースファイルを保存するフォルダ内に存在する、指定したデータファイル名＋.LNCファイルのアクセス権限を確認してください。

10206：TF-LINDAで開いているファイルが指定されています。別データファイルを指定してください。

〔メッセージの意味〕

指定されたデータファイルは、現在開いているデータファイルです。

〔利用者の処置〕

別のデータファイル名を指定してください。

10207：指定されたファイルは他のアプリで使用されているため開けません。他のアプリを終了して処理を実行してください。

〔メッセージの意味〕

指定されたデータファイルは、他のアプリケーションで既に使用されています。

〔利用者の処置〕

他のアプリケーションでデータファイルを閉じてから、TF-LINDAで指定してください。

10211：指定されたファイルは既に存在します。データファイルを上書きしてもよろしいですか？

〔メッセージの意味〕

指定されたデータファイルは、既に存在しています。上書き保存してもよろしいですか？

〔利用者の処置〕

上書き保存しても良い場合は「はい」を、上書き保存したくない場合は「いいえ」を選択し、別名で再指定してください。

10212：指定されたファイルは既に存在します。TF-LINDAの制御ファイルを上書きしてもよろしいですか？

〔メッセージの意味〕

テストケースファイルは、既に存在しています。上書き保存してもよろしいですか？

〔利用者の処置〕

上書き保存しても良い場合は「はい」を、上書き保存したくない場合は「いいえ」を選択し、データファイル名から再指定してください。

20001:メモリ領域の取得に失敗しました。

〔メッセージの意味〕

TF-LINDAの動作で必要とするメモリ領域を確保できませんでした。

〔利用者の処置〕

他のアプリケーションが起動している場合、それらを終了し、再度同じ処理を行って下さい。それでも同じ現象が発生する場合、Windows ( R ) /WindowsNT ( R ) 再起動後、再度同じ処理を行って下さい。

20002:レコード位置に範囲外の値が指定されたため、レコードの検索に失敗しました。

〔メッセージの意味〕

範囲外の値が指定されました。

〔利用者の処置〕

1以上かつ、存在するレコード総数以下の値、または、「0」(ゼロ)を指定して下さい。

20003:レコード位置に範囲外の値が指定されたため、レコード複写できませんでした。

〔メッセージの意味〕

レコード位置に範囲外の値が指定されました。

〔利用者の処置〕

レコード位置に1以上かつ、存在するレコード総数以下の値、または、「0」(ゼロ)を指定して下さい。

20008:レコードのデータを検出できませんでした。データが壊れている可能性があります。処理を終了しメインウィンドウから再開してください。

〔メッセージの意味〕

何らかの原因でデータとメモリ情報に矛盾が発生しました。

〔利用者の処置〕

富士通技術員 ( SE ) に連絡して下さい。

20009:内部ファイルのアクセスエラーが発生しました。データが壊れている可能性があります。処理を終了しメインウィンドウから再開してください。

〔メッセージの意味〕

何らかの原因でデータとメモリ情報に矛盾が発生しました。

〔利用者の処置〕

富士通技術員 ( SE ) に連絡して下さい。

20010:入力されたレコードキーの値は、既に存在します。値を変更してください。

〔メッセージの意味〕

重複が許されていないレコードキーに対して、既に存在する値が入力されました。

〔利用者の処置〕

存在しないレコードキー値を入力する。

20011:コントロールの作成に失敗しました。

〔メッセージの意味〕

メモリ不足のため、コントロールの作成に失敗しました。

〔利用者の処置〕

Windows ( R ) /WindowsNT ( R ) 再立ち上げを行い、再度処理を行って下さい。

20012:選択されたフォントのサイズは大きすぎます。選択をやり直してください。

〔メッセージの意味〕

指定したフォントサイズは、TF-LINDAでは扱えません。

〔利用者の処置〕

フォントサイズには、6～26の範囲内で指定して下さい。

20013:入力されたレコード長が最大長を超えました。

〔メッセージの意味〕

指定したレコード長の値は、最大レコード長を超えています。

〔利用者の処置〕

1～最大レコード長(テストケース選択ダイアログボックス：データファイル情報のレコード長値)の範囲内で指定して下さい。

20014:指定されたレコード位置に誤りがあります。

〔メッセージの意味〕



範囲外の値が指定されました。

〔 利用者の処置 〕

1以上かつ、存在するレコード総数以下の値、または、「0」(ゼロ)を指定して下さい。

20015:内部処理でエラーが発生しました。

〔 メッセージの意味 〕

何らかの原因で内部処理にエラーが発生しました。

〔 利用者の処置 〕

富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

20016:このレコードデータを更新前に戻します。更新されたデータは破棄されますがよろしいですか？

〔 メッセージの意味 〕

現在表示しているレコードを更新前のデータに戻しますが、よろしいですか。

〔 利用者の処置 〕

特になし。

20017:データが更新されています。保存しますか？

〔 メッセージの意味 〕

データが更新されています。保存しますか。

〔 利用者の処置 〕

特になし。

20018:レコードキーの値を入力してください。

〔 メッセージの意味 〕

レコードキーに当たる部分の項目に対してのデータ入力が行われていません。

〔 利用者の処置 〕

レコードキー項目へのデータ入力を行って下さい。

20019:先頭レコードです。

〔 メッセージの意味 〕

現在表示しているレコードが先頭レコードです。

〔 利用者の処置 〕

特になし。

20020:最終レコードです。

〔 メッセージの意味 〕

現在表示しているレコードが最終レコードです。

〔 利用者の処置 〕

特になし。

20021:コントロールの破棄に失敗しました。

〔 メッセージの意味 〕

何らかの原因で内部処理にエラーが発生しました。

〔 利用者の処置 〕

富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

20022:レコードキーの値が重複しているレコードが存在します。これらのレコードは、ファイル属性に反するため破棄されます。

〔 メッセージの意味 〕

追加しようとしたレコードは、既に存在するレコードキーの値をもつレコードです。そのため、このレコードは破棄されます。

〔 利用者の処置 〕

特になし。

20023:レコード操作のやり直しに失敗しました。

〔 メッセージの意味 〕

レコードのやり直し処理中にエラーが発生しました。

〔 利用者の処置 〕

環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で指定したフォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

20024:レコードキーにあたるデータは変更できません。

〔メッセージの意味〕

指定した項目は、レコードキー項目であるためデータ編集できません。

〔利用者の処置〕

特になし。

20025:入力された相対レコード番号は、既に存在します。値を変更してください。

〔メッセージの意味〕

入力された相対レコード番号は、既に存在します。

〔利用者の処置〕

相対レコード番号としてまだ指定されていない値を入力して下さい。

20026:相対レコード番号を入力してください。

〔メッセージの意味〕

相対レコード番号を入力してください。

〔利用者の処置〕

相対レコード番号を入力してください。

20027:相対レコード番号は、変更できません。

〔メッセージの意味〕

指定した項目は、相対レコード番号であるため処理できません。

〔利用者の処置〕

特になし。

20028:アイテムセレクトで設定した情報を保存しますか？

〔メッセージの意味〕

アイテムセレクトした情報をテストケースファイル内に保存しますか。

〔利用者の処置〕

特になし。

20029:入力された相対レコード番号に誤りがあります。1～99999の範囲で入力してください。

〔メッセージの意味〕

指定した相対レコード番号の値に誤りがあります。

〔利用者の処置〕

1～99999の範囲内で指定して下さい。

20030:作業フォルダのディスク空き容量が不足しています。

〔メッセージの意味〕

環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で指定したドライブのディスク空き容量が不足しています。

〔利用者の処置〕

環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で別のフォルダを指定するか、ディスクの空き容量を増やしてから、再度処理して下さい。

20031:レコードを追加します。やり直してできませんがよろしいですか？

〔メッセージの意味〕

レコード追加処理を行うと、その後レコード追加処理を行う前の状態に戻すことはできません。

〔利用者の処置〕

特になし。

20032:指定されたファイルは既に存在します。新規のファイル名を指定してください。

〔メッセージの意味〕

データファイルの新規作成を実行したにもかかわらず、既に存在するファイルを指定しました。

〔利用者の処置〕

存在しないファイル名を入力してください。

20033:テストケースのアナライズ情報に矛盾があります。フォーマットファイルの設定からやり直してください。

〔メッセージの意味〕

テストケースファイルとメモリ上でのフォーマット情報に矛盾があります。

〔利用者の処置〕

テストケース設定ダイアログボックスにて、再度、フォーマットファイルの解析を行って下さい。

20034:入力されたレコード長に誤りがあります。

〔メッセージの意味〕

入力されたレコード長の値に誤りがあります。

〔利用者の処置〕

1～最大レコード長(テストケース選択ダイアログボックス：データファイル情報のレコード長値)の範囲内で指定して下さい。また、索引編成ファイルの場合、最小レコード長以上の値で指定してください。

20035:相対レコード番号の値が重複しているレコードが存在しています。これらのレコードは、ファイル属性に反するため破棄されます。

〔メッセージの意味〕

入力された相対レコード番号は、既に存在します。

〔利用者の処置〕

相対レコード番号としてまだ指定されていない値を入力して下さい。

20036:選択されたフォントのサイズは小さすぎます。選択をやり直してください。

〔メッセージの意味〕

指定したフォントサイズは、TF-LINDAでは扱えません。

〔利用者の処置〕

フォントサイズには、6～26の範囲内で指定して下さい。

20038:LINDAで扱うことのできるレコード数（10万件）を超えました。

〔メッセージの意味〕

編集可能なレコード数の制限（10万件）を超えました。

〔利用者の処置〕

テストケース選択ダイアログボックスの抽出条件で編集レコードを絞り込むか、追加モードで編集して下さい。

20039:この項目は16進編集では編集できません。

〔メッセージの意味〕

BIT属性の項目は、16進編集できません。

〔利用者の処置〕

特になし。

20040:データを保存するディスクの空き領域が不足しています。不要なレコードを削除するか、領域を確保してから処理をやり直してください。

〔メッセージの意味〕

データファイルを保存するドライブのディスクの空き容量が不足しています。

〔利用者の処置〕

ディスクの空き容量を増やしてから、再度処理して下さい。

20041:検索処理が異常終了しました。

〔メッセージの意味〕

検索処理において予想していないエラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

20042:該当するデータが見つかりませんでした。

〔メッセージの意味〕

該当するデータが見つかりませんでした。

〔利用者の処置〕

特になし。

20043:データのソートに失敗しました。

〔メッセージの意味〕

データのソート処理でエラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

環境設定のTF-LINDAで作業ファイルを作成するフォルダのディスク容量を確認してください。または、PowerSORTのオンラインマニュアルを参照ください。

20044:データを生成するための書式が指定されていません。データは自動生成されませんがよろしいですか？

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

データの自動生成を行わない場合は「はい」を、自動生成する場合は「いいえ」を選択してください。

20045:データの生成に失敗しました。

〔メッセージの意味〕

データの生成処理でエラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

ディスクの空き容量を増やしてから、再度処理して下さい。

20046:データの生成でエラーが発生しました。エラーファイルを参照しますか？

〔メッセージの意味〕

データの生成処理でエラーが発生しました。エラーの詳細内容を参照しますか？

〔利用者の処置〕

エラー内容を参照し、データ生成の設定を再指定してください。

20047:生成されたデータの取り込みに失敗しました。

〔メッセージの意味〕

生成されたデータを取り込む処理でエラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

データ生成の設定を再指定してください。

20048:生成されたデータの取り込みでエラーとなるデータがありました。エラーファイルを参照しますか？

〔メッセージの意味〕

生成されたデータを取り込む処理でエラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

エラー内容を参照し、データ生成の設定を再指定してください。

20049:データを生成する項目の情報を取得できませんでした。データは自動生成されません。

〔メッセージの意味〕

データ生成処理を行うために必要なデータ項目情報の取得できませんでした。

〔利用者の処置〕

富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

20050:データを生成できる項目がありません。

〔メッセージの意味〕

データ生成処理可能な属性のデータ項目がありません。

〔利用者の処置〕

データ生成処理でサポートしている属性のデータ項目を含むフォーマットで処理してください。

20051:生成されたデータの取り込みでエラーを出力するファイルの作成に失敗しました。エラー内容は出力されません。

〔メッセージの意味〕

自動生成されたデータを取り込む処理でエラーが発生したが、エラー内容をエラーファイルに出力できませんでした。

〔利用者の処置〕

環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で指定したフォルダの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

20061:索引キーが指定された01レベルのレコード長の範囲内にありません。索引キーに値が設定できないので、レコードの追加／複写は行えません。

〔メッセージの意味〕

指定されたレコードフォーマットは、レコードキーとして指定されている位置のフォーマットをもたないため、追加レコードに対するキー値を設定する事ができません。よってレコード追加／複写処理を行えません。

〔利用者の処置〕

レコード追加／複写処理を行う場合は、別のフォーマットを指定する必要があります。

41001:指定されたファイルは、属性に問題があります。

〔メッセージの意味〕

指定したデータファイルは、属性に問題があります。

隠しファイル、システムファイル、ボリュームファイル、ディレクトリの属性が設定されている場合に表示されます。

〔利用者の処置〕

指定したデータファイルを確認してください。

41002:テストケースファイルのフルパスが制限を超えました。ファイル名かパスを短くしてください。

〔メッセージの意味〕

テストケースファイルを保存するフォルダの長さがTF-LINDAで扱える長さを超えました。

〔利用者の処置〕

環境設定の「テストケースファイルを保存するフォルダ」で短いフォルダ名を指定してから、再度処理して下さい。

41003:作業ファイルのフルパスが制限を超えました。ファイル名かパスを短くしてください。

〔メッセージの意味〕

作業ファイル作成フォルダの長さがTF-LINDAで扱える長さを超えました。

〔利用者の処置〕

環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で短いフォルダ名を指定してから、再度処理して下さい。

41006:フォーマットファイルが指定されていません。フォーマットファイルを指定してください。

〔メッセージの意味〕

使用するフォーマットファイルの設定が行われていません。

〔利用者の処置〕

使用するフォーマットファイルを設定して下さい。

41007:データファイル情報のファイル編成が指定されていません。ファイル編成を指定してください。

〔メッセージの意味〕

データファイルのファイル編成情報が指定されていません。

〔利用者の処置〕

データファイルのファイル編成を指定して下さい。

41008:データファイル情報のレコード形式が指定されていません。レコード形式を指定してください。

〔メッセージの意味〕

データファイルのレコード形式情報が指定されていません。

〔利用者の処置〕

データファイルのレコード形式を指定して下さい。

41009:データファイル情報のレコード長が入力されていません。レコード長を入力してください。

〔メッセージの意味〕

データファイルのレコード長（最大レコード長）情報が指定されていません。

〔利用者の処置〕

データファイルのレコード長を指定して下さい。

41010:テストケース格納フォルダが設定されていません。環境設定でテストケース格納フォルダを入力してください。

〔メッセージの意味〕

環境設定の「テストケースファイルを保存するフォルダ」の設定が行われていません。

〔利用者の処置〕

環境設定の「テストケースファイルを保存するフォルダ」にフォルダを指定した後、再度、処理を行って下さい。

41011:作業ファイル用フォルダが設定されていません。環境設定で作業ファイル用フォルダを入力してください。

〔メッセージの意味〕

環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」の設定が行われていません。

〔利用者の処置〕

環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」にフォルダを指定した後、再度、処理



を行って下さい。

41012:テストケースファイル情報の領域の取得に失敗しました。

[メッセージの意味]

TF-LINDAの動作で必要とするメモリ領域が確保できませんでした。

[利用者の処置]

他のアプリケーションが起動している場合、それらを終了し、再度同じ処理を行って下さい。それでも同じ現象が発生する場合、Windows ( R ) /WindowsNT ( R ) 再起動後、再度同じ処理を行って下さい。

41013:COBOL登録集フォルダ名の領域の取得に失敗しました。

[メッセージの意味]

TF-LINDAの動作で必要とするメモリ領域が確保できませんでした。

[利用者の処置]

他のアプリケーションが起動している場合、それらを終了し、再度同じ処理を行って下さい。それでも同じ現象が発生する場合、Windows ( R ) /WindowsNT ( R ) 再起動後、再度同じ処理を行って下さい。

41014:COBOL\_WBフォルダ名の領域の取得に失敗しました。

[メッセージの意味]

TF-LINDAの動作で必要とするメモリ領域が確保できませんでした。

[利用者の処置]

他のアプリケーションが起動している場合、それらを終了し、再度同じ処理を行って下さい。それでも同じ現象が発生する場合、Windows ( R ) /WindowsNT ( R ) 再起動後、再度同じ処理を行って下さい。

41015:テストケースファイル名(フルパス)の領域の取得に失敗しました。

[メッセージの意味]

TF-LINDAの動作で必要とするメモリ領域が確保できませんでした。

[利用者の処置]

他のアプリケーションが起動している場合、それらを終了し、再度同じ処理を行って下さい。それでも同じ現象が発生する場合、Windows ( R ) /WindowsNT ( R ) 再起動後、再度同じ処理を行って下さい。

41016:データファイル(FULLパス)の領域の取得に失敗しました。

[メッセージの意味]

TF-LINDAの動作で必要とするメモリ領域が確保できませんでした。

[利用者の処置]

他のアプリケーションが起動している場合、それらを終了し、再度同じ処理を行って下さい。それでも同じ現象が発生する場合、Windows ( R ) /WindowsNT ( R ) 再起動後、再度同じ処理を行って下さい。

41017:抽出先ファイル(FULLパス)の領域の取得に失敗しました。

[メッセージの意味]

TF-LINDAの動作で必要とするメモリ領域が確保できませんでした。

[利用者の処置]

他のアプリケーションが起動している場合、それらを終了し、再度同じ処理を行って下さい。それでも同じ現象が発生する場合、Windows ( R ) /WindowsNT ( R ) 再起動後、再度同じ処理を行って下さい。

41020:レコードキー情報領域の開放に失敗しました。

[メッセージの意味]

TF-LINDAの動作で必要とするメモリ領域が開放できませんでした。

[利用者の処置]

他のアプリケーションが起動している場合、それらを終了し、再度同じ処理を行って下さい。それでも同じ現象が発生する場合、Windows ( R ) /WindowsNT ( R ) 再起動後、再度同じ処理を行って下さい。

41025:指定されたデータファイルのフォルダは存在しません。データファイルを再指定してください。

[メッセージの意味]

指定されたフォルダが存在しないため、保存できませんでした。

[利用者の処置]

指定したフォルダ名が実際に存在するか確認してください。また、TF-LINDAでは、ドライブのルートに存在するファイルを扱うことができません。必ずフォルダを作成し、その中のファイルを扱うようにして下さい。

41026:指定されたファイルは、0バイトのファイルです。LINDAでは、0バイトのファイルを扱えません。

[メッセージの意味]

指定されたファイルは、ファイル長が0バイトのファイルです。

〔利用者の処置〕

別のファイルを指定するか、または、ファイルを削除してから、再度、処理して下さい。

41027:COBOL85/97または、COBOL85/97ランタイムシステムがインストールされていないか、インストール情報に誤りがあります。

〔メッセージの意味〕

COBOLのインストールが正しく行われていません。

〔利用者の処置〕

COBOLのインストールを再度、行ってから、TF-LINDAを使用して下さい。

41029:指定されたデータファイルを作成するフォルダには、書き込み権限がありません。

〔メッセージの意味〕

データファイルを作成するフォルダに、書き込み権限の無いフォルダを指定しました。

〔利用者の処置〕

書き込み権限をもつフォルダを指定するか、または、対象フォルダに書き込み許可を与えてから、再度処理してください。

41030:指定されたテストケース格納用のフォルダには書き込み権限がありません。別フォルダを指定するか、フォルダに書き込み権限を与えて下さい。

〔メッセージの意味〕

環境設定の「テストケースファイルを保存するフォルダ」に指定したフォルダが書き込み権限をもたないフォルダです。

〔利用者の処置〕

書き込み権限をもつフォルダを指定するか、または、対象フォルダに書き込み許可を与えてから、再度処理してください。

41031:指定された作業ファイル格納用のフォルダには書き込み権限がありません。別フォルダを指定するか、フォルダに書き込み権限を与えて下さい。

〔メッセージの意味〕

環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」に指定したフォルダが書き込み権限をもたないフォルダです。

〔利用者の処置〕

書き込み権限をもつフォルダを指定するか、または、対象フォルダに書き込み許可を与えてから、再度処理してください。

41032:データファイル名(フォルダ名含む)の長さが制限を超えました。ファイル名を再設定してください。

〔メッセージの意味〕

指定したデータファイル名の長さ(フォルダパス名+ファイル名)がTF-LINDAで扱える長さを超えました。

〔利用者の処置〕

フォルダ名または、ファイル名を短くして下さい。

41033:ADJUSTがインストールされていないか、インストール情報に誤りがあります。

〔メッセージの意味〕

ADJUSTのインストールが正しく行われていません。

〔利用者の処置〕

ADJUSTのインストールを再度、行ってから、TF-LINDAを使用するか、または、環境設定の「ADJUSTを使用する」のチェックを外して下さい。

41034:テストケースファイルの存在チェックに失敗しました。

〔メッセージの意味〕

テストケースファイルの存在チェック処理時、予想していないエラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

41036:テストケースファイルの項目参照に失敗しました。

〔メッセージの意味〕

テストケースファイルからフォーマットの項目情報を取得する処理でエラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

テストケースファイル(環境設定の「テストケースファイルを保存するフォルダ」で指定したフォルダの中の「データファイル名+ “.LNC ”」)を削除して下さい。

41037:データファイル情報の取得に失敗しました。

[メッセージの意味]

データファイル情報の取得に失敗しました。

[利用者の処置]

指定したデータファイルが索引編成ファイルかどうか確認して下さい。

41038:レコードキー情報の領域の取得に失敗しました。

[メッセージの意味]

レコードキー情報のための領域の確保に失敗しました。

[利用者の処置]

他のアプリケーションが起動している場合、それらを終了し、再度同じ処理を行って下さい。それでも同じ現象が発生する場合、Windows ( R ) /WindowsNT ( R ) 再起動後、再度同じ処理を行って下さい。

41039:索引編成ファイルのレコードキー情報の取得に失敗しました。

[メッセージの意味]

レコードキー情報の取得に失敗しました。

[利用者の処置]

指定したデータファイルが索引編成ファイルかどうか確認して下さい。

41040:テストケースファイルの項目設定に失敗しました。

[メッセージの意味]

テストケースファイルへフォーマットの項目情報を設定する処理でエラーが発生しました。

[利用者の処置]

Windows ( R ) /WindowsNT ( R ) 再起動後、再度同じ処理を行って下さい。

41041:アナライズテーブルの作成に失敗しました。

[メッセージの意味]

フォーマットの項目情報を作成する処理でエラーが発生しました。

[利用者の処置]

Windows ( R ) /WindowsNT ( R ) 再起動後、再度同じ処理を行って下さい。

41042:データファイルの抽出に失敗しました。

[メッセージの意味]

データファイルの読み込みに失敗しました。

[利用者の処置]

テストケース設定ダイアログで設定したデータファイル情報が正しいか確認して下さい。

または、抽出条件に存在しないレコード番号を指定していないか確認して下さい。

41046:抽出レコード数が制限(10万件)を超えました。制限(10万件)まで抽出します。

[メッセージの意味]

TF-LINDAで編集できるレコード数の上限は、10万件ですが、指定したデータファイルのレコード数は、それ以上存在しています。10万件のみ編集の対象とします。

[利用者の処置]

10万件以降のレコードを編集したい場合は、テストケース選択ダイアログボックスの抽出条件で編集レコードを絞り込むか、追加モードで編集して下さい。

41047:重複許可のレコードキーをもつ索引編成ファイルの抽出レコード数が制限(10万件)を超えました。このファイルはLINDAでは扱えません。

[メッセージの意味]

レコードキーに重複許可が設定されていて、かつ、レコード数が10万件以上存在する場合、このデータファイルは扱えません。

[利用者の処置]

特になし。

41048:索引キーが指定された01レベルのレコード長の範囲内にありません。索引キーに値が設定できないので、レコードの追加/複写は行えません。処理を続けてもいいですか？

[メッセージの意味]

同上。

[利用者の処置]

レコードの追加/複写を行いたい場合は、キー部に相当する項目をもつフォーマットを指定してください。



41049:バックアップファイルを作成するフォルダが設定されていません。環境設定でバックアップファイルを作成するフォルダを設定してください。

〔メッセージの意味〕

環境設定の「バックアップファイルを作成するフォルダ」の設定が行われていません。

〔利用者の処置〕

環境設定の「バックアップファイルを作成するフォルダ」にフォルダを指定した後、再度、処理を行って下さい。

41050:指定されたバックアップファイルを作成するフォルダには書き込み権限がありません。別フォルダを指定するか、フォルダに書き込み権限を与えて下さい。

〔メッセージの意味〕

環境設定の「バックアップファイルを作成するフォルダ」に指定したフォルダが書き込み権限をもたないフォルダです。

〔利用者の処置〕

書き込み権限をもつフォルダを指定するか、または、対象フォルダに書き込み許可を与えてから、再度処理してください。

41051:バックアップファイルのフルパスが制限を超えました。ファイル名かパスを短くしてください。

〔メッセージの意味〕

バックアップファイルを作成するフォルダの長さがTF-LINDAで扱える長さを超えました。

〔利用者の処置〕

環境設定の「バックアップファイルを作成するフォルダ」で短いフォルダ名を指定してから、再度処理して下さい。

41061:指定されたデータファイルのフォルダは存在しないか、アクセス権限が設定されていません。指定されたフォルダが存在する場合は、システム管理者に通知してアクセス権限を取得してください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

メッセージのとおり、対処してください。

41062:指定されたデータファイルには、アクセス権限が設定されていません。指定されたデータファイルを使用する場合は、システム管理者に通知してアクセス権限を取得してください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

メッセージのとおり、対処してください。

41063:指定されたテストケース格納フォルダには、アクセス権限が設定されていません。指定されたフォルダを使用する場合は、システム管理者に通知してアクセス権限を取得してください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

メッセージのとおり、対処してください。

41064:指定された作業ファイル作成フォルダには、アクセス権限が設定されていません。指定されたフォルダを使用する場合は、システム管理者に通知してアクセス権限を取得してください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

メッセージのとおり、対処してください。

41065:指定されたバックアップファイル作成フォルダには、アクセス権限が設定されていません。指定されたフォルダを使用する場合は、システム管理者に通知してアクセス権限を取得してください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

メッセージのとおり、対処してください。

41066:テストケースファイルには、アクセス権限が設定されていません。システム管理者に通知してテストケース格納フォルダ下のファイルのアクセス権限を取得してください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

メッセージのとおり、対処してください。

41067:バックアップファイルには、アクセス権限が設定されていません。システム管理者に通知してバックアップファイルの作成フォルダ下のファイルのアクセス権限を取得してください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

メッセージのとおり、対処してください。

41068:バックアップファイルが読み込み専用のファイルです。バックアップファイルに書き込み権限を与えてください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

メッセージのとおり、対処してください。

41071:フォーマットファイルの解析情報に矛盾があります。TF-LINDAを再起動してフォーマットファイルを再解析してください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

メッセージのとおり、対処してください。

41072:コード体系がUnicodeに指定された行順編成ファイルのフォーマット情報に、日本語項目とその他の項目が混在しています。コード体系がUnicodeの行順編成ファイルでは、日本語項目とその他の項目が混在するフォーマットは指定できません。テストケース設定よりフォーマット情報を指定し直してください。

〔メッセージの意味〕

コード体系がUnicode、ファイル編成が行順編成を操作する場合、フォーマットが日本語項目だけ、または日本語項目以外の属性で構成されている必要があります。

〔利用者の処置〕

日本語項目だけ、または日本語項目以外の属性で構成されているファイルをフォーマットとして指定してください。

41073:フォーマット情報に日本語項目以外の属性の項目が存在します。行順編成ファイルのコード種別にUCS2が指定されているので、日本語項目以外の属性の項目を含むフォーマット情報は指定できません。テストケース設定よりフォーマット情報を指定し直してください。

〔メッセージの意味〕

コード体系がUnicode(UCS2)、ファイル編成が行順編成を操作する場合、フォーマットが日本語項目だけで構成されている必要があります。

〔利用者の処置〕

日本語項目だけで構成されているファイルをフォーマットとして指定してください。

41074:フォーマット情報に日本語項目が存在します。行順編成ファイルのコード種別にUTF8が指定されているので、日本語項目を含むフォーマット情報は指定できません。テストケース設定よりフォーマット情報を指定し直してください。

〔メッセージの意味〕

コード体系がUnicode(UTF8)、ファイル編成が行順編成を操作する場合、フォーマットが日本語項目以外の属性で構成されている必要があります。

〔利用者の処置〕

日本語項目以外の属性で構成されているファイルをフォーマットとして指定してください。

41075:設定されたキーの相対位置と長さが、項目と一致していません。テストケース設定より、キー情報を設定し直してください。

〔メッセージの意味〕

設定されたキーの相対位置・長さの情報とフォーマットのデータ項目の相対位置・長さの情報が一致しません。

〔利用者の処置〕

フォーマットのデータ項目の相対位置・長さに合わせてキー情報を設定してください。

42002:アナライズオプションファイルの作成に失敗しました。作業フォルダを確認してください。  
[メッセージの意味]  
作業ファイルの作成に失敗しました。  
[利用者の処置]  
ディスクの空き容量を増やしてから、再度処理して下さい。

42003:フォーマットファイルが指定されていません。フォーマットファイルを指定してください。  
[メッセージの意味] [メッセージの意味] [メッセージの意味]  
使用するフォーマットファイルの設定が行われていません。  
[利用者の処置]  
使用するフォーマットファイルを設定して下さい。

42004:データファイル情報のファイル編成が指定されていません。ファイル編成を指定してください。  
[メッセージの意味]  
データファイルのファイル編成情報が指定されていません。  
[利用者の処置]  
データファイルのファイル編成を指定して下さい。

42005:データファイル情報のレコード形式が指定されていません。レコード形式を指定してください。  
[メッセージの意味]  
データファイルのレコード形式情報が指定されていません。  
[利用者の処置]  
データファイルのレコード形式を指定して下さい。

42006:データファイル情報のレコード長が入力されていません。レコード長を入力してください。  
[メッセージの意味]  
データファイルのレコード長（最大レコード長）情報が指定されていません。  
[利用者の処置]  
データファイルのレコード長を指定して下さい。

42007:データファイル情報のレコードキー情報が設定されていません。レコードキー情報を設定してください。  
[メッセージの意味]  
レコードキー情報の設定が行われていません。  
[利用者の処置]  
レコードキー情報を設定して下さい。

42008:レコードキー情報領域の開放に失敗しました。  
[メッセージの意味]  
TF-LINDAの動作で必要とするメモリ領域が開放できませんでした。  
[利用者の処置]  
他のアプリケーションが起動している場合、それらを終了し、再度同じ処理を行って下さい。それでも同じ現象が発生する場合、Windows (R) /WindowsNT (R) 再起動後、再度同じ処理を行って下さい。

42009:指定されたデータファイルは、索引編成ファイルではありません。ファイル編成を設定し直してください。  
[メッセージの意味]  
指定されたデータファイルは、索引編成ファイルではありません。  
[利用者の処置]  
指定したデータファイルを確認して下さい。

42011:データファイル情報のレコード長に範囲外の数値が入力されています。1-32760の範囲で入力してください。  
[メッセージの意味]  
データファイルのレコード長に範囲外の数値が入力されました。  
[利用者の処置]  
1～32760の範囲内で入力して下さい。

42012:データファイル情報の取得に失敗しました。  
[メッセージの意味]

レコードキー情報の取得に失敗しました。

〔 利用者の処置 〕

指定したデータファイルが索引編成ファイルかどうか確認して下さい。

42013:索引編成ファイルのレコードキー情報の取得に失敗しました。

〔 メッセージの意味 〕

レコードキー情報の取得に失敗しました。

〔 利用者の処置 〕

指定したデータファイルが索引編成ファイルかどうか確認して下さい。

42014:テストケースファイルの項目設定に失敗しました。

〔 メッセージの意味 〕

テストケースファイルへフォーマットの項目情報を設定する処理でエラーが発生しました。

〔 利用者の処置 〕

Windows ( R ) /WindowsNT ( R ) 再起動後、再度同じ処理を行って下さい。

42015:フォーマットファイル\*\*\*\*\*を解析しますか？

〔 メッセージの意味 〕

フォーマットファイル\*\*\*\*\*を解析しますか？

〔 利用者の処置 〕

特になし。

42016:フォーマットファイル\*\*\*\*\*の解析に失敗しました。

〔 メッセージの意味 〕

フォーマットファイル\*\*\*\*\*の解析に失敗しました。

〔 利用者の処置 〕

フォーマットファイルの文法エラーを修正して下さい。

42018:フォーマットファイルのEUCからシフトJISへの変換でエラーが発生しました。フォーマットファイルを再指定してください。発生個所：

〔 メッセージの意味 〕

フォーマットファイルをコード変換する処理で変換エラーが発生しました。

〔 利用者の処置 〕

フォーマットファイルの文字コードを確認して下さい。

42021:レコードキーとして指定された範囲が、1レコードに収まりません。キーを指定しなおしてください。

〔 メッセージの意味 〕

レコードキーの情報がレコードの範囲外に設定されています。

〔 利用者の処置 〕

「開始位置 + キー長 <= レコード長」になるように設定して下さい。

42022:フォーマットファイル解析結果のエラー情報をファイルに保存できませんでした。

〔 メッセージの意味 〕

フォーマットファイル解析により発生したエラー情報をファイルに書き込む際に、エラーが発生しました。

〔 利用者の処置 〕

環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で指定したフォルダ配下に

「Analyze.err」ファイルが存在する場合、そのファイルのアクセス権限を確認して下さい。

42023:フォーマットファイル解析結果のエラー情報をファイルに保存できませんでした。エラー情報ファイルを表示しているアプリケーションを終了してください。

〔 メッセージの意味 〕

フォーマットファイル解析により発生したエラー情報をファイルに書き込む際に、エラーが発生しました。

〔 利用者の処置 〕

環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で指定したフォルダ配下に

「Analyze.err」ファイルが存在する場合、そのファイルを開いているアプリケーションを終了して下さい。

42024:データファイル情報の最小レコード長に範囲外の数値が入力されています。最小レコード長を入力

してください。

〔メッセージの意味〕

最小レコード長としてふさわしくない値が入力されました。

〔利用者の処置〕

最小レコード長には、 1 以上32760以下の値で設定してください。

42025:データファイル情報のレコード長に最小レコード長以下の値が設定されています。レコード長には最小レコード長よりも大きな値を設定してください。

〔メッセージの意味〕

レコード長に入力された値が最小レコード長の値より小さいか、等しい。

〔利用者の処置〕

レコード長には、最小レコード長より大きな値を設定してください。

42026:データファイル情報の最小レコード長が入力されていません。最小レコード長を入力してください。

〔メッセージの意味〕

データファイルの最小レコード長が指定されていません。

〔利用者の処置〕

データファイルの最小レコード長を指定して下さい。

42027:レコードキーとして指定された範囲が、最小レコード長に収まりません。レコードキーを指定しないおしてください。

〔メッセージの意味〕

レコードキー情報の最終相対位置が最小レコード長を超えています。

〔利用者の処置〕

レコードキー情報の最終相対位置が最小レコード長以下になるように調整してください。

42028:YPS/COBOL製品のライブラリの取り込みに失敗しました。

〔メッセージの意味〕

YPSインクルード仕様書を解析するための、YPS/COBOLライブラリのロードに失敗しました。

〔利用者の処置〕

YPS/COBOLのインストール情報が正しくありません。再インストール後、処理してください。

42029:YPSインクルードのコンパイルでエラーが発生しました。エラーコードは\*\*\*\*\*です。解析を中断します。

〔メッセージの意味〕

YPSインクルード仕様書の解析でエラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

YPSインクルード仕様書の記述に誤りがないか、または翻訳オプションの指定に誤りがないか確認してください。

42030:YPS/COBOL製品のオプションファイルが見つかりませんでした。解析を中断します。

〔メッセージの意味〕

YPSインクルード仕様書を解析するための、コンパイルオプションファイルが見つかりませんでした。

〔利用者の処置〕

YPS/COBOLコンパイラで環境設定を行ってください。

42031:YPS/COBOLのコンパイラオプションファイルの作成に失敗しました。解析を中断します。

〔メッセージの意味〕

YPSインクルード仕様書を解析するための、コンパイルオプションファイルの作成に失敗しました。

〔利用者の処置〕

環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で指定したフォルダの空き容量が不足していないか確認してください。

42201:データの抽出中です

〔メッセージの意味〕

データファイルを読み込み中です。

〔利用者の処置〕

特になし。

42202:データの更新中です

[メッセージの意味]

データファイルを更新中です。

[利用者の処置]

特になし。

42203:解析中です

[メッセージの意味]

フォーマットファイルを解析中です。

[利用者の処置]

特になし。



43001:主キーが設定されていません。主キーを設定してください。

〔メッセージの意味〕

主キー情報が設定されていません。

〔利用者の処置〕

主キー情報は必ず設定して下さい。

43002:相対位置が入力されていません。相対位置を入力してください。

〔メッセージの意味〕

キーの開始位置が入力されていません。

〔利用者の処置〕

「キーの開始位置、キーの長さ」の形式で入力して下さい。

43003:キー長が入力されていません。キー長を入力してください。

〔メッセージの意味〕

キーの長さが入力されていません。

〔利用者の処置〕

「キーの開始位置、キーの長さ」の形式で入力して下さい。

43004:相対位置として無効な文字が入力されました。相対位置を数値で入力してください。

〔メッセージの意味〕

キーの開始位置の指定に無効な文字が入力されました。

〔利用者の処置〕

「キーの開始位置、キーの長さ」の形式で入力して下さい。

43005:キー長として無効な文字が入力されました。数値で入力してください。

〔メッセージの意味〕

キーの長さの指定に無効な文字が入力されました。

〔利用者の処置〕

「キーの開始位置、キーの長さ」の形式で入力して下さい。

43006:レコードキー情報領域の取得に失敗しました。

〔メッセージの意味〕

レコードキー情報の取得に失敗しました。

〔利用者の処置〕

指定したデータファイルが索引編成ファイルかどうか確認して下さい。

43007:レコードキー情報領域の開放に失敗しました。

〔メッセージの意味〕

レコードキー情報の開放に失敗しました。

〔利用者の処置〕

Windows ( R ) /WindowsNT ( R ) を再起動して、再度同じ処理を行って下さい。

43008:相対位置として'0'は指定できません。

〔メッセージの意味〕

キーの相対位置に「 0 」 ( ゼロ ) は指定できません。

〔利用者の処置〕

1～データファイルのレコード長の範囲で指定して下さい。

43009:相対位置に範囲外の数値が入力されています。(1-\*\*\*\*)の範囲の数値を入力してください。

〔メッセージの意味〕

キーの相対位置に指定範囲外の値が設定されています。

〔利用者の処置〕

1～データファイルのレコード長の範囲内で指定して下さい。

43010:キー長に範囲外の数値が入力されています。(1-254)の範囲の数値を入力してください。

〔メッセージの意味〕

キーの長さに指定範囲外の値が設定されています。

〔利用者の処置〕

1-254の範囲内で指定して下さい。

43011:主キーの長さが、254バイトを超えました。254バイト以下で設定してください。

〔メッセージの意味〕

主キーの長さの総和が254バイトを超えました。

〔利用者の処置〕

主キーの長さの総和が254バイト以下になるように設定して下さい。

43012:キーとして指定された範囲が、1レコードに収まりません。

〔メッセージの意味〕

レコードキーの情報がレコードの範囲外に設定されています。

〔利用者の処置〕

「開始位置 + キー長 <= レコード長」になるように設定して下さい。

43013:副キー1の長さが、254バイトを超えました。254バイト以下で設定してください。

〔メッセージの意味〕

副キー1の長さの総和が254バイトを超えました。

〔利用者の処置〕

副キー1の長さの総和が254バイト以下になるように設定して下さい。

43014:副キー2の長さが、254バイトを超えました。254バイト以下で設定してください。

〔メッセージの意味〕

副キー2の長さの総和が254バイトを超えました。

〔利用者の処置〕

副キー2の長さの総和が254バイト以下になるように設定して下さい。

43015:副キー3の長さが、254バイトを超えました。254バイト以下で設定してください。

〔メッセージの意味〕

副キー3の長さの総和が254バイトを超えました。

〔利用者の処置〕

副キー3の長さの総和が254バイト以下になるように設定して下さい。

43016:副キー4の長さが、254バイトを超えました。254バイト以下で設定してください。

〔メッセージの意味〕

副キー4の長さの総和が254バイトを超えました。

〔利用者の処置〕

副キー4の長さの総和が254バイト以下になるように設定して下さい。

43017:キーとして無効な文字列が設定されました。

〔メッセージの意味〕

キー情報として指定できない文字が入力されました。

〔利用者の処置〕

数字、カンマ(,)、スラッシュ(/)のみで入力して下さい。

43018:相対位置かキー長が設定されていません。

〔メッセージの意味〕

キーの相対位置または、キーの長さが設定されていません。

〔利用者の処置〕

「キーの開始位置、キーの長さ」の形式で入力して下さい。

43019:複数の相対位置がキー情報に設定されています

〔メッセージの意味〕

キーの相対位置が複数設定されています。

〔利用者の処置〕

「キーの開始位置、キーの長さ」の形式で入力して下さい。

43020:数値と区切り文字以外の文字が設定されています。

〔メッセージの意味〕

キー情報として指定できない文字が入力されました。

〔利用者の処置〕

数字、カンマ(,)、スラッシュ(/)のみで入力して下さい。

43021:設定されていないキーに対して重複許可が設定されました。キー情報を設定するか、重複を許可し



ないに設定してください。

〔メッセージの意味〕

キー情報を設定していないレコードキーに対して「重複」を指定しました。

〔利用者の処置〕

キー情報を設定するか、または、重複のチェックを外して下さい。

43022:キーとして指定された範囲が、最小レコード長に収まりません。最小レコード長をキーの範囲にあわせて変更します。

〔メッセージの意味〕

キーとして設定した情報の最終相対位置が最小レコード長を超えています。最小レコード長にキーの最終相対位置を設定します。

〔利用者の処置〕

特になし。

44002:集団項目とそれに従属する基本項目が同時に指定されたため、基本項目の指定を無効にしました。  
[メッセージの意味]  
集団項目とその集団項目に含まれる基本項目が同時に指定されたため、集団項目のみ指定されたものとして処理します。  
[利用者の処置]  
特になし。

44003:再定義項目と関係する被定義項目が同時に指定されたため、再定義項目の指定を無効にしました。  
[メッセージの意味]  
再定義項目と対象の被再定義項目が同時に指定されたため、被再定義項目のみ指定されたものとして処理します。  
[利用者の処置]  
特になし。

44004:アイテムセレクトの設定でエラーが発生しました。  
[メッセージの意味]  
アイテムセレクトの処理で何らかのエラーが発生しました。  
[利用者の処置]  
Windows ( R ) /WindowsNT ( R ) を再起動して、再度同じ処理を行って下さい。

44005:同じ被再定義項目を示す再定義項目が同時に指定されたため、後の再定義項目の指定を無効にしました。  
[メッセージの意味]  
同じ被再定義項目に対する複数の再定義項目が同時に指定されたため、最初に定義されている再定義項目のみ指定されたものとして処理します。  
[利用者の処置]  
特になし。

44006:上位レベルの再定義項目と関係する被再定義項目の下位レベル項目が同時に指定されたため、再定義項目の下位レベル項目を無効にしました。  
[メッセージの意味]  
再定義項目の下位レベル項目と対象の被再定義項目の下位レベル項目が同時に指定されたため、被再定義項目の下位レベル項目のみ指定されたものとして処理します。  
[利用者の処置]  
特になし。

44007:再定義項目と関係する被再定義項目の下位レベル項目が同時に指定されたため、再定義項目を無効にしました。  
[メッセージの意味]  
再定義項目と対象の被再定義項目の下位レベル項目が同時に指定されたため、被再定義項目の下位レベル項目のみ指定されたものとして処理します。  
[利用者の処置]  
特になし。

44008:上位レベルの再定義項目に対する被再定義項目が指定されているため、下位レベル項目を無効にしました。  
[メッセージの意味]  
再定義項目の下位レベル項目と対象の被再定義項目が同時に指定されたため、被再定義項目のみ指定されたものとして処理します。  
[利用者の処置]  
特になし。

44009:上位レベルの再定義項目と同じ被再定義項目を示す再定義項目の下位レベル項目が同時に指定されたため、後の項目指定を無効にしました。  
[メッセージの意味]  
同じ被再定義項目に対する複数の再定義項目の下位レベル項目が同時に指定されたため、最初に定義されている再定義項目のみ指定されたものとして処理します。  
[利用者の処置]  
特になし。

44010:上位レベルの再定義項目と同じ被再定義項目を示す再定義項目が同時に指定されたため、後の項目指定を無効にしました。

〔メッセージの意味〕

同じ被再定義項目に対する再定義項目と別の再定義項目の下位レベル項目が同時に指定されたため、最初に定義されている再定義項目のみ指定されたものとして処理します。

〔利用者の処置〕

特になし。

44011:同時に選択できない項目が選択されました。項目を選択しなおしてください。

〔メッセージの意味〕

同時に選択できない項目を選択しました。

〔利用者の処置〕

選択をやりなおしてください。基本的に集団項目とそれに従属する基本項目は、同時に選択できません。

また、被再定義項目と関係する再定義項目は、同時に選択できません。

44012:同データファイルのコードにUnicodeが指定されているので、集団項目・再定義項目の項目は指定できません。項目を選択しなおしてください。

〔メッセージの意味〕

データファイルのコードがUnicodeであるため、集団項目・再定義項目は、指定できません。

〔利用者の処置〕

基本項目のみ指定してください。

45001:テストケースファイル格納フォルダに指定された文字列は、フォルダではありません。フォルダを指定してください。

〔メッセージの意味〕

「テストケースファイルを保存するフォルダ」で指定したフォルダに誤りがあります。

〔利用者の処置〕

設定したフォルダが存在するか確認して下さい。また、TF-LINDAでは、ドライブのルートを指定することはできません。

45002:テストケースファイル格納フォルダに指定されたフォルダは存在しません。

〔メッセージの意味〕

「テストケースファイルを保存するフォルダ」で指定したフォルダに誤りがあります。

〔利用者の処置〕

設定したフォルダが存在するか確認して下さい。また、TF-LINDAでは、ドライブのルートを指定することはできません。

45003:作業用ファイルを作成するフォルダに指定された文字列は、フォルダではありません。フォルダを指定してください。

〔メッセージの意味〕

「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で指定したフォルダに誤りがあります。

〔利用者の処置〕

設定したフォルダが存在するか確認して下さい。また、TF-LINDAでは、ドライブのルートを指定することはできません。

45004:作業用ファイルを作成するフォルダに指定されたフォルダは存在しません。

〔メッセージの意味〕

「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で指定したフォルダに誤りがあります。

〔利用者の処置〕

設定したフォルダが存在するか確認して下さい。また、TF-LINDAでは、ドライブのルートを指定することはできません。

45005:テストケースファイル格納フォルダに指定したフォルダには書き込み権限がありません。別フォルダを指定するか、フォルダに書き込み権限を与えてください。

〔メッセージの意味〕

「テストケースファイルを保存するフォルダ」に指定したフォルダが書き込み権限をもたないフォルダです。

〔利用者の処置〕

書き込み権限をもつフォルダを指定するか、または、対象フォルダに書き込み許可を与えてから、再度処理してください。

45006:作業用ファイルを作成するフォルダに指定したフォルダには書き込み権限がありません。別フォルダを指定するか、フォルダに書き込み権限を与えてください。

〔メッセージの意味〕

「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」に指定したフォルダが書き込み権限をもたないフォルダです。

〔利用者の処置〕

書き込み権限をもつフォルダを指定するか、または、対象フォルダに書き込み許可を与えてから、再度処理してください。

45008:シフトJISのiconv変換のキーワードが設定されていません。キーワードを設定してください。

〔メッセージの意味〕

シフトJISのiconv変換キーワードが設定されていません。

〔利用者の処置〕

シフトJISのiconv変換キーワードを設定して下さい。

45009:EUCのiconv変換のキーワードが設定されていません。キーワードを設定してください。

〔メッセージの意味〕

EUCのiconv変換キーワードが設定されていません。

〔利用者の処置〕

EUCのiconv変換キーワードを設定して下さい。

45010:JEFのiconv変換のキーワードが設定されていません。キーワードを設定してください。

〔メッセージの意味〕

JEFのiconv変換キーワードが設定されていません。

〔利用者の処置〕

JEFのiconv変換キーワードを設定して下さい。

45011:指定されたエディタは実行形式ではありません。再度エディタを指定しなおしてください。

〔メッセージの意味〕

エディタに指定されたファイルは、実行形式ではありません。

〔利用者の処置〕

エディタを設定して下さい。

45012:バックアップファイルを作成するフォルダに指定された文字列は、フォルダではありません。フォルダを指定してください。

〔メッセージの意味〕

「バックアップファイルを作成するフォルダ」で指定したフォルダに誤りがあります。

〔利用者の処置〕

設定したフォルダが存在するか確認して下さい。また、TF-LINDAでは、ドライブのルートを指定することは、できません。

45013:バックアップファイルを作成するフォルダに指定したフォルダには書き込み権限がありません。別フォルダを指定するか、フォルダに書き込み権限を与えてください。

〔メッセージの意味〕

「バックアップファイルを作成するフォルダ」に指定したフォルダが書き込み権限をもたないフォルダです。

〔利用者の処置〕

書き込み権限をもつフォルダを指定するか、または、対象フォルダに書き込み許可を与えてから、再度処理してください。

45014:バックアップファイルを作成するフォルダに指定されたフォルダは存在しません。

〔メッセージの意味〕

「バックアップファイルを作成するフォルダ」で指定したフォルダに誤りがあります。

〔利用者の処置〕

設定したフォルダが存在するか確認して下さい。また、TF-LINDAでは、ドライブのルートを指定することはできません。

45015:バックアップファイルを作成するフォルダに指定された文字列は、相対パスです。絶対パスで指定してください。

〔メッセージの意味〕

「バックアップファイルを作成するフォルダ」が相対パスの形式で指定されています。

〔利用者の処置〕

絶対パスの形式で指定してください。

45016:テストケースファイル格納フォルダに指定された文字列は、相対パスです。絶対パスで指定してください。

〔メッセージの意味〕

「テストケースファイルを保存するフォルダ」が相対パスの形式で指定されています。

〔利用者の処置〕

絶対パスの形式で指定してください。

45017:作業用ファイルを作成するフォルダに指定された文字列は、相対パスです。絶対パスで指定してください。

〔メッセージの意味〕

「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」が相対パスの形式で指定されています。

〔利用者の処置〕

絶対パスの形式で指定してください。

45018:項目名の表示幅で指定された値が、有効な数値ではありません。0もしくは14～60の範囲で設定してください。

〔メッセージの意味〕

「レコード形式画面：項目名の表示幅」に指定された値が、有効ではありません。

[ 利用者の処置 ]

0(最大表示60)、または、14～60の範囲内で指定してください。

45019:テストケースファイル格納フォルダには、アクセス権限が設定されていません。指定されたフォルダを使用する場合は、システム管理者に通知してアクセス権限を取得してください。

[ メッセージの意味 ]

同上。

[ 利用者の処置 ]

メッセージのとおり、対処してください。

45020:作業ファイルを作成するフォルダには、アクセス権限が設定されていません。指定されたフォルダを使用する場合は、システム管理者に通知してアクセス権限を取得してください。

[ メッセージの意味 ]

同上。

[ 利用者の処置 ]

メッセージのとおり、対処してください。

45021:バックアップファイルを作成するフォルダには、アクセス権限が設定されていません。指定されたフォルダを使用する場合は、システム管理者に通知してアクセス権限を取得してください。

[ メッセージの意味 ]

同上。

[ 利用者の処置 ]

メッセージのとおり、対処してください。

45022:COPY文への付加文字列が指定されていません。付加文字列を指定しない場合はチェックを外してください。

[ メッセージの意味 ]

同上。

[ 利用者の処置 ]

メッセージのとおり、対処してください。

46001:16進数以外の文字が入力されました。'0-9'、'A-F'の文字を入力してください。

〔メッセージの意味〕

16進数以外の文字が入力されました。

〔利用者の処置〕

「0～9、A～F」の文字で入力して下さい。

46002:入力されたデータが不足しています。\*\*\*\*文字まで入力してください。

〔メッセージの意味〕

入力したデータの長さが足りません。

〔利用者の処置〕

データ項目が必要とする桁数×2バイトの入力を行って下さい。

46003:16進文字の変換エラーが発生しました。不当な16進文字が入力されています。

〔メッセージの意味〕

不当な16進数が入力されました。

〔利用者の処置〕

「0～9、A～F」の文字で入力して下さい。

47001:終了レコード番号が開始レコード番号より小さい。

〔メッセージの意味〕

終了レコード番号に、開始レコード番号の値より小さな値が設定されています。

〔利用者の処置〕

基本的には、開始レコード番号より、大きな値を設定する。ただし、「0」（ゼロ：最終レコードを示す）の設定は可能です。

49001:TF-MDPORTがインストールされていないか、インストール情報に誤りがあります。

〔メッセージの意味〕

TF-MDPORTのインストールが正しく行われていません。

〔利用者の処置〕

TF-MDPORTのインストールを再度、行ってから、TF-LINDAを使用して下さい。

49002:TF-MDPORTの起動に失敗しました。TF-MDPORTを確認して処理を行ってください。

〔メッセージの意味〕

TF-MDPORTのインストールが正しく行われていません。

〔利用者の処置〕

TF-MDPORTのインストールを再度、行ってから、TF-LINDAを使用して下さい。

49003:レイアウト定義ファイルの作成に失敗しました。

〔メッセージの意味〕

作業ファイルの作成に失敗しました。

〔利用者の処置〕

環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で指定したフォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

49004:実行指示ファイルの作成に失敗しました。

〔メッセージの意味〕

作業ファイルの作成に失敗しました。

〔利用者の処置〕

環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で指定したフォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

49005:ローカルファイル作成のためのデータファイル保存に失敗しました。

〔メッセージの意味〕

作業ファイルの作成に失敗しました。

〔利用者の処置〕

環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で指定したフォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

49006:ローカルファイルの作成に失敗しました。

〔メッセージの意味〕



作業ファイルの作成に失敗しました。

〔 利用者の処置 〕

環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で指定したフォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

49007:対象のデータ項目数が制限を超えているため扱えません。

〔 メッセージの意味 〕

データ項目数が制限を超える場合、MDPORT連携できません。

〔 利用者の処置 〕

アイテムセレクト機能により、項目数を制限以下に絞り込んで下さい。制限数はMDPORTの制限を参照してください。

49008:TF-MDPORTがインストールされていません。

〔 メッセージの意味 〕

TF-MDPORTがインストールされていません。

〔 利用者の処置 〕

MDPORT連携機能を使用する場合、TF-MDPORTをインストールして下さい。

49009:MDPORTは既に起動しています。

〔 メッセージの意味 〕

MDPORTの複数起動はできません。

〔 利用者の処置 〕

特になし。

49011:インポートに失敗しました。

〔 メッセージの意味 〕

指定したデータファイルのインポートに失敗しました。

〔 利用者の処置 〕

指定したファイルがCSV形式か確認して下さい。

49012:インポートでデータの変換エラーがありました。エラーファイルを参照しますか？

〔 メッセージの意味 〕

インポート処理で変換エラーがありました。発生した変換エラー情報を参照しますか。

〔 利用者の処置 〕

入力に使用したデータと項目属性を見比べてみて下さい。

49013:インポートでデータの変換エラーがありましたが、エラーファイルを出力できませんでした。

〔 メッセージの意味 〕

インポート処理で変換エラーが発生したため、エラー情報をファイルに出力しようとしたが、何らかの原因により、出力できませんでした。

〔 利用者の処置 〕

エラーファイルを他のアプリケーションで扱っているものと思われます。他のアプリケーションを終了して下さい。



50001:開始レコード番号に終了レコード番号よりも大きな値が設定されています。

〔メッセージの意味〕

開始レコード番号に終了レコード番号よりも大きな値が設定されています。

〔利用者の処置〕

「開始レコード番号 ≤ 終了レコード番号」となるように設定してください。ただし、終了レコード番号に0(ゼロ)を指定することは可能です。

50002:開始レコード番号に存在するレコード件数よりも大きな値が設定されています。開始レコード番号を設定し直してください。

〔メッセージの意味〕

開始レコード番号に存在するレコード件数より大きな値が設定されています。

〔利用者の処置〕

1以上存在するレコード件数以下の範囲内で指定してください。

50003:印刷処理ではプロポーショナルフォントをサポートしていません。

〔メッセージの意味〕

印刷処理におけるフォントの指定にプロポーショナルフォント（可変長ピッチのフォント）は指定できません。

〔利用者の処置〕

固定長ピッチのフォントを指定してください。

50004:ヘッダの指定文字列が設定されていません。文字列を設定するか、指定文字列チェックボックスのチェックをはずしてください。

〔メッセージの意味〕

ヘッダの指定文字列において、チェックボックスでは印刷する設定となっているのに、実際印刷する文字列の指定がありません。

〔利用者の処置〕

印刷しないのであれば、チェックをはずしてください。印刷するのであれば、文字列を指定してください。

50005:指定されたレコードの範囲には削除レコードしかありません。

〔メッセージの意味〕

「印刷レコード範囲」により設定した範囲内には、削除レコードしか存在しません。

〔利用者の処置〕

削除レコードだけでも印刷したいのであれば、印刷ページ設定の「削除レコードを印刷する」をチェックしてください。

50101:データを印刷する領域を確保できませんでした。印刷の処理を終了します。

〔メッセージの意味〕

印刷処理に必要な領域の確保ができませんでした。印刷処理をキャンセルします。

〔利用者の処置〕

メモリ不足または、システムの作業領域（ディスク容量）不足が考えられます。

50102:データ印刷における前処理でエラーが発生しました。印刷の処理を終了します。

〔メッセージの意味〕

印刷処理に必要な領域の確保ができませんでした。印刷処理をキャンセルします。

〔利用者の処置〕

メモリ不足または、システムの作業領域（ディスク容量）不足が考えられます。

50103:削除レコードの印刷が指定されていないのに、指定されたレコードの範囲には削除レコードしかありません。印刷ページ設定より、削除レコードの印刷を指定してください。

〔メッセージの意味〕

「印刷レコード範囲」により設定した範囲内には、削除レコードしか存在しません。

〔利用者の処置〕

削除レコードだけでも印刷したいのであれば、印刷ページ設定の「削除レコードを印刷する」をチェックしてください。

50104:指定された項目が印刷の処理で扱える項目数の制限(1500個)を超えています。アイテムセレクトで項目数を減らして処理を行ってください。

〔メッセージの意味〕

印刷処理におけるデータ項目数の制限を超えました。

〔 利用者の処置 〕

アイテムセレクト機能により、データ項目数を 1 5 0 0 項目以内に選出すれば印刷できます。

50105:印刷の処理でメモリ不足が発生しました。印刷プレビューを実行している場合は、プレビューの処理を終了してください。

〔 メッセージの意味 〕

印刷処理中にメモリ不足が発生しました。

〔 利用者の処置 〕

印刷プレビュー表示時は、印刷プレビュー画面を終了させてください。

TF-LINDAを多重起動したり、他のアプリケーションを起動している場合、それらを終了してから再度実行してください。

50106:データの存在する項目が選択されていないので印刷できません。アイテムセレクトでデータの存在する項目を選択してください。

〔 メッセージの意味 〕

データファイルのレコード長を超える相対位置に位置づけられている項目のみであるため、印刷可能なデータがありません。アイテムセレクト機能により、データファイルのレコード長以下の項目を選択してください。

〔 利用者の処置 〕

アイテムセレクト機能により、データファイルのレコード長以下の項目を選択するか、選択を解除してください。

50107:印刷範囲の開始位置に、印刷の最大ページ数よりも大きな値が設定されています。印刷を行うページがありません。

〔 メッセージの意味 〕

同上。

〔 利用者の処置 〕

開始位置に正しい値を設定してください。

50108:印刷範囲の終了位置に、印刷の最大ページ数よりも大きな値が設定されています。

〔 メッセージの意味 〕

同上。

〔 利用者の処置 〕

終了位置に正しい値を設定してください。

51001:検索文字列が項目長を超えています。項目長以下の長さで指定してください。

〔メッセージの意味〕

検索文字列に指定した文字列長が検索対象である項目の長さを超えています。

〔利用者の処置〕

検索対象の項目長以下の文字列で指定してください。

51002:項目が指定されていません。項目名を指定してください。

〔メッセージの意味〕

検索対象の項目名が指定されていません。

〔利用者の処置〕

項目名を指定してください。

51003:指定された項目は存在しません。項目名を再指定してください。

〔メッセージの意味〕

指定した項目名は、存在しません。

〔利用者の処置〕

完全に一致する名前指定してください。繰り返しをもつ項目の場合、添字も記述する必要があります。

51004:検索文字列が指定されていません。検索文字列を指定してください。

〔メッセージの意味〕

検索文字列が指定されていません。

〔利用者の処置〕

検索文字列を指定してください。

51005:検索文字列の指定に誤りがあります。指定された項目の型に従って入力してください。

〔メッセージの意味〕

検索文字列に指定した文字列は、検索対象の項目のデータ型に合いません。

〔利用者の処置〕

検索対象の項目のデータ型に合わせた形式で指定してください。

51006:16進文字列が指定されていません。16進文字列を指定してください。

〔メッセージの意味〕

16進文字列が指定されていません。

〔利用者の処置〕

16進文字列を指定してください。

51007:16進文字列として不当な文字が指定されました。

〔メッセージの意味〕

16進数以外の文字が入力されました。

〔利用者の処置〕

「0～9、A～F」の文字で入力して下さい。

51008:指定された項目は検索の対象外です。項目名を再指定してください。

〔メッセージの意味〕

指定した項目の相対位置には、データが存在しません。

〔利用者の処置〕

レコード長（最大レコード長）の範囲内に定義されている項目を指定してください。

51009:指定された項目のデータは有効ではありません。レコード長を確かめてください。

〔メッセージの意味〕

指定した項目の相対位置には、データが存在しません。

〔利用者の処置〕

レコード長（可変長形式時、各レコードのレコード長）の範囲内に定義されている項目を指定してください。

51010:入力文字数が奇数です。2バイト単位で指定してください。

〔メッセージの意味〕

入力文字数が奇数です。

〔利用者の処置〕

2バイト単位で指定してください。

51011:文字' 'もしくは'\_'は検索文字列として指定できません。これらの文字は削除してください。  
[メッセージの意味]  
' ' (黒四角)と'\_' (半角アンダースコア)が検索文字列に含まれています。これらの文字は、検索文字列として指定することができません。  
[利用者の処置]  
検索文字列には、' ' (黒四角)と'\_' (半角アンダースコア)を含めないようにしてください。

51012:指定された項目は基本項目ではありません。アイテムセレクトで項目を有効にするか、項目名を再指定してください。  
[メッセージの意味]  
同上。  
[利用者の処置]  
基本項目を指定してください。

52001:項目が指定されていません。項目名を指定してください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

メッセージのとおり、対処してください。

52002:指定された項目が存在しないか、アイテムセレクトされていません。アイテムセレクトされていない場合は、アイテムセレクトより項目を選択して処理を行ってください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

メッセージのとおり、対処してください。

52003:相対レコード番号がソートのキーとして指定されました。相対レコード番号はソートのキーとして指定できません。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

特になし。

52004:指定された項目はユーザ指定のレコード長を超えています。ユーザ指定のレコード長に収まる項目を選択し直してください。

〔メッセージの意味〕

指定された項目は、データファイルのレコード長を超える領域に位置付けられています。

〔利用者の処置〕

データファイルのレコード長内に位置付けられている項目を選択してください。

52005:指定された項目は属性長が128バイトを超えています。属性長が128バイトを超える項目はソートのキーとして指定できません。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

特になし。

52006:ソートのキーとして指定できない属性の項目が指定されました。浮動小数点項目、ブール項目はソートのキーとして指定できません。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

特になし。

52007:ソート処理で詳細コード\*\*\*\*\*のエラーが発生しました。エラーの詳細は、PowerSortのヘルプより確認してください。ソートの実行に失敗しました。データはソートされません。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

メッセージのとおり、対処してください。

52008:PowerSortのロードに失敗しました。PowerSortがインストールされていることを確認して処理を行ってください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

PowerSORTが正しくインストールされていない可能性があります。PowerSORTを再インストール後、処理してください。

52100:データが全件以外の条件で抽出されています。ソートを実行すると現在のデータファイルに対して操作を保存できなくなります。別データファイルへ保存を行えばデータを保存することができます。ソートを実行してもよろしいですか？

〔メッセージの意味〕

同上。  
[ 利用者の処置 ]  
ソートを行う場合は「はい」を、取り消したい場合は「いいえ」を選択してください。

52101:ソート中 . . .  
[ メッセージの意味 ]  
同上。  
[ 利用者の処置 ]  
特になし。

52102:データはソートされました  
[ メッセージの意味 ]  
同上。  
[ 利用者の処置 ]  
特になし。

52103:データのソートに失敗しました  
[ メッセージの意味 ]  
同上。  
[ 利用者の処置 ]  
特になし。

53001:項目が指定されていません。項目名を指定してください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

メッセージのとおり、対処してください。

53002:アイテムセレクトされていない項目名を条件に指定しています。アイテムセレクトされた項目名を設定して処理を行ってください。

〔メッセージの意味〕

アイテムセレクトで選択されていない項目名を条件に指定しています。

〔利用者の処置〕

アイテムセレクトで選択している項目名を設定するか、アイテムセレクトで項目を再選択してください。

53003:相対レコード番号が条件として指定されました。相対レコード番号は条件として指定できません。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

特になし。

53004:指定された項目はユーザ指定のレコード長を超えています。ユーザ指定のレコード長に収まる項目を選択し直してください。

〔メッセージの意味〕

指定された項目は、データファイルのレコード長を超える領域に位置付けられています。

〔利用者の処置〕

データファイルのレコード長内に位置付けられている項目を選択してください。

53005:条件として指定できない属性の項目が指定されました。浮動小数点項目、ブール項目は条件として指定できません。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

特になし。

53006:文字項目の条件に対して、数値項目の比較演算子が設定されています。比較演算子を変更して処理を行ってください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

文字型項目用の比較演算子を指定してください。

53007:数値項目の条件に対して、文字項目の比較演算子が設定されています。比較演算子を変更して処理を行ってください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

数値型項目用の比較演算子を指定してください。

53008:条件値が設定されていません。条件値を設定してください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

条件値を指定してください。

53101:条件抽出ファイルのOPEN時に、ディスクの容量不足が発生しました。ディスクの容量を確認して処理を行ってください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

メッセージのとおり、対処してください。

53102:条件抽出ファイルのOPEN時に、ファイルアクセス禁止のエラーが発生しました。条件抽出ファイルの設定を確認して処理を行ってください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

条件抽出ファイルのアクセス権限を確認してください。

53103:条件抽出ファイルのOPEN時に、ファイル未定義のエラーが発生しました。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

53104:条件抽出ファイルのOPEN時に、不正パスのエラーが発生しました。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

53105:条件抽出ファイルのOPEN時に、オープンファイル数超過のエラーが発生しました。他のアプリケーションを終了して処理を行ってください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

メッセージのとおり、対処してください。

53106:条件抽出ファイルのOPEN時に、未定義エラーが発生しました。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

53107:条件抽出ファイルのOPEN時に、排他エラーが発生しました。条件抽出ファイルを使用しているアプリケーションを終了して処理を行ってください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

メッセージのとおり、対処してください。

53108:条件抽出ファイルのOPEN時にエラーが発生しました。条件抽出ファイルを確認して処理を行ってください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

53109:内部処理エラー。条件抽出ファイル共通ヘッダ部の領域が解放されていません。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

53110:内部処理エラー。条件抽出ファイルはOPENされていません。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

53111:内部処理エラー。条件抽出ファイル共通ヘッダ部の領域が取得されていません。

〔メッセージの意味〕

同上。



〔利用者の処置〕  
富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

53112:条件抽出ファイルより、共通ヘッダ部の読み込みに失敗しました。条件抽出ファイルを確認して処理を行ってください。

〔メッセージの意味〕  
同上。  
〔利用者の処置〕  
富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

53113:条件抽出ファイルとテストケースファイルのヘッダの共通情報が異なります。テストケース設定ダイアログよりCOBOLの情報を再析して、条件を新規に登録してください。

〔メッセージの意味〕  
同上。  
〔利用者の処置〕  
メッセージのとおり、対処してください。

53114:共通ヘッダ部を条件抽出ファイルへの書き込む際にディスクの容量不足が発生しました。ディスクの容量を確認して処理を行ってください。

〔メッセージの意味〕  
同上。  
〔利用者の処置〕  
メッセージのとおり、対処してください。

53115:共通ヘッダ部を条件抽出ファイルへの書き込みに失敗しました。条件抽出ファイルを確認して処理を行ってください。

〔メッセージの意味〕  
同上。  
〔利用者の処置〕  
富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

53116:内部処理エラー。条件抽出ファイル条件設定部の領域が解放されていません。

〔メッセージの意味〕  
同上。  
〔利用者の処置〕  
富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

53117:内部処理エラー。条件抽出ファイルのヘッダ部の領域の取得に失敗しました。

〔メッセージの意味〕  
同上。  
〔利用者の処置〕  
富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

53118:条件抽出ファイルより、条件設定部の読み込みに失敗しました。条件抽出ファイルを確認して処理を行ってください。

〔メッセージの意味〕  
同上。  
〔利用者の処置〕  
富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

53119:内部処理エラー。条件抽出ファイル条件設定部の領域が取得されていません。

〔メッセージの意味〕  
同上。  
〔利用者の処置〕  
富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

53120:条件設定部を条件抽出ファイルへの書き込む際にディスクの容量不足が発生しました。ディスクの容量を確認して処理を行ってください。

〔メッセージの意味〕  
同上。  
〔利用者の処置〕

メッセージのとおり、対処してください。

53121:条件設定部の条件抽出ファイルへの書き込みに失敗しました。条件抽出ファイルを確認して処理を行ってください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

53122:内部処理エラー。条件抽出ファイル共通ヘッダ部の領域が取得に失敗しました。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

53123:データ条件による抽出が指定されているのに、条件が1件も登録されていません。設定ボタンより条件設定ダイアログを起動して、条件を登録してください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

メッセージのとおり、対処してください。

53124:条件として指定された項目名はありますが項目の情報は異なります。設定ボタンより条件設定ダイアログを起動して、条件を登録しなおしてください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

メッセージのとおり、対処してください。

53125:指定された条件抽出ファイルは属性に問題があります。条件抽出ファイルを削除して処理を行ってください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

メッセージのとおり、対処してください。

53126:条件抽出ファイルに書き込み権がありません。条件抽出ファイルに書き込み権を与えて処理を行ってください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

メッセージのとおり、対処してください。

53127:条件抽出ファイルのバージョン情報が異なります。条件抽出ファイルを削除して処理を行ってください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

メッセージのとおり、対処してください。

53128:条件抽出ファイルには、アクセス権限が設定されていません。システム管理者に通知してテストケース格納フォルダ下のファイルのアクセス権限を取得してください。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

メッセージのとおり、対処してください。

60001:数値の変換でエラーが発生しました。変換できない値があります。

〔メッセージの意味〕

数値項目のデータチェックでエラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

データ内容を確認して下さい。

60002:数値変換エラーです。変換できない値があります。

〔メッセージの意味〕

数値項目のデータチェックでエラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

データ内容を確認して下さい。

60003:数値変換エラーです。符号の設定に誤りがあります。

〔メッセージの意味〕

数値項目の符号の設定方法に誤りがあります。

〔利用者の処置〕

符号の設定方法を確認して下さい。

60004:数値変換エラーです。小数点の設定に誤りがあります。

〔メッセージの意味〕

数値項目の小数点の設定方法に誤りがあります。

〔利用者の処置〕

小数点の設定方法を確認して下さい。

60005:数値変換エラーです。変換領域を超えました。

〔メッセージの意味〕

数値項目に範囲外の値が入力されました。

〔利用者の処置〕

属性に合わせた範囲内の値で入力して下さい。

60006:Nタイプの項目に1バイト系の値が指定されました。

〔メッセージの意味〕

日本語項目1バイトの文字が入力されました。

〔利用者の処置〕

2バイトの文字のみ入力して下さい。空白についても全角で入力して下さい。

60007:数値変換エラーです。符号の指定がありません。

〔メッセージの意味〕

符号付きの数値項目に符号が入力されていません。

〔利用者の処置〕

符号を入力して下さい。

60008:数値変換エラーです。数値以外の値が指定されました。

〔メッセージの意味〕

数値項目のデータチェックでエラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

入力したデータ内容を確認して下さい。

60009:数値変換エラーです。整数部の値が桁数を超えました。

〔メッセージの意味〕

少数点を含む数値項目の整数部桁数が許容範囲を超えました。

〔利用者の処置〕

入力したデータ内容を確認して下さい。

60010:数値変換エラーです。小数部の値が桁数を超えました。

〔メッセージの意味〕

少数点を含む数値項目の少数部桁数が許容範囲を超えました。

〔利用者の処置〕

入力したデータ内容を確認して下さい。

60011:数値変換エラーです。ゾーン部に変換できない値があります。

〔メッセージの意味〕

数値項目のデータチェックでエラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

入力したデータ内容を確認して下さい。

60020:数値変換エラーです。その他のエラーが発生しました。

〔メッセージの意味〕

数値項目のデータチェックでエラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

入力したデータ内容を確認して下さい。

60030:コード変換エラーです。変換できない不当な文字があります。

〔メッセージの意味〕

コード変換エラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

入力したデータ内容を確認して下さい。

60031:コード変換の出力で領域を超えました。

〔メッセージの意味〕

コード変換エラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

入力した文字数の確認をして下さい。

60039:コード変換エラーです。パラメタエラーが発生しました。

〔メッセージの意味〕

予想していないエラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

60099:数値変換エラーです。パラメタエラーが発生しました。

〔メッセージの意味〕

予想していないエラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

61001:COBOL解析ライブラリがインストールされていないか、インストール情報に誤りがあります。

〔メッセージの意味〕

COBOL解析ライブラリのインストールに失敗しています。

〔利用者の処置〕

COBOL解析ライブラリを再インストールしてください。

61002:COBOL解析ライブラリがインストールされていないか、インストール情報に誤りがあります。

〔メッセージの意味〕

COBOL解析ライブラリのインストールに失敗しています。

〔利用者の処置〕

COBOL解析ライブラリを再インストールしてください。

61003:COBOL解析ライブラリがインストールされていないか、インストール情報に誤りがあります。

〔メッセージの意味〕

COBOL解析ライブラリのインストールに失敗しています。

〔利用者の処置〕

COBOL解析ライブラリを再インストールしてください。

61004:COBOL解析ライブラリがインストールされていないか、インストール情報に誤りがあります。

〔メッセージの意味〕

COBOL解析ライブラリのインストールに失敗しています。

〔利用者の処置〕

COBOL解析ライブラリを再インストールしてください。

70002:テストケースファイルが他で使用されています。

〔メッセージの意味〕

テストケースファイルが他で使用されています。

〔利用者の処置〕

TF-LINDAを多重起動して同一のデータファイル名を扱っていないか確認してください。また、ネットワーク運用している場合、他の人が同一のデータファイル名を扱っていないか確認してください。

70003:テストケースファイルの読み込みに失敗しました。

〔メッセージの意味〕

テストケースファイルの読み込みに失敗しました。

〔利用者の処置〕

ディスクの容量不足かメモリ不足が考えられます。

ディスクの容量不足である場合、環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で別のフォルダを指定するか、ディスクの空き容量を増やしてから、再度処理して下さい。

メモリ不足の場合、他のアプリケーションが起動している場合は、それらを終了し、再度同じ処理を行って下さい。それでも同じ現象が発生する場合、Windows ( R ) /WindowsNT ( R ) 再起動後、再度同じ処理を行って下さい。

70004:テストケースファイルの書き込みに失敗しました。

〔メッセージの意味〕

テストケースファイルの書き込みに失敗しました。

〔利用者の処置〕

環境設定の「テストケースファイルを保存するフォルダ」で別のフォルダを指定するか、ディスクの空き容量を増やしてから、再度処理して下さい。

70006:テストケースファイルの作成に失敗しました。

〔メッセージの意味〕

テストケースファイルの作成に失敗しました。

〔利用者の処置〕

環境設定の「テストケースファイルを保存するフォルダ」で別のフォルダを指定するか、ディスクの空き容量を増やしてから、再度処理して下さい。

70008:テストケース作業ファイルの読み込みに失敗しました。

〔メッセージの意味〕

テストケース作業ファイルの読み込みに失敗しました。

〔利用者の処置〕

ディスクの容量不足かメモリ不足が考えられます。

ディスクの容量不足である場合、環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で別のフォルダを指定するか、ディスクの空き容量を増やしてから、再度処理して下さい。

メモリ不足の場合、他のアプリケーションが起動している場合は、それらを終了し、再度同じ処理を行って下さい。それでも同じ現象が発生する場合、Windows ( R ) /WindowsNT ( R ) 再起動後、再度同じ処理を行って下さい。

70009:テストケース作業ファイルの書き込みに失敗しました。

〔メッセージの意味〕

テストケース作業ファイルの書き込みに失敗しました。

〔利用者の処置〕

環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で別のフォルダを指定するか、ディスクの空き容量を増やしてから、再度処理して下さい。

70011:テストケース作業ファイルの作成に失敗しました。

〔メッセージの意味〕

テストケース作業ファイルの作成に失敗しました。

〔利用者の処置〕

環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で別のフォルダを指定するか、ディスクの空き容量を増やしてから、再度処理して下さい。

70012:アナライズオプションファイルの削除に失敗しました。削除してください。

〔メッセージの意味〕

作業ファイルの削除に失敗しました。



[ 利用者の処置 ]

ツール終了後、環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」内の作業ファイルを削除してください。

拡張子が「LNC」以外のファイルは削除して構いません。

70013:作業ファイルの削除に失敗しました。削除してください。

[ メッセージの意味 ]

作業ファイルの削除に失敗しました。

[ 利用者の処置 ]

ツール終了後、環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」内の作業ファイルを削除してください。

拡張子が「LNC」以外のファイルは削除して構いません。

70014:COBOL解析ライブラリが起動できません。(メモリ不足)

[ メッセージの意味 ]

メモリ不足のため、COBOL解析ライブラリを起動できませんでした。

[ 利用者の処置 ]

他のアプリケーションが起動している場合、それらを終了し、再度同じ処理を行って下さい。それでも同じ現象が発生する場合、Windows ( R ) /WindowsNT ( R ) 再起動後、再度同じ処理を行って下さい。

70015:COBOL解析ライブラリが起動できません。(ディスク容量不足)

[ メッセージの意味 ]

ディスク容量不足のため、COBOL解析ライブラリを起動できませんでした。

[ 利用者の処置 ]

環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で指定したフォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

70016:COBOL解析ライブラリの解析エラーが発生しました。エラーファイルを参照しますか？

[ メッセージの意味 ]

フォーマットファイル解析でエラーが発生しました。エラー情報ファイルを参照しますか。

[ 利用者の処置 ]

エラー情報ファイルを参照してフォーマットファイルを修正して下さい。

70017:DEPENDINGTON句を含むCOBOL登録集は扱うことができません。

[ メッセージの意味 ]

TF-LINDAではDEPENDINGTON句をもつCOBOL登録集を扱うことができません。

[ 利用者の処置 ]

COBOL登録集ファイルからDEPENDINGTON句を外して下さい。

70018:COBOL解析ライブラリの解析結果取得時のエラー(環境設定)

[ メッセージの意味 ]

フォーマットファイル解析結果の取得処理でエラーが発生しました。

[ 利用者の処置 ]

フォーマットファイルの記述に間違いが無いか確認して下さい。

70019:COBOL解析ライブラリの解析結果取得時のエラー(レベル番号)

[ メッセージの意味 ]

フォーマットファイル解析結果の取得処理でエラーが発生しました。

[ 利用者の処置 ]

フォーマットファイルの記述に間違いが無いか確認して下さい。

70020:COBOL解析ライブラリの解析結果取得時のエラー(データ型)

[ メッセージの意味 ]

フォーマットファイル解析結果の取得処理でエラーが発生しました。

[ 利用者の処置 ]

フォーマットファイルの記述に間違いが無いか確認して下さい。

70021:COBOL解析ライブラリの解析結果取得時のエラー(OCCURS句)

[ メッセージの意味 ]

フォーマットファイル解析結果の取得処理でエラーが発生しました。

[ 利用者の処置 ]

フォーマットファイルの記述に間違いが無いか確認して下さい。

#### 70022:COBOL解析ライブラリの解析結果取得時のエラー(REDEFINES句)

[メッセージの意味]

フォーマットファイル解析結果の取得処理でエラーが発生しました。

[利用者の処置]

フォーマットファイルの記述に間違いが無いか確認して下さい。

#### 70023:COBOL解析ライブラリの解析結果取得時のエラー(桁数)

[メッセージの意味]

フォーマットファイル解析結果の取得処理でエラーが発生しました。

[利用者の処置]

フォーマットファイルの記述に間違いが無いか確認して下さい。

#### 70024:COBOL解析ライブラリの解析結果取得時のエラー(バイト長)

[メッセージの意味]

フォーマットファイル解析結果の取得処理でエラーが発生しました。

[利用者の処置]

フォーマットファイルの記述に間違いが無いか確認して下さい。

#### 70025:COBOL解析ライブラリの解析結果取得時のエラー(相対位置)

[メッセージの意味]

フォーマットファイル解析結果の取得処理でエラーが発生しました。

[利用者の処置]

フォーマットファイルの記述に間違いが無いか確認して下さい。

#### 70026:LINDAで扱えるデータ項目数が制限を超えています。

[メッセージの意味]

TF-LINDAで扱うことのできる項目数を超えています。

[利用者の処置]

TF-LINDAで扱うことのできる項目数は、9998項目です。またOCCURS句がふくまれている場合、展開した形式でのカウントとなります。

#### 70027:メモリ不足が発生しました。使用しないアプリケーションを終了させてください。

[メッセージの意味]

メモリ不足が発生しました。

[利用者の処置]

他の使用しないアプリケーションを終了して下さい。

#### 70028:メモリ不足が発生しました。使用しないアプリケーションを終了させてください。

[メッセージの意味]

メモリ不足が発生しました。

[利用者の処置]

他の使用しないアプリケーションを終了して下さい。

#### 70029:COBOLソース作業ファイルのオープンに失敗しました。作業フォルダを確認してください。

[メッセージの意味]

COBOLプログラムファイル用の作業ファイルのオープン処理においてエラーが発生しました。

[利用者の処置]

環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で別のフォルダを指定するか、ディスクの空き容量を増やしてから、再度処理して下さい。

#### 70030:COBOLソース作業ファイルの読み込みに失敗しました。作業フォルダを確認してください。

[メッセージの意味]

COBOLプログラムファイル用の作業ファイルの読み込み処理においてエラーが発生しました。

[利用者の処置]

環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で別のフォルダを指定するか、ディスクの空き容量を増やしてから、再度処理して下さい。

#### 70031:COBOLソース作業ファイルの書き込みに失敗しました。作業フォルダを確認してください。

[メッセージの意味]

COBOLプログラムファイル用の作業ファイルの書き込み処理においてエラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で別のフォルダを指定するか、ディスクの空き容量を増やしてから、再度処理して下さい。

70033:COBOLソース作業ファイルの作成に失敗しました。作業フォルダを確認してください。

〔メッセージの意味〕

COBOLプログラムファイル用の作業ファイルの作成処理においてエラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で別のフォルダを指定するか、ディスクの空き容量を増やしてから、再度処理して下さい。

70039:COBOL登録集のレベル番号 6 6 ・ 8 8 の項目を無視して解析を行いました。

〔メッセージの意味〕

COBOL登録集ファイルにレベル番号66・88項目が定義されている場合、無視します。

〔利用者の処置〕

特になし。

70040:COBOL登録集のレコード長が制限値(32,760バイト)を超えています。

〔メッセージの意味〕

レコード長が32760バイトを超えるCOBOL登録集は扱えません。

〔利用者の処置〕

特になし。

70041:内部ブール項目に対するOCCURS句はサポートしていません。COBOL登録集を変更してください。

〔メッセージの意味〕

OCCURS句指定されている内部ブール項目(BIT)を含むCOBOL登録集は扱えません。

内部ブール項目が従属している集団項目にOCCURS句指定されている場合も同様です。

〔利用者の処置〕

特になし。

70042:テストケースファイルではないファイルがテストケースファイルとして指定されています。

〔メッセージの意味〕

環境設定の「テストケースファイルを保存するフォルダ」で指定したフォルダ内にデータファイル名+.LNCという名前のファイルが存在しますが、TF-LINDAで扱える形式ではありません。

〔利用者の処置〕

環境設定の「テストケースファイルを保存するフォルダ」で指定したフォルダ内のデータファイル名+.LNCという名前のファイルを削除後、再度処理してください。

70051:COBOL97製品のライブラリの取り込みに失敗しました。

〔メッセージの意味〕

COBOL97のインストールに失敗しています。

〔利用者の処置〕

COBOL97をインストールしてください。

70052:項目情報データベースの生成処理でエラーが発生しました。

〔メッセージの意味〕

フォーマットファイル解析処理の項目情報データベース生成過程でエラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」で別のフォルダを指定するか、ディスクの空き容量を増やしてから、再度処理してください。

70053:項目情報の取得に失敗しました。

〔メッセージの意味〕

フォーマットファイル解析処理のデータベースから情報取得する過程でエラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

メモリ不足が考えられます。他の使用しないアプリケーションを終了後、再度処理してください。

70054:項目情報の取得に失敗しました。DLLのバージョンが一致しません。

〔メッセージの意味〕

インストールされているCOBOL97は、サポート外のバージョンレベルのものです。



〔 利用者の処置 〕

ソフトウェア説明書に記述されているバージョンレベルのCOBOL97をインストールする。

71001:メモリ領域の取得に失敗しました。

〔 メッセージの意味 〕

TF-LINDAの動作で必要とするメモリ領域が確保できませんでした。

〔 利用者の処置 〕

他のアプリケーションが起動している場合、それらを終了し、再度同じ処理を行って下さい。それでも同じ現象が発生する場合、Windows ( R ) /WindowsNT ( R ) 再起動後、再度同じ処理を行って下さい。

71002:広域メモリ域の取得に失敗しました。

〔 メッセージの意味 〕

TF-LINDAの動作で必要とするメモリ領域が確保できませんでした。

〔 利用者の処置 〕

他のアプリケーションが起動している場合、それらを終了し、再度同じ処理を行って下さい。それでも同じ現象が発生する場合、Windows ( R ) /WindowsNT ( R ) 再起動後、再度同じ処理を行って下さい。

71005:ファイルの読み込む情報はありません。

〔 メッセージの意味 〕

読み込んだファイルには、テストケース情報がありませんでした。

〔 利用者の処置 〕

テストケースファイル(環境設定の「テストケースファイルを保存するフォルダ」で指定したフォルダの中の「データファイル名+ “.LNC ” 」)を削除して下さい。

71006:OCCURS展開数に誤りがあります。(システムエラー)

〔 メッセージの意味 〕

このCOBOL登録集は、サポートできていません。

〔 利用者の処置 〕

富士通技術員 ( SE ) に連絡して下さい。

71007:被定義項目が設定されていません。被再定義項目を正しく設定してください。

〔 メッセージの意味 〕

このCOBOL登録集は、サポートできていません。

〔 利用者の処置 〕

富士通技術員 ( SE ) に連絡して下さい。

71010:OCCURS項目の展開に失敗しました。

〔 メッセージの意味 〕

このCOBOL登録集は、サポートできていません。

〔 利用者の処置 〕

富士通技術員 ( SE ) に連絡して下さい。

71011:階層の設定に失敗しました。

〔 メッセージの意味 〕

このCOBOL登録集は、サポートできていません。

〔 利用者の処置 〕

富士通技術員 ( SE ) に連絡して下さい。

71014:01レベルに対する再定義はサポートしていません。COBOL登録集を変更してください。

〔 メッセージの意味 〕

COBOL登録集ファイル内に01レベルに対する再定義項目が定義されていると扱えません。

〔 利用者の処置 〕

01レベルに対する再定義項目を外して下さい。

71015:OCCURS展開項目数が制限値を超えました。COBOL登録集を変更してください。

〔 メッセージの意味 〕

OCCURS句展開項目数が制限を超えました。

〔 利用者の処置 〕

特になし。

72001:メモリ領域の取得に失敗しました。

**[メッセージの意味]**

TF-LINDAの動作で必要とするメモリ領域が確保できませんでした。

**[利用者の処置]**

他のアプリケーションが起動している場合、それらを終了し、再度同じ処理を行って下さい。それでも同じ現象が発生する場合、Windows ( R ) /WindowsNT ( R ) 再起動後、再度同じ処理を行って下さい。

**72002:広域メモリ域の取得に失敗しました。**

**[メッセージの意味]**

TF-LINDAの動作で必要とするメモリ領域が確保できませんでした。

**[利用者の処置]**

他のアプリケーションが起動している場合、それらを終了し、再度同じ処理を行って下さい。それでも同じ現象が発生する場合、Windows ( R ) /WindowsNT ( R ) 再起動後、再度同じ処理を行って下さい。

**72008:データファイルではありません。データファイルを指定してください。**

**[メッセージの意味]**

指定されたファイルはCOBOL85/97用のデータファイルでは、ありません。

**[利用者の処置]**

COBOL85/97用のデータファイルを指定してください。

**72009:データファイルに書き込み権限がありません。**

**[メッセージの意味]**

指定されたデータファイルには、書き込み権限がありません。

**[利用者の処置]**

データファイルに書き込み権限を与えて下さい。

**72010:COBOLファイルマネージャ初期化でエラーが発生しました。**

**[メッセージの意味]**

COBOLランタイムライブラリの初期化でエラーが発生しました。

**[利用者の処置]**

Windows ( R ) /WindowsNT ( R ) を再起動して、再度同じ処理を行って下さい。

**72011:COBOLファイルマネージャ終了化でエラーが発生しました。**

**[メッセージの意味]**

COBOLランタイムライブラリの終了でエラーが発生しました。

**[利用者の処置]**

Windows ( R ) /WindowsNT ( R ) を再起動して、再度同じ処理を行って下さい。

**72012:索引ファイルのレコードキー数が不整合です。**

**[メッセージの意味]**

レコードキー数のチェックで不整合を検出しました。

このデータファイルは、サポートできていません。

**[利用者の処置]**

富士通技術員 ( SE ) に連絡して下さい。

**72013:データファイルのオープンに失敗しました。**

**[メッセージの意味]**

データファイルをオープンできませんでした。

**[利用者の処置]**

データファイル情報に設定した内容が正しいか確認してください。

**72014:データファイルの読み込みに失敗しました。**

**[メッセージの意味]**

データファイルを読み込めませんでした。

**[利用者の処置]**

データファイル情報に設定した内容が正しいか確認してください。

**72015:レコードキー情報の取得に失敗しました。**

**[メッセージの意味]**

レコードキー情報の取得に失敗しました。

**[利用者の処置]**

指定したデータファイルが索引編成ファイルかどうか確認して下さい。

72016:ファイルの終わりを読み込みました。抽出レコード番号を正しく設定して下さい。

〔メッセージの意味〕

データファイルを最後まで読み込みましたが、抽出条件に対応するレコードはありませんでした。

〔利用者の処置〕

抽出条件を確認して下さい。

72017:データファイルの作成に失敗しました。

〔メッセージの意味〕

データファイルの作成に失敗しました。

〔利用者の処置〕

ディスク容量を確認してください。

72018:データファイルの書き込みに失敗しました。

〔メッセージの意味〕

データファイルの書き込みに失敗しました。

〔利用者の処置〕

ディスク容量を確認してください。

72019:データファイルのクローズに失敗しました。

〔メッセージの意味〕

データファイルのクローズに失敗しました。

〔利用者の処置〕

索引ファイルの場合、COBOL85/97添付のファイルユーティリティにより、データファイルを復旧させる必要があります。

72020:パラメタに誤りがあります。正しいパラメタを設定してください。

〔メッセージの意味〕

内部処理で予想していないエラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

72021:読み飛ばしのモード設定に誤りがあります。正しいモードを設定してください。

〔メッセージの意味〕

内部処理で予想していないエラーが発生しました。

〔利用者の処置〕

富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

72022:バックアップファイルの作成に失敗しました。

〔メッセージの意味〕

バックアップファイルの作成に失敗しました。

〔利用者の処置〕

環境設定の「バックアップファイルを作成するフォルダ」で指定したフォルダが存在するドライブの容量不足が考えられます。空き容量を確認してください。

72023:作業ファイルの削除に失敗しました。

〔メッセージの意味〕

作業ファイルの削除に失敗しました。

〔利用者の処置〕

ツール終了後、環境設定の「LINDAで使用する作業ファイルを作成するフォルダ」内の作業ファイルを削除してください。

拡張子が「LNC」以外のファイルは削除して構いません。

72025:指定されたデータファイルは既に使用されています。

〔メッセージの意味〕

指定されたデータファイルは、他のアプリケーションで使用されています。

〔利用者の処置〕

他のアプリケーションを終了して下さい。

72026:格納順範囲指定の開始レコード番号を正しく設定してください。

〔メッセージの意味〕

開始レコード番号の値に誤りがあります。

〔 利用者の処置 〕

1～存在するレコード数の範囲内で指定して下さい。

72027:索引編成ファイルのレコードキー値が重複しています。

〔 メッセージの意味 〕

索引編成ファイルのキーデータが重複しています。

〔 利用者の処置 〕

特になし。

72029:ファイルアクセスエラーが発生しました。

〔 メッセージの意味 〕

データファイルを新規作成できませんでした。

〔 利用者の処置 〕

ディスク容量やアクセス権限を確認してください。

72030:条件にヒットするレコードが存在しません。条件を変更して抽出を行ってください。

〔 メッセージの意味 〕

同上。

〔 利用者の処置 〕

メッセージのとおり、対応してください。

72031:データファイルにはコード種別が設定されていません。テストケースを再設定して処理を行ってください。

〔 メッセージの意味 〕

指定されたデータファイルには、コード情報がありません。よって、Unicodeの行順編成ファイルではありません。

〔 利用者の処置 〕

テストケース設定画面でデータファイルに関する情報を再設定してください。

73001:ハンドルに誤りがあります。正しいハンドルを設定してください。

〔 メッセージの意味 〕

予想していないエラーが発生しました。

〔 利用者の処置 〕

富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

73002:領域のポインタに誤りがあります。正しい領域ポインタを設定してください。

〔 メッセージの意味 〕

予想していないエラーが発生しました。

〔 利用者の処置 〕

富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

73003:TF-LINDAの内部処理でメモリ不足が発生しました。TF-LINDAを終了してください。他のアプリケーションを終了してメモリを解放した後にTF-LINDAを再起動してください。

〔 メッセージの意味 〕

同上。

〔 利用者の処置 〕

メッセージのとおり、対応してください。

74001:領域の取得に失敗しました。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

74002:ファイルのオープンに失敗しました。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

74003:ファイルの読み込みに失敗しました。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

74004:ファイル操作に失敗しました。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

74005:書式情報ファイルのバージョン情報が一致しません。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

74006:項目に書式が設定されていません。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

書式を設定してください。

74007:属性に誤りがあります。

〔メッセージの意味〕

項目属性に反する書式が指定されました。

〔利用者の処置〕

項目属性に合った書式を設定してください。

74008:桁数に誤りがあります。

〔メッセージの意味〕

項目属性に反する桁数（書式）が指定されました。

〔利用者の処置〕

項目属性に合った桁数（書式）を設定してください。

74009:属性文字に誤りがあります。

〔メッセージの意味〕

項目属性に反する書式が指定されました。

〔利用者の処置〕

項目属性に合った書式を設定してください。

74010:開始値、終了値または増分値に設定された数値の桁数に誤りがあります。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

制限値以内で設定してください。

74011:書式に設定できる固定部の最大数を超えています。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

固定部の制限数以内で設定してください。

74012:書式に設定できる可変部の最大数を超えています。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

可変部の制限数以内で設定してください。

74013:開始値に設定した可変部の数と書式に設定された可変部の数が一致しません。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

書式に指定した可変部数と開始値に設定した値の数を確認してください。

74014:終了値に設定した可変部の数と書式に設定された可変部の数が一致しません。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

書式に指定した可変部数と終了値に設定した値の数を確認してください。

74015:開始値に設定した符号に誤りがあります。

〔メッセージの意味〕

書式と開始値とで符号情報が不整合です。

〔利用者の処置〕

書式と開始値の符合について確認してください。

74016:終了値に設定した符号に誤りがあります。

〔メッセージの意味〕

書式と終了値とで符号情報が不整合です。

〔利用者の処置〕

書式と終了値の符合について確認してください。

74017:増分値と開始値、終了値の値が不整合です。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

それぞれの値を確認してください。

74018:増分値の値が設定できる範囲を超えています。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

- 9 から + 9 の範囲で指定してください。

74019:設定文字と書式属性が一致しません。

〔メッセージの意味〕

書式の型と開始値・終了値の型が一致しません。

〔利用者の処置〕

書式の型に合った開始値・終了値を設定してください。

74020:増分値に誤りがあります。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

- 9 から + 9 の範囲で指定してください。

74023:項目情報をファイルより取得できませんでした。



〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

74024:文字に小数部を含む数値は設定できません。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

小数部を指定しないでください。

74025:書式の桁数と開始値、または終了値の文字列長が一致しません。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

書式・開始値・終了値の桁数を確認してください。

74026:小数部を設定できない属性です。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

小数部を指定しないでください。

74027:小数点の位置に誤りがあります。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

小数部の位置を確認してください。

74028:数値が設定されていません。

〔メッセージの意味〕

数値型項目の開始値・終了値に文字が指定されました。

〔利用者の処置〕

数値を指定してください。

74029:ファイルの書き込みに失敗しました。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

空き容量が不足している可能性があります。ディスク容量を確認してください。

74030:ディスクの容量が不足しています。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

空き容量が不足している可能性があります。ディスク容量を確認してください。

74031:データファイルを作れませんでした。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

空き容量が不足している可能性があります。ディスク容量を確認してください。

74032:選択項目と参照項目は同じものです。

〔メッセージの意味〕

参照項目として現在選択している項目が設定されました。

〔利用者の処置〕

参照項目として別の項目を設定してください。

74033:ファイル名に誤りがあります。

〔メッセージの意味〕

同上。  
[ 利用者の処置 ]  
富士通技術員（SE）に連絡して下さい。

74035:固定文字は設定できません。  
[ メッセージの意味 ]  
日付け属性の場合は書式に固定文字は設定できません。  
[ 利用者の処置 ]  
書式に日付属性を設定した場合は、固定文字を設定しないでください。

74038:属性が異なるため参照できません。  
[ メッセージの意味 ]  
同上。  
[ 利用者の処置 ]  
同じ属性の項目を参照項目として設定してください。

74039:符号の付加属性が異なるため参照できません。  
[ メッセージの意味 ]  
同上。  
[ 利用者の処置 ]  
参照元の符号に関する属性と同一の属性もつ項目を参照項目に設定する必要があります。

74040:桁数が大きいため参照できません。  
[ メッセージの意味 ]  
参照元より参照先の桁数が大きいため参照できません。  
[ 利用者の処置 ]  
参照元より桁数が短い項目を参照項目として設定してください。

74041:参照項目を指定してください。  
[ メッセージの意味 ]  
同上。  
[ 利用者の処置 ]  
参照項目を設定してください。

74042:書式の設定に誤りがあります。  
[ メッセージの意味 ]  
同上。  
[ 利用者の処置 ]  
書式を正しく設定してください。

74043:書式が設定されていません。  
[ メッセージの意味 ]  
同上。  
[ 利用者の処置 ]  
書式を設定してください。

74044:開始値が設定されていません。  
[ メッセージの意味 ]  
同上。  
[ 利用者の処置 ]  
開始値を設定してください。

74045:終了値が設定されていません。  
[ メッセージの意味 ]  
同上。  
[ 利用者の処置 ]  
終了値を設定してください。

74046:増分値が設定されていません。  
[ メッセージの意味 ]  
同上。



〔 利用者の処置 〕  
増分値を設定してください。

74047:符号なし項目に符号あり書式は設定できません。  
〔 メッセージの意味 〕

同上。  
〔 利用者の処置 〕  
符号なし書式を設定してください。

74048:符号あり数値属性は書式の先頭に設定する必要があります。  
〔 メッセージの意味 〕

同上。  
〔 利用者の処置 〕  
符号あり数値属性は、書式の先頭に設定してください。

74049:項目名が入力されていません。  
〔 メッセージの意味 〕

同上。  
〔 利用者の処置 〕  
項目名を指定してください。

74050:指定された項目は、選択されていないか、存在しない項目です。選択された項目がわからない場合は、参照ボタンを押して一覧から選択してください。

〔 メッセージの意味 〕  
同上。  
〔 利用者の処置 〕  
存在する項目名を指定してください。

74051:書式情報はすべて削除されています。書式情報ファイルを削除しますか？  
〔 メッセージの意味 〕

書式情報ファイルに設定されていた項目の書式情報が項目一覧よりすべて削除されているため、書式情報ファイルに書き込む情報がない。  
〔 利用者の処置 〕  
「はい」を選択してください。

74052:数値の最大桁数の18桁以内で設定出来る数値の範囲を超えたため、数値のデータ作成はできません。

〔 メッセージの意味 〕  
数値の最大桁数は18桁です。その桁数内で設定出来る数値の範囲を超えています。  
〔 利用者の処置 〕

生成する数値が18桁より大きくならないように、開始値、終了値、増分値を設定する。  
符号なし数値属性の場合に生成する値がマイナス値にならないように、開始値、終了値、増分値を設定する。

74053:符号なし書式に符号は設定できません。  
〔 メッセージの意味 〕

同上。  
〔 利用者の処置 〕  
特になし。

74054:すでに書式例に設定されている書式です。  
〔 メッセージの意味 〕

同上。  
〔 利用者の処置 〕  
特になし。

74055:デフォルトの書式例は削除できません。  
〔 メッセージの意味 〕

最初からツールに登録されている書式例は削除できません。  
〔 利用者の処置 〕  
特になし。

74056:開始値に設定できる範囲を超えています。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

128バイト以内で設定してください。

74057:終了値に設定できる範囲を超えています。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

128バイト以内で設定してください。

74058:固定文字に符号は設定できません。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

固定文字に符号を設定しないでください。

74059:書式の桁数に誤りがあります。文字属性に符号付き書式を設定している場合は符合域が必要なため、書式に設定できる桁数は属性長から 1 桁引いた値です。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

メッセージのとおり、対処してください。

74060:書式の可変部の桁数が最大桁数を超えました。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

書式の桁数を確認してください。

74061:開始値または終了値に設定された日付の桁数に誤りがあります。

〔メッセージの意味〕

同上。

〔利用者の処置〕

書式の桁数と合わせてください。

# ホストデータ変換ツール

## 機能概要

TF-LINDA ホストデータ変換ツールでは、ホスト版TF-LINDAのデータ転送機能によりダウンロードしたファイルを、Windows(R)版COBOL97で扱えるデータ形式に変換します。

## 特徴

TF-LINDA ホストデータ変換ツールでは、FIMPORTコマンドがサポートしていない以下の点に対応しています。

- レコード長が4,096バイトを超えるデータファイル
- レコード形式が可変長のデータファイル

ホスト側とパソコン側とで可変長ファイルの形式が異なるため、特別な変換が必要です。

## データファイル形式

TF-LINDA ホストデータ変換ツールで扱えるファイル形式を以下に示します。

- 順編成ファイル（固定長 / 可変長どちらでも可能）

## 操作手順

TF-LINDA ホストデータ変換ツールの操作手順を以下に示します。

1. 「ファイル(F)」メニューの「データファイル変換(C)」を選択します。
2. 「ホストデータ変換情報設定 1/2」画面が表示されます。

この画面では、以下の項目を設定します。

- 変換元ファイル名
- 変換先ファイル名
- 変換完了後、変換元ファイルを削除する

設定が完了したら、「次へ」ボタンを押下します。

3. 「ホストデータ変換情報設定 1/2」画面で設定した内容に問題なければ、「ホストデータ変換情報設定 2/2」画面が表示されます。

この画面では、以下の項目を確認できます。

- 変換元ファイル名
- 変換先ファイル名
- データファイル情報（ファイル編成、レコード形式、最大レコード長、最小レコード長）

設定に間違いがなければ、「完了」ボタンを押下します。 次へ進む。

- 設定が間違っていれば、「戻る」ボタンを押下します。 「ホストデータ変換情報設定 1/2」画面へ戻ります。

4. データ変換処理が開始し、「データ変換中です」メッセージが表示されます。
5. 変換処理が正常終了すると、「変換処理が正常終了しました」メッセージが表示されます。

## 画面説明

ホストデータ変換情報設定 1/2

ホストデータ変換情報設定 1/2

ファイルに関する情報設定

変換元ファイル名(O) :

D:\Cnvtool\_test\new\st001.lnw 参照(O)...

変換先ファイル名(E) :

D:\Cnvtool\_test\new\st001.dat 参照(P)...

☐ 変換完了後、変換元ファイルを削除する(S)

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル ヘルプ

#### 変換元ファイル名

ホスト版TF-LINDAのデータ転送機能によりダウンロードしたファイル (\*.LNW) を指定します。

#### 変換先ファイル名

変換処理によって生成するデータファイル名を指定します。

#### 変換完了後、変換元ファイルを削除する

チェックすると変換処理が正常終了した際、変換元ファイルを削除します。

ホストデータ変換情報設定 2/2

設定に間違いありませんか？

変換元ファイル名: D:\Cnvtool\_test\new\st001.lnw

変換先ファイル名: D:\Cnvtool\_test\new\st001.dat

データファイル情報

ファイル編成:	順編成	レコード形式:	固定長形式
レコード長(最大):	1000	最小レコード長:	-

< 戻る(B)      完了      キャンセル      ヘルプ

#### 変換元ファイル名

前画面で設定した変換元ファイル名を表示します。

#### 変換先ファイル名

前画面で設定した変換先ファイル名を表示します。

#### データファイル情報 (ファイル編成、レコード形式、最大レコード長、最小レコード長)

前画面で設定した変換元ファイルが保持している情報を表示します。